一ハ十年以内ニ埋築シテ新地トスルコトガ出來ルカラ、十年ノ内ニ九十五平方哩ノ土地ヲ埋メ立テ耕地ニ換ヘルコトガ出來ル譯デアル。ソシテ一平方哩ハ六百四十「エーカー」デ一「エーカー」ハ六畝ニ當ルカラ九十五平方哩ハ三十六萬五千八百畝ニ相當シ、此ノ地方ノ耕地ハ通常一畝五十元以上デアルカラ、假リニ一畝平均五十元トシテ計算シテモ三十六萬四千八百畝ノ値段ハ一千八百二十四萬元トナリ、此ノ「デルタ」ニ於ケル航行及水災防止ノ爲メニ水路ヲ改良スル費用ノ償還ニ對シテ大イニ助ケニナル譯デアル。

第二、西　江

現在ノ西江航路ニハ比較的大型ノ汽船ガ廣州市ヲ距ル二百二十五哩ノ梧州迄達スルコトガ出來、小蒸汽船ハ廣州市ヲ去ル五百哩ノ南寧迄遡航スルコトガ出來ル。又小舟ハ夏冬ノ差別ナク各支流ヲ遡ツテ西ハ雲南省境迄、北ハ貴州省境迄、東北ハ興安運河ヲ踰エテ湖南及長江ノ流域ニ通ズルコトガ出來ル。

航行ノ爲メニ西江ヲ改良スルニ當ツテ余ハ其ノ工事ヲ次ノ四ツニ細分スル。

一、三水カラ梧州ニ到ル迄

二、梧州カラ柳江口ニ到ル迄

三、桂江卽チ西江ノ北支流ヲ梧州カラ溯航シテ桂林ノ上流ニ到ル迄

四、南支流ヲ潯州カラ南寧ニ到ル迄

其一――三水カラ梧州ニ到ル迄。西江ノ此ノ部分ノ水路ハ非常ニ深ク、數箇所ヲ除ク外ハ吃水十呎以下ノ船舶ノ航行ニ大シタ改良ヲ加ヘル必要ナク、中流ニアル巖石ヲ爆破シテ取除キ、土沙質ノ河岸ヤ汎濫個所ハ水中柵堤デ水流ヲ誘導シ、水深ヲ一樣ニスルト共ニ流速ヲモ增大セシムルコトニスレバ一年中確實ナル航路ヲ保持スルコトガ出來、西江ヲ上下スル貨物ノ增大ニヨツテ余ノ提議ニ係ル改良ニ要スル一切ノ費用ヲ償還スルコトガ出來ルノデアル。

其二――梧州カラ柳江口ニ到ル迄。柳江口ニハ開港場ヲ建設シテ紅水江及柳江ノ淺水航路ト海洋ニ通ズル航路トヲ聯絡スベキデ、此ノ兩江ハ廣西ノ西北部ト貴州ノ東南部ノ豐富ナル鑛產地域ヲ貫流シテ居ルモノデアル。ソシテ此ノ開港場ハ潯州ヲ去ル五十哩ノ處ニ建設スベキデアルガ、潯州ハ柳江ト南寧支流ノ會流點ニアルカラコノ改良工事デ力ヲ注グベキ處ハ僅ニ五十哩アルダケデアル。何トナレバ梧州カラ潯州ニ到ル部分ハ南寧港灣計畫中ニ包含サレテ居ルカラデアル。尙吃水十呎以上ノ船舶ヲ航行サセル爲メニハドウシテモ堰堤ヲ築イテ閘門ヲ設ケネバナラヌガ、堰堤ヲ築ケバ同時ニ水力電氣ヲ發生セシメ得ルノデアル。

其三――桂江卽チ西江ノ北支流ニヨツテ梧州カラ溯航シテ桂林ノ上流ニ到ル迄。桂江ハ比較的水ガ淺ク水流モ大分速カデアルカラ改良ハ其ノ他ノ水路ニ比ベレバ余程困難デアルガ、其ノ代リニ南方水路計畫中デモ最モ有利ナ事業ノ一ツデアル。何トナレバ本江ハ單ニ此ノ地方ノ富饒ナル地域ノ運輸ヲ司ルバカリデナク、又楊子江流域ト西江流域トノ間ニ貨物ヲ積載シテ往來スル大道タラシメ得ルカラデアル。本工事ハ梧州分岐點カラ桂林ニ到リ、之カラ更ニ溯江シテ興安運河ニ達シ流ヲ下ツテ湘江ニ入リ之ニ因ツテ長江ニ達スル間ニ多數ノ堰堤ト閘門ヲ築イテ通行ノ船舶ヲ分水界ノ運河迄上ラセ、ソレカラ更ニ又多數ノ堰堤閘門ヲ築造シテ湘江ノ水準迄下ラセネバナラヌノデアル。コノ堰堤閘門築造ニ要スル經費ハ詳細調査ノ上デナケレバ豫算スルコトガ出來ナイガ、余ハコノ計畫ハ決シテ缺損ヲ來スモノデハナイト確信シテ居ル。

其四――潯州カラ南寧ニ到ル迄。コノ右江ノ一部分ハ上ハ南寧ニ到ル迄小蒸汽船ヲ通ジ得ル。南寧ハ廣西省南部ノ商業ノ中心デアツテ、南寧カラハ右江ヲ遡ツテ雲南省ノ東境迄通ズルコトガ出來、左江ヲ遡レバ佛領東京ノ北境迄通ジ得ルカラ、若シ南寧迄水路ヲ改良スレバ、南寧ハ中國ノ西南隅ナル雲南省ノ全部、貴州省ノ大半並ニ廣西省ノ一半ニ誇ル鑛產ノ豐富ナ地域ニ最モ近イ深水ノ開港場トナルノデアル。南寧ノ附近ニモ亦「アンチモニー」、錫、石炭、鐵等ノ鑛物ヲ多量ニ產出シ同時ニ農產ニモ富ンデ居ルカラ、南寧ヲ經營シテ深水開港場交通系統ノ頂點トスレバ必ズ有利ノ計畫タルヲ失ハナイ。南寧ニ到ル迄ノ水路ヲ改良スルニハ中途ニ少數ノ堰堤ト閘門ヲ設ケレバ吃水十呎ノ船ハ通航サセルコトガ出來、同時ニ發電ニモ利用スルコトガ出來ル。本工事ノ費用モ亦詳細ナル測量ノ上デナケレバ豫算スルコトガ出來ナイガ、之ヲ梧州カラ興安運河迄ノ桂江ヲ改良スル費用ニ比ブレバズツト少イモノデアラウ。

第三、北江

北江ハ三水カラ韶州ニ到ル迄ノ約百四十哩デコノ河ノ大部分ハ山地ニ夾マレテ居ルガ、清遠峽ヲ出テカラハ河流ハ廣豁ナル地區ニ入リ、廣州平原ト連續シテ居リ始終危險ナル水災ニ見舞ハレル。卽チ西南ノ下流ノ水路ガ梗塞シテカラハ峽カラ西南迄ノ河身ハ遂年淺クナリ、左岸ノ平野ニ沿ウ堤防ハ時々決潰シ廣州市以北ノ平原地帶ハ度々水災ヲ蒙ツテ居ル。ダカラコノ部分ノ河流ヲ整理スルニハ次ノ二點ヲ考慮スベキデアル。卽チ第一ニハ洪水ヲ防止スルコト。第二ニハ航路ヲ改良スルコトデ、第一ハ河ヲ浚渫シテ深クスルヨリ外ニ方法ハナイ。廣州カラ海ニ出ル水路及港面並ニ廣東「デルタ」ヲ改良スル時ニ余ハ一ツノ深水水路ヲ開鑿シテ深海カラ西南迄直達セシムベキコトヲ計畫シテ置イタガ、今コノ北江ノ下流ヲ改良スルニハ余ハコノ工事ヲ延長シ溯江セシメ

テ清遠峽迄達セシメ、水深十五尺乃至二十尺ヲ有スル深水路ヲ造ラントスルノデアルガ、コノ水路ヲ浚渫スルニハ或ハ人工ヲ用ヒ或ハ自然ノ力ヲ利用スレバコノ河底ハ浚渫サレテ深クナルカラ、今日ノ堤防ノ高サデモコノ平原ヲ保護シテ水災ニ遇ハセナイ樣ニスルコトガ出來ル。

第二ノ點ニ就テハ、以上ノ計畫ニヨツテ既ニ水災防止ノ爲メニ西南カラ清遠峽ニ到ル間ノ北江ヲ浚渫シテ了ヘバ、此間航行問題モ同時ニ解決サレルカラ、ココニ研究ヲ要スルモノハソノ上流ノ部分ダケデアル。私ハココデ北江ノ韶州以下ノ部分ヲ改良シテ航行シ得ル樣ニシタイト思フノデアル。韶州ハ廣東省北部ノ商業ノ中心デアリ又石炭、鐵鑛ノ中心デアル。此ノ峽下ノ一部ヲ改良シテ航行シ得ル樣ニスルニハ、先ヅ一二箇所ニ堰堤ト閘門ヲ設ケナケレバ吃水十呎ノ船ハ到底韶州迄上ルコトハ出來ナイ。北江ト粵漢鐵道トハ平行シテハ居ルガ、若シコノ地方ノ鑛山ガ相當開發サレタ曉ニハ、之等ノ石炭鐵等ノ重量貨物ハ矢張廉價ナ運賃デ海ニ達セシメネバナラヌ必要上、コノ水路ハドウシテモ缺クベカラザルモノデアル。然モ堰堤ヲ設ケテ水力電氣ヲオコシ閘門ヲ作ツテ航行ヲ便利ニスルノハ、夫レ丈ケデモ一個ノ有利ナル企業タルヲ失ハナイ。況ンヤ又コノ地方ヲ發展セシメル必要條件タルニ於テヲヤデアル。

第四、東　江

東江ハ淺吃水船ナラバ老龍市迄航行シ得ル。ソシテソノ距離ハ黃埔附近ノ鹿步墟島ノ東江總出口カラ約七十哩デアル。本江ノ上流ニハ到ル處ニ石炭鑛ヤ鐵鑛床ガアリ、鐵鑛ガコノ地方デ採掘サレタノハ隨分昔ノ事デ記錄ニ存セナイ年代カラデアリ、今日廣東全省ニ於テ用ヒラルル各種鐵器ノ大半ハコノ地方カラ出ル鐵デ製造サレタモノデアル。ダカラ本江ヲ浚渫シテ可航深水水路ヲ造リ直接石炭鐵鑛區ノ中心ニ達セシムルコトハ大變利益ノ多イ事業デアル。

コノ東江ヲ改良スルノハ一面ニハソノ水災ヲ防止シ一面ニハ又ソノ航行ヲ便利ニスルモノデ、私ハ鹿步墟下流ノ處カラ著手セント欲スルモノデアルガ、之ハ前ニ廣東ノ通航路ヲ論ジタ時ニ既ニ述ベタ。コノ點カラ深水路ヲ浚渫シテ新塘ニ到リ、新塘カラ上流約一哩ノ處デ新水路ヲ開鑿シテ東莞城ニ直達シ、コレニヨツテ東江左岸ノ東莞ト新塘トノ間ニアル各分流ヲ一個所ニ集中シ、コノ新水路ヲ境界トシテコノ新水路ノ左岸カラ珠江ニ到ル迄ノ間ニアル上述各支流ノ舊河道ハ全部閉塞スルノデアルガ、ソノ閉塞個所ノ高サハ略々通常ノ水準ト同一ニシテ、ソノ閉塞サレタル河身ニ洪水期ノ水ヲ放流セシメルコトニスル。コウシテ他ノ出口ヲ全部閉塞スレバソノ水ハ集マツテ强力ナル水流トナリ、コノ水流ハ河身ヲ浚渫シテ深カラシメルコトガ出來、又全河ノ水深ヲ恒久不變ニ保チ得ル。河身ハ流ニ沿ウテ改削ヲ加ヘ上流ノ潮水ノ達シ得ル處マデ河幅ヲ一樣ニシ、コ

コカラ上流ハ水量ノ多寡ニ應ジテ河身ノ廣狹ヲ定メルコトニスレバ、江流ハ自力ニヨツテ惠州城以下ノ部分ヲ浚渫シ深カラシムルノデアル。尙石龍鎭ノ南側ノ鐵橋ハ之ヲ開閉橋ニ改メ大汽船ガソノ間ヲ往來セラルル樣ニスル。又東江ニハ急激ニ彎曲スル場所ガ數ケ所アルカラソノ彎曲部ヲ緩和セネバナラヌ。又中流ノ沙洲モ取除カネバナラヌ。惠州カラ上流ノ一部分ニハ堰堤ト閘門ヲ建設スレバ、吃水十尺ノ船舶ヲ溯江セシメテ東江流域ノ鐵鑛炭田ノ極ク近ク迄達セシメ得ルノデアル。

第三項　中國西南鐵道系統ノ建設

中國西南部中ニ包含サルル地方ノ中、四川省ハ中國本部ニ於ケル最大ニシテ最モ富メル省デアリ、雲南ハ其次ニ大ナル省デアリ、廣西貴州ノ兩省ハ鑛產ノ最モ豐富ナル地域デアリ、其外廣東湖南兩省ノ一部ガアルガ、之等ノ區域ノ總面積ハ六十萬平方哩デ人口ハ一億ヲ超エ而モ老街カラ雲南府ニ到ル二百九十哩ノ間ニ佛國ノ經營シテ居ル狹軌ノ鐵道ガアル以外ニハ、コノ土地廣ク住民多キ部分ニ殆ンド全ク鐵道デ連絡サレテ居ル處ガナイノデアル。

ダカラコノ地區ハ將來大イニ鐵道開發ノ機會ヲ有スルモノデ、廣州市カラ各重要都市ト鑛產地トニ鐵道ヲ敷キ扇形ノ鐵道網ヲ作リソノ各線ヲ南方大港ト連結セシムベキデアル。中國ノコノ部分ニ鐵道ヲ建設スルノハ單ニ廣州市發展ノ爲メ必要デアルバカリデナク、抑々亦西南各省全部ノ繁榮ノ爲メニモ最モ有效ナルモノデアル。此等ノ鐵道ガ建設サルレバソノ爲メニ各種ノ豐富ナル鑛產ヲ開發スルコトガ出來、都市モ亦沿線各地ニ建設スルコトガ出來ル。既ニ開發サレタ地方モ甚ダ廉價デアリ、未開地及鑛產ヲ埋藏スル地域ニ至ツテハ現在國有ニ歸シテハ居ラナイガソノ地價ハ甚ダ低廉デ、一文ノ金ヲモ要セズシテ得ラルベキ場所モ亦僅少デハナイノデアル。ダカラ若シ將來ノ市街用地及鑛產地ヲ豫メ政府ニ於テ收用シタ上デ鐵道ノ布設ヲ開始スレバ、ソノ利益ヲ得ルコトハ必ズ莫大ナモノガアルダラウ。サレバ鐵道ヲ建設スル爲メノ投資ガ如何ニ多額ニ上ツテモソノ元利ヲ償還シ得テ尙餘リアルベキコトハ保證シ得ルノデアル。況ンヤ又廣州市ヲ開發シテ世界一流ノ大港トスル事亦全クコノ鐵道系統ニ賴ルモノデアツテ、若シコノ廣漠タル西南中國ノ各都市ヲ連絡スル鐵道網ガナイナラバ、廣州市モ亦吾人ノ期待スルガ如キ發展ハ爲シ得ナイモノデアルニ於テヲヤデアル。

西南地方ハ廣州及成都兩平原ガ各々三四千平方哩ノ面積ヲ有スル外ハ土地悉ク險峻デ、之等ノ諸地ハ山ニアラザレバ谷デアリ、ソノ間處々ニ多少ノ隙地ハアルガコノ區域ノ東部デハ山嶽ノ高サハ少クトモ三千呎以上デアリ、ソノ西部ト西藏トノ境界地方デハ平均ノ高サ一萬呎以上ニ達ス

ル。ダカラコノ諸鐵道ヲ建設スル工事上ノ困難ハ、之ヲ西北鐵道系統ニ比ベテモ尙數倍ニ上リ多數ノ隧道ト切リ通シトヲ開鑿セネバナラヌカラ、建設費用ハコノ諸鐵道ガ中國各鐵道中デ冠タルモノトナル譯デアル。

余ハ廣州市ヲ以テコノ鐵道系統ノ終點ト定メ左記七鐵道ヲ建設セントスルモノデアル。

1　廣州重慶線、湖南經由
2　廣州重慶線、湖南貴州經由
3　廣州成都線、桂林瀘州經由
4　廣州成都線、梧州敍州經由
5　廣州雲南大理騰越線、「ビルマ」境界ニ到ル迄
6　廣州思茅線
7　廣州欽州線、安南境界ノ東興ニ到ル迄

(1)　廣州重慶線、湖南經由。本線ハ廣州カラ出發シ粵漢鐵道ト同一方向ニ進ンデ連江ト北江トノ會流點ニ到リ、ココカラ折レテ連江流域ニ向ヒ連江ニ沿ウテ溯リ連州上流ニ到リ、ココデ連江ト道江トノ分水嶺ヲ横斷シテ湖南ノ道州ニ進ミ、コレカラ道江ニ沿ウテ永州、寶慶、新化、長州ニ到リ、西水沿岸ヲ溯ッテ四川、湖南兩省ノ境界ヲ過ギテ酉陽ニ入リ、又烏江流域ニ沿ッテ揚子江岸ノ涪州ニ到リ、揚子江ノ右岸ニ沿ヒ溯ッテ重慶ニ到ルモノデ、コノ鐵道ハ全長九百哩、富饒ナル鑛區ト農產地トヲ經過スルモノデ廣州市ノ北方ナル連州ニハ既ニ豐富ナル石炭、鐵鑛、「アンチモニー」、「タングステン」ガ發見セラレ、湖南省ノ西南隅ニハ錫、「アンチモニー」、石炭、鐵、銅、銀等ガアリ、四川省ノ西陽ニハ「アンチモニー」ト水銀ガアリ、又沿線ニ於ケル農產物トシテハ余ハ砂糖、落花生、大麻、桐油、茶、棉花、煙草、生絲、穀物等々ヲ擧グルコトガ出來、又多クノ竹材、木材及ソノ他一切ノ林產物ガアル。

(2)　廣州重慶線、湖南貴州經由。本線ノ長サハ約八百哩デアルガ廣州カラ道州ニ到ル部分ハ第一線ヲ利用スルモノデ、ソノ長サ約二百五十哩デアルカラコノ線トシテハ五百五十哩ダケデアル。ダカラ實際ハ湖南ノ道州カラ布設シ始メ、廣西省東北ノ突出シタ處ヲ横斷シテ全州デ再ビ湖南西南部ニ入リ城步及靖州ヲ經テ貴州省ニ入リ、三江及清江ノ兩地ヲ經、山脈ヲ横斷シテ鎭遠ニ到リ、鎭遠カラ沅江烏江ノ分水嶺ヲ横斷シテ遵義ニ到リ、遵義カラハ通商路ニ沿ウテ眞直グニ綦江ニ到リ重慶ニ達スルモノデアル。コノ鐵道ノ經過スル所ハ到ル處木材鑛物ヲ產スルコト極メテ豐富ナル區域デアル。

(3) 廣州成都線、桂林瀘州經由。本線ハ約一千哩デ廣州ヨリ西ニ向ツテ三水ニ到リ綏江口デ北江ヲ渡リ綏江流域ニ沿ウテ四會、廣寧ヲ經過シ、次デ懷集カラ廣西省ニ入リ、賀縣及平樂ヲ經過シ、ココカラ桂江水流ニ沿ウテ溯リ桂林ニ達スル。コノ廣東廣西兩省ノ省城間デハ石炭、鐵鑛ヲ採掘スルコトガ出來ル。桂林カラハ路ヲ轉ジテ西ニ向ツテ永寧ニ到リ、又柳江ノ流域ニ沿ウテ溯リ貴州省ノ境界ニ到リ、境界ヲ越エテ古州ニ到リ古州カラ都江及八寨ヲ過ギ尙コノ河谷ヲ溯リ一羣ノ連山ヲ踰エテ平越ニ到リ、平越カラ甕安及岳四城ニ出ル道デ沅江ノ分水嶺ヲ横斷シテ烏江流域ニ入リ、岳四城カラ通商路ニ從ツテ雪邊山ヲ踰エ仁懷、赤水、納溪ニ到リ、ココデ揚子江ヲ渡ツテ瀘州ニ到リ、瀘州カラ隆昌、內江、資州、資陽、簡州ヲ經過シテ成都ニ達スルモノデ、コノ鐵道ノ最後ノ部分ハ所謂四川省ノ紅盆地トシテ有名ナル富裕區域デアリ、又桂林瀘州間ニ於ケルコノ鐵道ノ中段ハ鑛產豐富デ將來ノ開發上最モ有望ナル處デアル。コノ鐵道ハソノ兩端ニアル人口ノ最モ稠密ナル地域ノ爲メニ、中間ノ土地廣ク人口稀薄ナル地域ヲ開發シテコレヲ培養スルモノデアル。

(4) 廣州成都線、梧州敍州經由。コノ線路ハ長サ約千二百哩デ第三線ガ北江ヲ渡ル三水鐵橋ノ西端カラ西江ノ左岸ニ沿ヒ肇慶峽ヲ過ギテ肇慶城ニ達シ、尙上ツテ德慶、梧州、大湟ニ到リ、大湟デ河ハ西南ニ轉ジ鐵道ハ西北ニ右ツテ象州ニ到リ、柳江ヲ渡ツテ柳州及慶遠ニ出デ、進ンデ思恩ニ到リ、廣西貴州兩省ノ境界ヲ過ギテ貴州省ニ入リ、獨山都勻ニ到リ、都勻カラ西ニ折レテ貴州ノ省城貴陽ニ到リ、次デ黔西大定ヲ過ギ畢節デ貴州省ヲ離レ、鎭雄カラ雲南省ニ入リ北轉シテ樂新渡ニ到リ、四川省界ヲ過ギテ敍州ニ入リ、敍州カラ岷江ニ沿ツテ上リ嘉定デ、江ヲ渡ツテ成都平原ニ入リ成都ニ達スルモノデアル。コノ線路ハ富裕ノ地域カラ富裕ノ地域ニ到ル中間デ廣大ナル未開發デアツテ人口極メテ稀薄ナル土地ヲ經過スルノデアルガ沿線ハ石炭鐵鑛ニ富ンデ居リ又銀、錫、「アンチモニー」等ノ貴金屬鑛ニモ富ンデ居ル。

(5) 廣州雲南大理騰越線。コノ線ハ長サ約一千三百哩アリ廣州カラ雲南ト緬甸トノ境界ニアル騰越迄到ルモノデ、ソノ第一區タル廣州カラ大湟迄ノ三百哩ハ第四線ト同ジク、大湟江口カラ分レテ武宣ニ到リ、紅水江ニ沿ウテ遷江、東蘭ヲ經、興義縣ヲ過ギテ貴州省ノ西南隅ヲ横斷シ、雲南省ニ入ツテ羅平ニ到リ、陸涼カラ雲南省城ニ出デ、省城カラ楚雄ヲ經過シテ大理ニ到リ、ココデ西南ニ折レテ永昌カラ騰越ニ到リ緬甸トノ境界ニ達スルノデアル。

廣西省ノ東蘭ハ貴州省ノ境界ニ近イ處デアルガコノ線ハココカラ長サ約四百哩ノ一支線ヲ出シ北盤江流域ニ沿ウテ上リ、可渡河威寧ニ到リ昭通デ雲南省ニ入リ、河口デ揚子江ヲ渡ツテ四川ニ

入リ大凉山ヲ横斷シテ寧遠ニ達セシムルノデアル。コノ支線ハ昭通寧遠間ノ有名ナル銅鑛地ヲ開發スルノデアルガコノ銅鑛ハ全中國ニ於テ最モ豐富ナル鑛區デアル。

コノ線ノ本線ハ東カラ西ニ廣西雲南兩省ヲ貫通スルモノデ將來國際關係上必ズ重要視サルベキモノデアル。何トナレバコノ線ハ緬甸ノ境界デ緬甸鐵道系統ノ「ラングーン、バモ」ノ線ト連絡シテ、將來コレニヨツテ印度カラ中國ニ達スル最モ捷徑トナルモノデアリ、コノ線路ノ力ニヨツテコノ人口ノ稠密ナル二大國ガ現在ヨリモ更ニ接近シ、今日海路ニヨレバコノ兩地間ノ交通ニ數週間ヲ要シテ居ルガ他日コノ新線路ガ完成スレバ數日間デ達シ得ル樣ニナルカラデアル。

(6) 廣州思茅線。コノ線ハ緬甸ノ境界迄達スルモノデ長サ約一千一百哩、廣州市ノ西南隅カラ佛山、官山ヲ經、大平墟デ西江ヲ渡ツテ對岸ノ三洲墟ニ到リ、コレカラ高明新興羅定ニ進ミ、羅定ヲ過ギレバ廣西省ニ入ツテ平河ニ到リ、容縣ニ進ミ、ココデ西向シテ左江ヲ渡リ貴縣カラハ左江ノ北岸ニ沿フテ南寧ニ達シ、南寧カラ約百二十哩ノ支線ヲ出シテ左江ニ沿フテ溯リ、龍州デ南折シテ鎭南關ニ到リ佛領印度支那ノ東京境界デ佛國ノ鐵道ト連絡サセ、本線ハ右江岸ヲ溯ツテ百色ニ到リ、更ニ省境ヲ過ギテ雲南省ニ入リ剝隘ニ到リ、巴門、高甘　東都、普子塘ヲ經テ阿迷州デ老街雲南鐵道ヲ横斷シ、阿迷州カラ進ンデ臨安、石屏、元江ニ到リ、ココデ元江ヲ渡リ他郎、普洱及思茅ヲ通過シテ緬甸トノ境界ニ近イ瀾滄江迄達スルノデアル。コノ線ハ雲南廣西兩省ノ南部ニアル錫、銀、「アンチモニー」ノ三鑛產ノ最モ豐富ナ地域ヲ貫通スルモノデアリ、同時ニ沿線ニ到ル處石炭、鐵鑛ノ埋藏量ガ非常ニ多ク、又金、銅、水銀、鉛ヲ產出スル地方ガアリ、農產トシテハ米ト落花生トガ甚ダ豐富デ、加フルニ樟腦、桂油、甘蔗、煙草各種ノ果物類等ノ產出ガアル。

(7) 廣州欽州線。コノ線ハ西江鐵橋西詰カラ起算シテ長サ約四百哩デ、廣州市カラ西ニ向ヒ太平墟ノ西江鐵橋ニ到ル迄ハ第六線ト同ジク、江ヲ渡ツテカラ分レテ開平、恩平ニ向ヒ、陽春ヲ經テ高州及化州ニ到リ、化州カラハ長サ約百哩ノ支線ヲ出シテ遂溪、雷州ニ到リ瓊州海峽ノ海安ニ達シ、海安カラハ渡船デ海南島ト聯絡サセ、本線ハ尙化州カラ西行シテ石城、廉州、欽州ヲ過ギテ安南ノ境界ノ東興迄達スルモノデ、東興ノ向ヒ側面ノ芒街カラ海防ニ到ル間ハ將來佛國ノ鐵道ト連絡スベキデアル。コノ線ハ全部廣東省內ニ在リ、人口物產ノ豐富ナル區域ヲ經過スルモノデ、線路ノ兩側ニハ到ル處ニ石炭ヤ鐵鑛ガアリ、其他數ケ處ノ金及「アンチモニー」產地ガアリ、農產ニハ甘蔗、生絲、樟腦、苧麻、藍、落花生及各種ノ果物類ガアル。

コノ系統內ノ各線ハ上述ノ如ク約六千七百哩デアルガ、コノ外ニ尙左記各線ヲ敷設スル必要ガ

アル。卽チ

イ、成都重慶間ヲ連絡スル二個ノ線。

ロ、第二線ノ遵義ト第三線ノ甕安ヲ連絡スル線。

ハ、第三線ノ平越ト第四線ノ都匀ヲ連絡スル線。

ニ、第四線ノ貴州省境界線上カラ南丹、那地ヲ經テ第五線ノ東蘭ヲ過ギ更ニ泗城ヲ經テ第六線ノ百色ニ達セシムル線。デコノ連絡線ハ全長約六百哩ニ達スルカラ總計七千三百哩トナル。

コノ系統ハ下記三線ト經濟上大ナル關係ガアル。

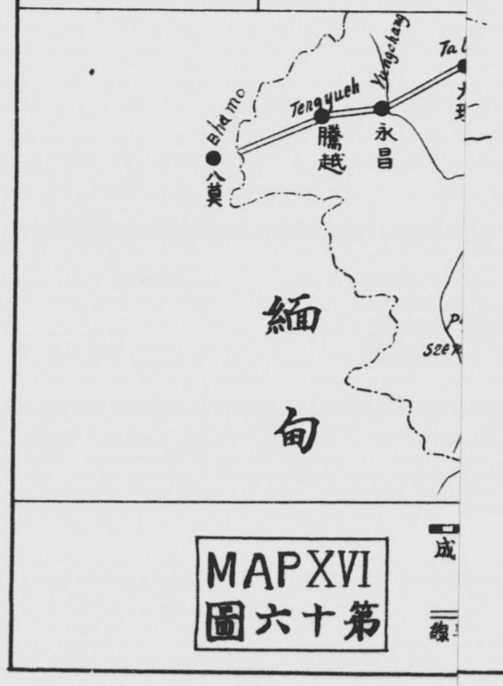
一――佛國經營ノ老街雲南府間ノ既成線及雲南府重慶間ノ計畫線。コノ線ハ第六線ト阿迷州デ交叉シ、第五線ト威寧デ交叉シ、第四線ト敍州デ交叉シ、第三線ト瀘州デ交叉シ、第一、第二兩線ト重慶デ會合スル。

二――英國經營ノ沙市與義間ノ計畫線。コノ綿ハ第一線ト辰州デ交叉シ、第二線ト鎭遠デ交叉シ、第三線ト平越デ交叉シ、第四線ト貴陽デ交叉シ、第五線ノ支線ト永定ノ西方デ交叉スル。

三――米國經營ノ株州欽州間ノ計畫線。コノ線ハ第一線ト永州デ交叉シ、第二線ト全州デ交

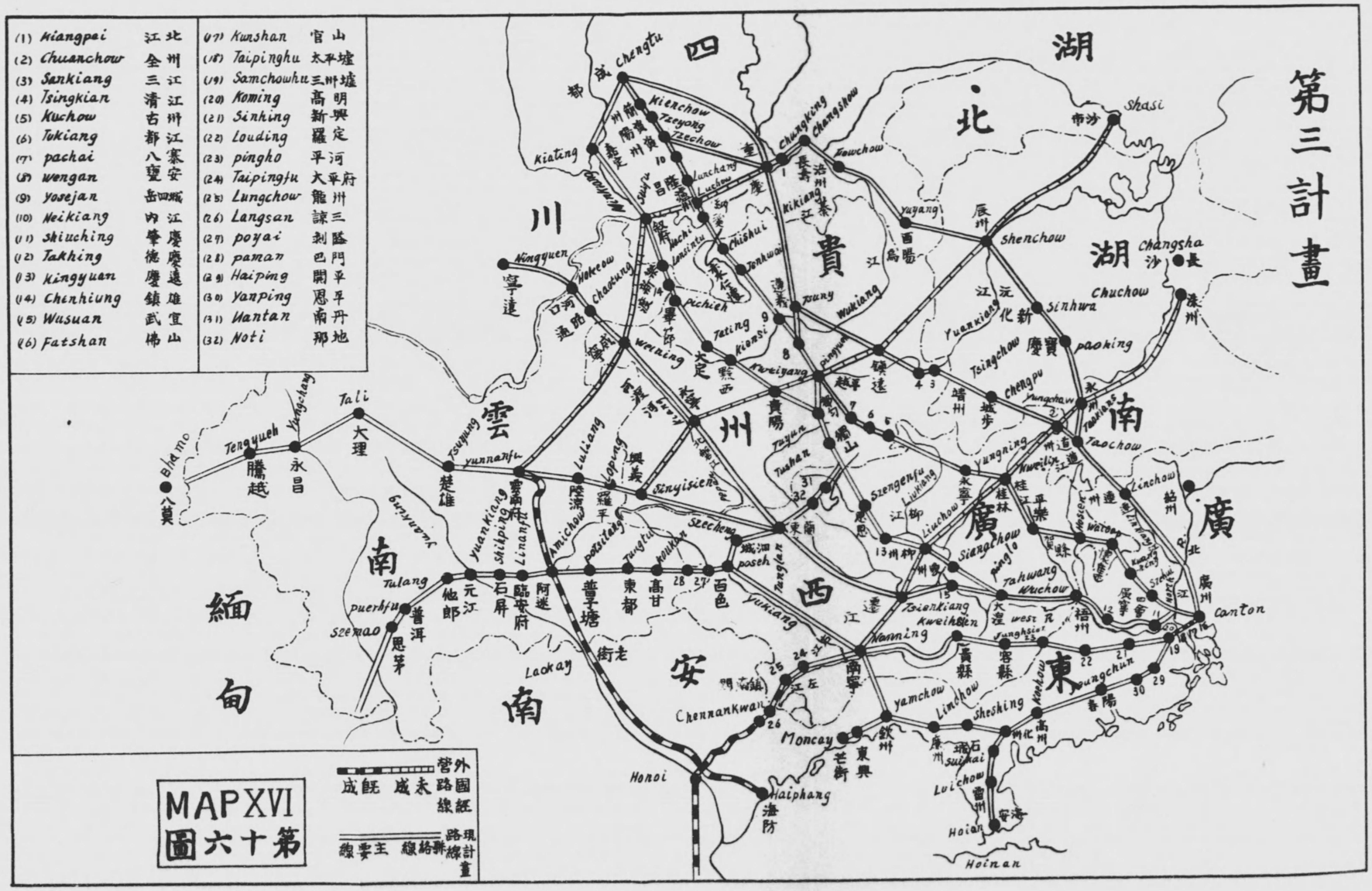
第三計畫

(1) Hiangpei	北江	(17) Kunshan	山官
(2) Chuanchow	州全	(18) Taipinghu	墟太平
(3) Sankiang	江三	(19) Samchowhu	墟州三
(4) Tsingkian	江清	(20) Koming	明興
(5) Kuchow	州古	(21) Sinking	定河
(6) Tukiang	江都	(22) Louding	府平
(7) pachai	寨八	(23) pingho	州平
(8) wengan	安甕	(24) Taipingfu	三隘
(9) Yosejan	城岳	(25) Lungchow	門龍
(10) Neikiang	江內	(26) Langsan	平諒
(11) Shiuching	慶肇	(27) poyai	平剝
(12) Takhing	慶德	(28) paman	丹邑
(13) Kingyuan	遠慶	(29) Haiping	地關
(14) Chinhiung	雄鎭	(30) Yanping	恩
(15) Wusuan	宣武	(31) Nantan	南
(16) Fatshan	山佛	(32) Noti	那



MAP XVI
第十六圖

第三計畫


(1) Kiangpei 江北
(2) Chuanchow 全州
(3) Sankiang 三江
(4) Tsingkian 清江
(5) Kuchow 古州
(6) Tukiang 都江
(7) pachai 八寨
(8) wengan 瓊安
(9) Yosejan 岳西
(10) Neikiang 內江
(11) Shiuching 肇慶
(12) Takhing 慶德
(13) Kingyuan 慶遠
(14) Chenhiung 鎮雄
(15) Wusuan 武宣
(16) Fatshan 佛山
(17) Kunshan 官山
(18) Taipinghu 太平墟
(19) Samchowhu 三州墟
(20) Koming 高明
(21) Sinking 新興
(22) Louding 羅定
(23) pingho 平河
(24) Taipingfu 大平府
(25) Lungchow 龍州
(26) Langsan 諒山
(27) poyai 剝隘
(28) paman 巴門
(29) Haiping 開平
(30) Yanping 恩平
(31) Uantan 南丹
(32) Noti 那地
四川
湖北
湖南
廣東
雲南
貴州
廣西
安南
緬甸
Chengtu
Kiating
Ningquen
寧遠
Chungking
Changsha
長沙
Shasi
沙市
Shenchow
Sinhwa
Chuchow
Paoking
Taochow
Linchow
Canton
廣州
Kunming
Tali
大理
Yungchaw
永昌
Tengyueh
騰越
Bhamo
八莫
Yunnanfu
楚雄
Tulang
puerhfu
普洱
Szemao
思茅
Lao Kay
Chennankwan
Moncay
Haiphang
海防
Hanoi
Hoian
Hoinan
Nanning
Yamchow
Shoshing
Luichow
Hoiping
Tsingkiang
Kweihsien
Yungning
Siangchow
Tahwang
Wuchow
Szengenfu
Liuchow
Kweilin
Tsingchow
Chengpu
Yungchaw
Yuanhsian
Kiangpei
Chuanchow
Sankiang
Tsingkian
Kuchow
Tukiang
Pachai
Wengan
Yosejan
Neikiang
Shiuching
Takhing
Kingyuan
Chenhiung
Wusuan
Fatshan
Kunshan
Taipinghu
Samchowhu
Koming
Sinking
Louding
Pingho
Taipingfu
Lungchow
Langsan
Poyai
Paman
Haiping
Yanping
Uantan
Noti
MAP XVI
第十六圖
外國經營路線
既成
未成
現計畫路線
主要線
幹線

又シ、第三線ト桂林デ交叉シ、第四線ト柳州デ交叉シ、第五線ト遷江デ交叉シ、第六線ト南寧デ交叉シ、第七線ト欽州デ會合スル。

ダカラコノ佛、英、米ノ三線ト本系統ノ各線トガ全部完成シタ際ニハ、中國西南各省ノ鐵道交通ハ完全無缺タルコトヲ得ルノデアル。

此等ノ諸線ハ皆實ニ廣大ナル鑛產地ヲ經過スルモノデ、有用高價ノ金屬ガアリ世界デモコノ地方ノ如ク「タングステン」、錫、「アンチモニー」、銀、金、白金等等ノ如キ稀金屬ヲ豐富ニ含有スル土地ハ他ニ例ガナク、同時ニ又普通デハアルガ最モ有用ナル銅、鐵、鉛ノ樣ナ金屬モアリ、剩ヘ各區每ニ豐富ナル石炭ガアルノデアル。南方俗諺ニ「石炭ガナケレバ都城ハ作レヌ」ト云フコトガアルガ、之ハ豫メ城ノ包圍サレタ時ニ地中カラ石炭ヲ採掘シテ用ヲ辨ジ山カラ薪ヲ取ル必要ノナイ樣ニ考ヘタモノデ、コレデ見テモ到ル處ニ石炭ガ產出スルコトヲ知ルコトガ出來ル。四川省ニハ又石油鑛及自然瓦斯（火井）ガ極メテ豐富デアル。

コンナ風デアルカラ此西南鐵道系統ハ西南山地ノ鑛產利源ヲ開發スルモノデアツテ、丁度西北鐵道系統ヲ以テ蒙古ヤ新疆ノ大平原ノ農產利源ヲ開發スルノトソノ重要性ニ於テ同一ノ價値ヲ有シ、コノ兩鐵道系統ハ中國人民ニ取ツテハ最モ必要ナルモノデアリ、外國投資者ニ取ツテモ最モ

有利ナル事業デアルコトヲ知リ得ルノデアル。此二系統ハ其延長カラ言ヘバ略ボ同樣デ約七千哩デアルガ建設費カラ見レバ西南系統ハ西北系統ノ二倍以上ヲ要スルノデアル。只其ノ代リニ鑛產利源ヲ開發スル利益ハ西北系統ノ農產利源ヲ開發スル利益ニ比ベテ數倍タラシムルコトガ出來ルノデアル。

第四項　沿海開港場及ビ漁港ノ建設

余ハ既ニ中國海岸ニ於テ前述ノ如ク三ツノ世界一流ノ大港ヲ作ルコトヲ計畫シテ置イタカラ、茲ニハ更ニ進ンデ二三等海港及漁業港ヲ中國全海岸ニ發展セシメテ中國ノ海港系統ヲ完成スルコトニセネバナラヌ。最近余ノ北方大港計畫ハ河北省人民ノ熱心ニ希望スル所トナリ、省議會ハコノ計畫ニ贊同シテ省營事業トシテ直チニ實行スルコトニ決定シ、コノ目的ノ爲メニ既ニ四千萬元募債スルコトヲ決議シタ。コレハ本計畫ノ實行ニ先鞭ヲツケタモノデアルガ、ソノ他ノ計畫モ輿論ガ喚起サレルニ連レ早晩省營又ハ國營ニヨツテ漸次ニ其緒ニ就ク樣ニナルダラウ。茲デハ余ハ更ニ四個所ノ二等海港ト九箇所ノ三等海港及十五箇所ノ漁業港ヲ建設シ樣トスルノデアル。

コノ四箇所ノ二等海港ハ下記ノ通リ一ツハ最北部ニ一ツハ最南部ニ配置シ、其他ノ港ハ前述ノ三ツノ世界大港ノ間ニ介在セシムルコトトシ其場所ハ將來ニ於ケル重要サノ程度ヲ考慮シテ左ノ如ク排列シ樣トスルノデアル。

一、營　口
二、海　州
三、福　州
四、欽　州

第一、營口。營口ハ遼東灣ノ最奥部ニ位シ嘗テハ東三省ノ唯一ノ海港デアツタガ、大連ガ建設サレテ以來營口ノ商業ハ大イニ委縮シテ昔日ノ事業ハ殆ンドソノ大半ヲ失ツテ了ツタ。元來海港トシテノ營口ニハ不利ナル點ガ二ツアル。ソノ一ツハ海カラノ通路ガ淺イコト、ソノ二ハ冬期數ケ月間ノ久シキニ亙ツテ氷結スルコトデ、只大連ニ勝ル唯一ノ點ハ遼河ノ口ニ位置シ、之ヲ起點トスル內地交通路ガ南部滿洲ノ遼河流域內ニ普遍シテ居ルコトデ、現在デモ從前ノ貿易ノ半バヲ保有シテ大連ト拮抗シテ居ル所以ハ全クソノ內地水路ノ便利ナノニ起因シテ居ルノデアル。ダカラ營口ヲシテ將來再ビ大連ヲ凌駕セシメ前述三箇ノ世界一流ノ大港ニ次グモノタラシメンガ爲ニハ、ドウシテモ一面內地水路交通ヲ改良スルト共ニ他方海ニ達スル通路ヲ浚渫シテ深クセネバナラヌノデアル。ソシテ通路ヲ改良スル工事ニ就テハ廣州市ノ通路航海ヲ改良スルノト同一ノ方法ニ依

リ、水深約二十呎ヲ有スル深水水路ヲ作リ、又之ト同時ニ埋築工事ヲヤラネバナラヌ。蓋シ遼東灣頭ノ廣クシテ淺イ沼地ハ之ヲ埋メ立テ米作ノ出來ル水田トスレバ、豐富ナル利潤ヲ得ルコトガ出來ルカラデアル。又內地ノ水路交通ニ就テハ單ニ遼河バカリニ止メズ松花江ヤ黑龍江ノ兩區域モ一緒ニ改良セネバナラヌ。ソノ中デ最モ重要ナ工事ハ運河ヲ開鑿シテコノ各流域ヲ連絡セシメルコトデアル。余ハ以下引續キコノ問題ヲ研究スルコトニスル。

遼河ト松花江トノ間ノ運河ハ將來ノ營口ノ繁榮ニトツテ實際ニ最モ重要ナ問題デアツテ、コノ運河ガアツテコソコノ港ハ始メテ中國ノ二等海港中ノ最モ重要ナルモノトナリ得ルノデ、將來コノ北滿地方ノ偉大ナル森林地及ビ處女地並ニ豐富ナル鑛產等ガ水路交通ニ依テ營口ト連絡シ得ルノデアル。ダカラ營口ノ爲メニハコノ運河ハ正ニ救世主タルモノデアツテコノ運河ガナケレバ營口トシテハ最大限度現在ノ人口六七萬、貿易年額三四千萬元タル地位ヲ保ツニ過ギズ、何等中國二等海港ノ首位タル地位ヲ占ムル資格ハナイノデアル。サテコノ運河ヲ開鑿シ得ル場所トシテハ懷德以南デハ范家屯ト四童山トノ間デ南滿鐵道ト平行スルノデソノ長サハ十哩ニ達セズ、又懷德以北デハ青山堡ト靠山屯トノ間ニモ開鑿スルコトガ出來、ソノ長サハ約十五哩デアル。前者ハ開鑿スル處ハ短イガ全水路トシテハ長ク、後者ハ運河ノ長サハ殆ンド前者ニ倍スルガコノ兩江流域間ノ

全水路ハヨリ短ク、二個所共平原デアルカラ左シテ難工事ト云フ程ノモノデハナイガ只ソノ海拔ニ多少ノ相違ガアルダラウカラ、コノ點ガ正ニ將來二者何レヲ擇ブベキカヲ決定スル唯一ノ點デアラウ。若シコノ運河ガ開通スレバ吉林、黑龍江ノ富饒ナル二省及ビ外蒙古ノ一部分ハ全部コレニ依テ中國本部ト水路ニヨル交通ヲ爲シ得ルノデアル。ダカラコノ運河ハ單ニ海港トシテノ營口ニ取ツテ必須條件タルバカリデナク全中國國民ノ政治上經濟上ニモ偉大ナル關係ヲ有シ得ルモノデアル。遼河ト松花江トノ間ノ運河ガ完成シタ曉ニハ、營口ハ實ニ全滿洲並ニ東北蒙古ノ內地水路系統ノ大終點トナリ、通海水路ノ浚渫ト相俟ツテ再ビ威力ヲ發揮シ三大港ニ次グ海港トナリ得ルノデアル。

第二、海州。海州ハ中國中部平原ノ東陲ニ位シ、コノ平原ハ世界中ニ於テ最モ廣大ニシテ肥沃ナル地區ノ一デアル。海州ノ海港トシテノ位置ハ丁度北方大港ト東方大港トノ二大一等港ノ中間ニ在リ、今ヤ既ニ東西ニ中國中部ヲ橫斷スル大幹線タル海蘭鐵道ノ終點ト定リ、又內地水運交通ノ便宜ヲ有シ、若シ大運河及ソノ他ノ水路系統ガ改良セラレタ曉ニハ、北ハ黃河流域ニ通ジ南ハ西江流域ニ通ジ中部ハ楊子江流域ニ通ズル。海州ノ海ニ通ズル深水路ハ比較的優良ナリト稱セラルベク、江北地方二百五十哩ノ海岸中デハコノ港丈ケガ外洋巨船ヲ海岸カラ數哩以內ニ近ヅケ得

ルノデアル。海州ヲシテ吃水二十呎ノ船舶ヲ入レ得ル海港タラシメントスルナラバ先ヅソノ通路ヲ河口カラ數哩ノ外迄浚渫シテ深クセネバナラヌ。ソウスレバ四尋ノ水深ガ得ラレル。海州ハコレヲ營口ニ比較スレバ結氷セザルコトハ大イニ優ル所デアルガ、ソノ控エル背後地ハ營口ノ如ク宏大ナラズ亦內地水運上ノ地位ガ營口ノ獨占的ナルニ及バナイカラ、ドウシテモ營口ノ下位ニ居ルコトニ甘ンジナケレバナラナイ。

第三、福州。福建省城ハ二等海港中デハ第三位ニ居ルモノデアル。福州ハ今日既ニ一大都市デアッテ、人口ハ百萬ニ近ク、閩江ノ下流ニ位置シ海カラ約三十哩アリ、港ノ背後地ハ閩江流域ガソノ範圍デ面積約三萬平方哩アリ、コノ流域以外ノ地區ハ他ノ內河開港場又ハ他ノ海港ノ範圍ニ歸スルカラコノ港ノ背後地ハ海州ヨリモ更ニ狹イ。ダカラ順位トシテハ二等海港中ニ於テハ第三位トスベキデアル。福州ノ海ニ通ズル水路ハ外閂洲カラ金牌口ニ到ル迄非常ニ淺ク、金牌口上流ハ兩岸高山ニ挾マレ狹ク深クナッテ羅星塔迄達スル。

余ハコノ新港ヲ南臺島ノ下流ノ一部ニ建設シ樣トスルモノデアルガ、ソレハコノ地ノ地價ガ比較的廉ク現代式改良ヲ施ス餘地ガ十分アルカラデアル。ソウシテ船舶ヲ收容スル閉鎖式港灣ヲ南臺島ノ下端ノ羅星塔ニ近イ處ニ建設スルコトニシ、閩江ノ北支流ハ福州城ノ上流デ閉塞シテ水流ヲ南支流ニ集中シ南臺島南側ノ港口ヲ洗ヒ流セル樣ニシ、南臺島ノ北側ヲ遶ッテ居ル閉塞シタ河道ハ自然ニ埋マルヲ待ツカ或ハ潮溜リ（上ゲ潮ノ時ノ水ヲ收容シテ干潮ノ時ニ放流シ港內ノ土沙ヲ洗ヒ流サセルコトニ利用スルモノ）トシテ羅星塔以下ノ水路ノ自然浚渫ニ利用スベキデアル。閩江ノ上流ニモ相當ノ改良ヲ施シテ內地水運ヲ便利ニシ、下流ハ羅星塔カラ海ニ出ル迄ハ十分ニ整理シテ三十呎以上ノ水深ヲ有スル水路デ海洋ニ達セシムルコトニスレバ、福州ハ兩世界大港ノ中間ニ於ケル外洋汽船ノ一寄港地トナルコトガ出來ル。

第四、欽州。欽州ハ東京灣ノ奧部、中國海岸ノ最南端ニ位シ、廣州卽チ南方大港ノ西方百哩ノ地點ニアル。ダカラ欽州以西ノ地方ハ此ノ港ヲ以テ海ニ出ル口トスレバ廣州ヲ經由スルヨリモ四百哩ヲ短縮シ得ル譯デアル。普通ニ海運ハ之ヲ鐵道ニ比ブレバソノ運賃ガ二十倍モ低廉デアルト言ハレテ居ルガ、若シソウデアルトスレバ四川、貴州、雲南ノ諸省及廣西省ノ一部分ニ就イテ考ヘテモソノ經濟上ニ於ケル受益ハ決シテ尠少デハナイ。ソノ北方ニモ南寧ガ內河開港場トシテ存在シテ居ッテ欽州ニ比ブレバ更ニ背後地ニ近イガ、海港トシテノ作用ヲ爲シ得ナイカラ直接輸出入貿易ハ矢張リ欽州ヲ以テ最モ經費ヲ節約シ得ル積載地トスル譯デアル。

欽州ヲ改良シテ海港トスルニハ先ヅ龍門江ヲ整理シテ深水路ヲ欽州城ニ直達セシメネバナラ

ヌ。ソレニハソノ河口ヲ浚渫シ且ツ堤防デ之ヲ誘導シテ良好ナル通路ヲ作ル必要ガアル。コノ港ハ既ニ湖南、廣西ノ兩省ヲ通過シテ廣東省ニ入ル株欽鐵道ノ終點トシテ選定セラレテ居リ、ソノ背後地ハ福州ヨリモ大デアルニモ拘ハラズ余ガ尙コレヲソノ下位ニ置クノハ、ソノ背後地ガ廣州世界港、南寧內河港ノ範圍ニ入ツテ居ル爲メ、一切ノ國內貿易及間接輸出入貿易ハコノ二港ニ占メラレ、タダ直接貿易ダケガ此ノ欽州ヲ利用スルコトニナルカラデアル。ダカラソノ背後地ハ廣イガ將來ノ二等港中デハ福州ヲ凌駕セントシテモ恐ラクハ不可能デアラウ。

以上三箇ノ世界一流ノ大港ト四箇ノ二等港ノ外ニ余ハ尙中國沿海ニ九箇所ノ三等港ヲ建設セントスルモノデコレヲ北ヨリ南ニ順次列擧スレバ左ノ如クデアル。

一、葫蘆島
二、黃河港
三、芝罘
四、寧波
五、溫州
六、厦門
七、汕頭
八、電白
九、海口

第一、葫蘆島。コノ島ハ不凍ノ深水港デ遼東灣ノ奥ノ西側ニ位シ、營口ヲ去ルコト六十哩デアツテ東四省ノ冬期港トシテノコノ港ノ位置ハ遙ニ大連ニ優リ、ソノ海ニ達スル迄ノ鐵道ハ大連ヨリモ二百哩短ク、又豐富ナル炭田ノ近クニ在ル。コノ炭田及ソノ附近ノ鑛產ガ開發サレタ曉ニハ葫蘆島ハ三等港ノ首位ヲ占メ熱河及東蒙古ノ良好ナル出口トナルダラウ。此ノ港ハ又運河ヲ建設シテ遼河ト連絡セシムルダケデ其儘東蒙古及滿洲全部ノ商港トシテ營口ニ代ラシメルコトモ出來ルノデアル。將來內地水路交通サヘアレバ一ツノ重要ナル商港トナリ得ルコトハ葫蘆島モ亦營口ト同樣ナノデアル。ダカラ若シ葫蘆島ニシテ內地水路交通路ヲ持ツ樣ニナレバ自然營口ニ代ツテ勃興シ得ルノデ、若シ確ニ此ノ長距離ノ運河ヲ開鑿シテ葫蘆島ト遼河トヲ連絡スルコトガ營口ニ深水港ヲ建設スルヨリモ經濟上更ニ廉價デアルコトガ明白ニナルナラバ、葫蘆島港面ハコレヲ此ノ半島ノ西北側ニ置イタ方ガヨイノデ、今ノ計畫ノ樣ニ半島ノ西南ニ置クノハ不得策デアル。蓋シ現在ノ位置デハ多數ノ船舶ヲ收容シテ碇泊セシムル爲メニハ廣大ナル防波堤ヲ築イテ深海中ニ突

入セシメナケレバナラズ、此ノ工事費ハ甚ダ巨額ヲ要シ、且ツ此ノ半島ハ狹隘デアツテ都市計畫ヲ達スル餘地ガナイガ、若シ其ノ反對側ニスレバ市街計畫地ヲ本陸ノ上ニ建テルコトガ出來、將來ノ發展ヲ待ツテ居ル無限ノ空地ガアルカラデアル。

余ハ連山灣ノ北角カラ一海堤ヲ築造シテ葫蘆島ノ北端ニ達セシメ連山灣ヲ閉塞シテ袋港灣タラシメ、葫蘆島ノ頸部ノ南方ニアル深水個處ニ口ヲ開キ、此ノ閉塞港面ハ十平方哩ノ廣サヲ有セシメントスルモノデアルガ此ノ中ニハ現在一部分或ル深サマデ浚渫セネバナラヌ處ガアル。又此ノ港面ノ北方ニハ別ニ一出口ヲ殘シテ置キ海堤ト海岸トノ間デ附近ノ海灣ニ通ゼシメ、尙別ニ一防波堤ヲ建造シテ第二海灣ヲ橫斷シ同處カラ運河ヲ或ハ海岸線ノ內ニ開鑿シ、或ハ海堤ヲ建設シテ海岸線ト平行セシメ開鑿シ易キ低地迄導イテ、ソコカラ更ニ運河ヲ開鑿シテ遼河ト連絡セシメ樣トスルモノデ、若シ此ノ運河ノ開鑿サヘ出來レバ葫蘆島ハ直チニ營口ニ取ツテ代リ二等港ノ首位ヲ占メルコトガ出來ルノデアル。

第二、黃河港。此ノ港ハ黃河河口ノ北、渤海ノ南側ニ位スベク余ノ北方大港カラ約八十哩ノ距離ニ在リ黃河整理工事ガ完成サレタ曉ニハ此ノ河口ハ海洋汽船ノ寄港地トナリ自然ニ海港タルノ萠芽ヲ得ルノデアルガ、其ノ背後地ハ北方平原ノ河北、山東、河南各省ノ相當ナル部分ヲ占メテ居リ且ツコレニ內地水運交通ノ便ヲ併有スルカラ、此ノ港モ亦重要ナル三等海港タラザラント欲スルモ得ザル所デアル。

第三、芝罘。芝罘ハ古イ條約港デ山東半島ノ北側ニ位シ嘗テ全中國北部ノ唯一ノ不凍港デアツタモノデ、其ノ北方ニ大連ガ開發サレ南方ニ青島ガ勃興シテ以來其ノ貿易ハ遂ニコレト共ニ衰亡ニ歸シタガ、海港トシテハ若シ山東半島ノ鐵道ガ開發サレ築港工事ガ完成シタ曉ニハ自ラ其ノ長トスル所ガアリ得ルノデアル。

第四、寧波。寧波モ亦古イ條約港ノ一デ浙江省ノ東方甬江ナル一小河ノ河口ニ位スルガ、非常ニ良好ナル通海路ヲ有シ深水ハ直チニソノ河口ニ達シテ居ルカラ極ク容易ニ改良スルコトガ出來、堤防デ其ノ水流ヲ誘導シ兩ノ彎曲部ヲ改メテ眞直グニシ市街地ニ達セシムルダケデヨイ。又寧波ノ背後地ハ非常ニ狹小デハアルガ、非常ニ富裕デアリ、其ノ住民ハ企業ヲ好ミ、手工ヲ以テ有名デ此點デハ廣州ニ比シ得デアル。中國ノ實業上ニ於ケル發展ニ對シテハ寧波モ製造工業ノ一都市トシテ貢獻シ得ルデアラウ。唯東方大港ニ餘リニ近イ爲メ寧波ト外國トノ直接ノ輸出入貿易ハ必ズシモ多キヲ望ミ得ズ、此ノ種貿易ハ多クハ東方大港ニ歸スルダラウカラ寧波トシテハソレニ相當スル丈ケノ港面ヲ造リ內地及沿岸貨物ノ積卸ノ用ニ供スルダケデ足リル譯デアル。

第五、溫州。溫州ハ浙江省ノ南部、甌江ノ口ニ位シ、寧波ニ比ブレバ其ノ背後地ハ廣ク、其ノ周圍ノ地區ハ皆生產甚ダ豐富デアルカラ若シ鐵道ガ發展スレバ必ズ相當ノ地方貿易ヲ有シ得ベキコトハ疑ヒナキ所デアル。現在ハ港面極メテ淺ク普通ノ近海商船モ出入スルコトガ出來ナイ。私ハ盤石衞卽チ溫州島ノ北(溫州島ナルモノハ甌江口ノ小島デアツテ溫州城デハナイ)ニ新港ヲ建設セントスルモノデアルガ、此ノ目的ヲ遂行スルニハ一ツノ堰堤ヲ北岸ト溫州島ノ北端トノ間ニ建設シテ此ノ島ノ北側ノ河流ヲ完全ニ閉塞シ、單ニ一開閉式ノ入口ヲ殘シテ甌江ニ到ラシメ之ヲ南水道ニ引キ、溫州島ヲ經テ其ノ附近ノ淺瀨ノ大部分ヲ埋築セシメ同時ニ上流ノ水流ヲ誘導シ、虎頭島ノ南側カラ港內ニ到ル通路ヲ浚渫シテ深クシ、此ノ通路ノ右側ニ於テ溫州島ト尾妖島トノ間ノ淺瀨及ビ尾妖島ト三盤島トノ各淺瀨ノ間ニ堤防ヲ建設シテ一連ノ堤防トスレバ、甌江ノ泥沙ヲ此ノ通路ニ侵入セザラシムルコトガ出來、ソウナレバ溫州ノ新港灣ハ常ニ水深キ水路ヲ保有スルコトガ出來ル。

第六、厦門。此ノ港モ亦古イ條約港デアツテ思明島ニ位置シ深クシテ廣ク且ツ良好ナル港面ヲ有シ、又相當ノ背後地ガアツテ福建江西兩省ノ南部ニ跨リ鐵、石炭ノ鑛產ニ富ンデ居ル。又此ノ港ハ馬來群島及ビ南方亞細亞ニ對シテ巨額ノ貿易ヲ有シ、アラユル南洋諸島、安南、緬甸、暹羅、馬來ノ各邦ニ於ケル中國出稼人ハ大抵厦門附近カラ渡航スルカラ厦門ト南洋トノ間ニ於ケル旅客運送業ハ極メテ盛ンデ、若シ鐵道ヲ發展セシメテ背後地ノ石炭、鐵鑛區ト連絡シタ曉ニハ厦門ハ必ズ開發サレ現在ニ比シテ更ニ大ナル海港トナリ得ル。余ハ此ノ港面ノ西方ニ新式ノ市街地ヲ建設シ江西、福建兩省南部ノ豐富ナル鑛區ノ一出口トセントスルモノデ、此ノ港ニハ新式ノ設備ヲ施シ陸海兩方面ノ運輸ヲヨク連絡セシムベキデアル。

第七、汕頭。汕頭ハ韓江口ニ位シ廣東省ノ極東部ニ在リ、海外移民關係ニ於テハ厦門ト酷似シテ居リ、大量ノ移民ヲ東南亞細亞大陸及ビ馬來群島ニ供給スルカラ其ノ南洋トノ船客ノ往來ノ頻繁ナルコトモ亦厦門ニ亞イデ居ル。海港トシテハ汕頭ハ其ノ背景ガ狹ク厦門ノ如ク大キナ背景ハナイガ內地水運デハ優勝ノ地位ニアリ、淺吃水船ヲ以テスレバ韓江ノ航行シ得ル部分ハ數百哩ニ達スル。又汕頭周圍ノ地方ハ農產極メテ豐富デ南方海岸地方中廣東「デルタ」ニ追隨シ得ルモノハ獨リノ此ノ地方ノミデアリ、韓江上流ニハ石炭、鐵鑛極メテ豐富デアツテ、汕頭カラ海ニ通ズル水路ニ極ク僅少ノ浚渫ヲ加フレバ容易ニ地方的良港トナスコトガ出來ル。

第八、電白。此ノ港ハ廣東省海岸ノ西江河口ト海南島トノ丁度中程ノ點ニアリ、其ノ周圍ハ農產、鑛床ニ富ンデ居ルカラ此ノ地ニモ一商港ヲ作ツテ船運ノ用ニ供スル必要ガアル。若シ堤防ヲ

作ツテ電白灣ノ西邊全部ヲ圍ヒ、別ニ灣ノ東南ニアル半島頸部ニ新出入口ヲ開鑿シテ深海ニ達セシムレバ立派ナ商港トナリ良好ナル通路モ得ラレルノデアル。此ノ港面ハ非常ニ廣濶デアルガ、其一部分ヲ浚渫シテ深クシ、巨船ヲ容レ得ル樣ニシ其ノ餘ノ部分ハ漁船ヤ其ノ他ノ淺吃水船用トシテ殘シ置クベキデアル。

第九、海口。此ノ港ハ海南島ノ北端ニ位シ瓊州海峽ニ臨ミ雷州半島ノ海安ニ對シテ居ル。厦門、油頭ト共ニ條約港デアリ、南洋ニ赴ク移民モ亦前記諸港同樣ニ多數デアル。海南島ニハマダ未開ノ地ガ多ク既墾地ハ僅ニ沿海一帶ノ地方ノミデ其ノ中央部ハ今モ尙繁茂セル密林デ黎族ノ居住スル所デアリ、其ノ鑛產ヲ埋藏スルコトモ極メテ豐富デ若シ全島ガ悉ク開發サレタナラ海口ニハ出入貨物ガ輻輳スル樣ニナルダラウ。海口ノ港面ハ大變淺ク小船ヲ航行セシムルニモ尙數哩ノ沖ニ錨ヲ下サネバナラズ、其ノ爲メニ貨客ノ積卸共ニ甚シク不便デアルカラ港面ハ是非共改良セネバナラヌ。況ンヤ此ノ港面ハ又他日、本大陸及此ノ島ノ鐵道ガ完成シタル曉ニハ兩地間往來ノ貨客ヲ積載スル聯絡船ノ埠頭ノ用ニ供セネバナラヌニ於テヲヤデアル。

漁業港トシテハ余ノ前述セル一二三等ノ海港ニ於テモ全部漁業ノ爲メニ便利適當ナル施設ヲ兼備スベキデ卽チ三個ノ一等港、四個ノ二等港、九個ノ三等港ハ悉ク同時ニ漁業港タラシムベキデ

アルガ、此ノ十六港以外ニ於テモ中國沿岸ニハ尙多クノ漁業港建設ノ餘地ガアルノミナラズ又其ノ必要ガアルノデアル。ダカラ余ハ北方ノ遼寧、河北、山東三省ノ海岸ニ左ノ如ク五個ノ漁業港ヲ建設シ樣トスルノデアル。

1、安　東　朝鮮トノ境ナル鴨綠江岸ニ在リ。

2、海洋島　鴨綠灣遼東半島ノ南ニ在リ。

3、秦皇島　河北海岸ノ遼東灣ト直隷灣トノ間ニ在リ、現在河北省ニ於ケル唯一ノ不凍港デアル。

4、龍　口　山東半島ノ西北方ニ在リ。

5、石島灣　山東半島ノ東南角ニ在リ。

東部ノ江蘇、浙江、福建三省ノ海岸ニハ左ノ如ク六箇ノ漁業港ヲ建設スル。

6、新洋港　江蘇省ノ東陲舊黃河口ノ南方ニ在リ。

7、呂四港　楊子江口北側ノ地點ニ在リ。

8、長塗港　舟山列島ノ中央ニ在リ。

9、石　浦　浙江省ノ東部、三門灣ノ北ニ在リ。

10、福　寧　福建省ノ東部、福州ト溫州トノ間ニ在リ。
11、湄州港　福州ト厦門トノ間、湄州島ノ北方ニ在リ。
南部ノ廣東省及海南島海岸ニハ左ノ如ク四漁業港ヲ建設スル。
12、汕　尾　廣東省ノ東海岸、香港ト汕頭トノ間ニ在リ。
13、西江口　此ノ港ハ横琴島ノ北側ニ建設スベク西江口ガ整理サレタ曉ニハ横琴島ハ海堤ニヨツテ本陸ト連絡シ一ツノ良好ナル港面地區ヲ出現スル。
14、海　安　此ノ港ハ雷州半島ノ末端ニ位シ、瓊州海峽ヲ隔テテ海南島ノ海口ト相對スル。
15、楡林港　海南島南端ノ一ツノ良好ナル港面デアル。

此ノ十五漁業港ハ之ヲ前述ノヨリ大ナル港ト合セ總計三十一アリ、支那全海岸線ヲ連ネ朝鮮境ノ安東カラ安南境ノ欽州ニ到ル迄百哩ノ海岸線毎ニ一港宛アル譯デ、余ノ海港及漁業港ノ計畫ハコレデ始メテ完成サレルノデアル。

コレヲ瞥見スレバ「一國デカクノ如ク多數ノ海港ト漁業港トヲ要スルカ」トノ疑ヲ起スデアラウガ、讀者ハ中國一國ノ大サハ歐州ト等シク其ノ住民ハ歐州ヨリ多キコトヲ知ラナケレバナラナイ。若シ余ヲシテ西歐ノ海岸線ト中國ノソレト等シキ長サトシテ計算セシムレバ歐洲ノ海港ノ多イコトハ遙ニ中國ニ過ギ、歐洲ノ海岸線ノ長サガ中國ニ數倍スルトスルモ百哩毎ニ計算スレバコレト相當スル樣ナ海港ノ數ハ一ニ止マラズ、例ヘバ和蘭ノ如キ其ノ地域ハ余ノ三等港中ノ汕頭一港ノ背後地ヨリモ大キクナイノニ尙「アムステルダム」ト「ロッテルダム」トノ二ツノ一等海港ガアリ、又多數ノ小漁業港ガ之ニ附隨シテ居ル。又北米合衆國ト其ノ海港ヲ比較スレバ米國ノ人口ハ僅ニ中國ノ四分ノ一デアルノニ、單ニ其ノ大西洋沿岸ノ海港ニ就テノミ見テモ既ニ余ノ計畫ニ擧ゲタ數ニ數倍シテ居ル。ダカラ此ノ海港ノ數ハ中國ニ於テ將來必要ナル用ニ應ズルモノバカリデアツテ、余モ亦始メカラ利益ヲ上ゲ得ベキモノノミヲ擇ンダノデ第一計畫中ニ規定シタ「必ズ有利ナル道ヲ選ブコト」ナル原則ヲ固守シタモノデアル。

第五項　造船所ノ創立

中國ガ既ニ余ノ計畫ヲ實行シテ十分ナル繁榮ヲ來シタ際ニ當ツテ更ニ緊要缺クベカラザルモノハ海洋ヲ航行スル商船隊デアリ、亦多數ノ沿岸及內地航行ノ淺吃水船デアリ、其他ニ無數ノ漁船ヲモ必要トスルノデアル。今次ノ世界大戰開始前ニ於ケル全世界海洋航行船舶ノ總噸數ハ四千五百萬噸デアツテ、中國ガ實業上其ノ人口ニ比例シテ相當發展スルナラバ少クトモ外洋航行船舶及ビ沿岸航行用商船ヲ一千萬噸位持ツテ居ナケレバ運輸ノ用ヲ充スコトハ出來ナイ。此ノ商船ヲ建

造スルコトハドウシテモ余ノ實業發展計畫中ノ一部ヲ占メナケレバナラヌ。中國ニハ廉價ナル勞力ト材料トガアリ外國ニ於テ建造スルヨリモ遙ニ廉價アリ、且ツ外洋航行船舶以外ニ吾人ハ尙多數ノ內河用淺吃水船及漁船ヲ建造シナケレバナラナイガ、此等ノ小船舶ヲ船載シテ遠ク大洋ヲ渡來スルコトハ實際容易デナイカラ外國ノ造船所ハ吾々ノ爲メニ此等ノ船舶ヲ建造スルコトハ出來ナイノデ、中國ハ此ノ際ドウシテモ自分デ其ノ造船所ヲ設備シ自力デ其ノ淺吃水船漁船船隊ヲ建造セネバナラヌ。ダカラ造船所ヲ建設スルコトハ必須ノ企業デアリ又始メカラ有利ナル企業デアル。尙此ノ造船所ハ內河及海岸ノ各開港場ニ建設シテ材料及ビ勞力ヲ得ル便宜ヲ計リ、且ツアラユル造船所ハ一ツノ機關カラ管理スルコトトシテ大資本ヲ此ノ計畫ニ投下シ、一年ニ各種ノ船舶二百萬噸ヲ建造スル程度トシ、ドノ船舶モ其ノ設計ヤ設備ヲ一定ノ基準ノ下ニ統一シ舊式ノ內河淺吃水船ヤ漁船ハ新式有效ナル設計ノモノト代ラシムベキデアル。內河淺吃水船ハ一定ノ吃水基準ヲ基礎トシテ設計サルベク例ヘバ二呎級、五呎級、十呎級等ニ區別シ、「トロール」船（船ノ傍ニ網ヲ着クルモノ）ハ一日航程船、五日航程船、十日航程船ノ基準等級ヲ定メ、近海船舶ハ二千噸級、四千噸級、六千噸級ニ分チ、外洋航行船舶ハ一萬二千噸級、二萬四千噸級、三萬六千噸級ヲ基準トシテ建設スベキデアル。カクスレバ今日萬ヲ以テ數フル內河航行船及漁船ノ中國各江各湖及沿岸ヲ往來スルモノハ標準ニ依テ統一サレ經費ハ少クテ能率ガ上リ、ヨリ新シクヨリ廉價ナル船隻ヲ以テコレニ代ヘルコトガ出來ルノデアル。

第五節　第四計畫

第一、第三ノ兩計畫ノ項下デ已ニ西南鐵道系統及ビ西北兩鐵道系統ノ二計畫ハ詳說シテ置イタ。前者ハ蒙古、新疆ノ廣大ナル無人境ニ長江沿岸並ニ沿海地方ニ蝟集セル稠密ナル人口ヲ移住セシメ、兼テ北方大港ヲ開發スル目的デアリ、後者ハ中國西南部ノ鑛產富源ヲ開拓シ又廣州ノ南方大港ヲ開發スル爲メデアルガ、此外ニモ尙多數ノ鐵道ヲ敷設シテ全國ニ亘リ相當ノ開發ヲ企畫スルノ必要ガアル。ソコデ此第四計畫デハ國際共同發展計畫ノ緖論中ニ上ゲテアル十萬哩鐵道計畫ニ就テ詳細ナル說明ヲ加ヘントスルモノデアツテ其大綱ハ次ノ通リデアル。

(一) 中央鐵道系統
(二) 東南鐵道系統
(三) 西北鐵道系統ノ擴張
(五) 高原鐵道系統

(六)　機關車、客車、貨車製造工場ノ創設

第一項　中央鐵道系統

此系統ハ中國鐵道系統中デモ最モ重要ナル地位ヲ占ムルニ至ルモノデ其勢力ノ及ブ範圍ハ長江以北ノ中國本部及ビ蒙古新疆ノ一部ヲ包含スルモノデアル。此廣大ナル地域ノ經濟的性質ヲ一瞥スレバ東南ノ一部ハ人口頗ル稠密デアリ西北ハ稀薄デアル。東南ニハ鑛產ノ大富源ガアリ、西北ニハ地中ニ潛在セル農業ノ富源ガアツテ本系統中ノ各線ガ保有スル利源ハ正ニ京奉線（現在ノ北寧鐵路）ト伯仲ノ間ニアリト云フベキデアル。

本系統ニ屬スル諸線ハ北方、東方ノ兩大港ヲ其終點トスルモノデ現存並ニ既定計畫以外更ニ次ノ各線ヲ建設シテ本系統ノ完成ヲ期スルモノデアル。

1、東方大港塔城線
2、東方大港庫倫線
3、東方大港烏里雅蘇臺線
4、南京洛陽線
5、南京漢口線
6、西安大同線
7、西安寧夏線
8、西安漢口線
9、西安重慶線
10、蘭州重慶線
11、安西州于闐線
12、嫐羌庫爾勒線
13、北方大港哈密線
14、北方大港西安線
15、北方大港漢口線
16、黃河口漢口線
17、芝罘漢口線
18、海州濟南線
19、海州漢口線

20、海州南京線
21、新洋港南京線
22、呂四港南京線
23、海　岸　線
24、霍山嘉興線

(1)　東方大港塔城線

本線ハ東方大港ノ海岸ニ起ツテ西北ニ向ヒ露西亞國境ノ塔城ニ至ルモノデ全長約三千哩、若シ上海ヲ東方大港トスレバ現在ノ滬寧線（卽チ京滬線）ハ本線ノ第一段トナリ、又乍浦ヲ東方大港トスレバ太湖ノ西南岸ニ沿ウテ湖州、長興、溧陽ヲ經テ南京ニ至リ、南京ノ南方デ長江ヲ横ギリ、全椒、定遠ニ至ツテ西ニ轉ジ壽州、潁上ヲ過ギ新蔡ニ於テ河南省ニ入リ、霍山ニテ京漢線（平漢線）ヲ横斷シ、泌陽、唐縣、鄧州ヲ經テ西北ニ轉ジ浙川及ビ荆紫關ニテ陝西省ニ入リ、丹江峽谷ヲ遡リ龍駒寨及ビ商州ヲ經、藍關ヲ過ギテ藍田及ビ西安ニ至ルモノ、西安ハ陝西ノ省城、中國ノ舊都デアル。西安カラハ渭水ニ添フテ西行シ盩厔、郿縣、寶鷄ヲ過ギ、三盆デ甘肅省ニ入

リ秦州、鞏昌、狄道ヲ經テ甘肅省城蘭州ニ至リ、蘭州カラハ古代ノ通路ニ沿ウテ涼州、甘州、肅州、玉門、安西州ヲ過ギコレヨリ西北方ノ沙漠ヲ横ギリテ哈密ニ到リ、哈密ヨリ西ニ轉ジテ土魯番ニ達シ、同地ニテ西北鐵道系統ノ線ニ合シテ廸化、綏來ニ出デ綏來ヨリ又分岐シテ國境上ノ塔城ニ到達スルモノデ其途中デ齋爾山ヲ横斷スルモノデアル。本線ハ中國ノ一端カラ他ノ一端迄通ズルモノデ全長三千哩ニ達スルガ其中間僅ニ四山脉ヲ經過スルノミデ、此四山脉モ左シテ險阻ナルモノニ非ルコトハ本通路ガ有史以前ガラ已ニ歐亞通商ノ大道ニナツテ居ツタノヲ見テモ明カデアル。

(2)　東方大港庫倫線

本線ハ定遠迄ハ上記第一線ニヨルモノデ定遠ハ長江横斷後ノ第二驛デアル。定遠カラハ西北ニ向ツテ淮河畔ノ懷遠ニ至リ、蒙城、渦陽、亳州ヲ過ギテ河南省ニ入リ歸德ヲ經テ山東省ニ出デ曹縣、定陶、曹州ヲ越エ黄河ヲ渡ツテ河北省ニ入リ開州ヲ過ギテ又河南省ニ入リ、彰德ヨリ清漳河ノ谷地ヲ西北行シテ山西省ニ入リ山西省ノ大鐵鑛區及ビ炭田ノ東北隅ヲ貫通シテ遼州、儀城ヲ經テ分水嶺ヲ踰エ洞渦水ノ谷地ニ沿ヒテ楡次、太原ニ至リ、太原ヨリ西北行シテ更ニ他ノ石炭鐵鑛區ヲ過ギ苛嵐ニ至ツテ西ニ轉ジ保德ニ於テ黄河ヲ渡リ、陝西省東北隅ノ府谷ヨリ北行シテ萬里ノ長城

ヲ踰エ綏遠區ニ入リ、再ビ黃河ヲ渡ツテ薩拉齋ヨリ西北方大平原ヲ通過シテ西北幹線ノA接合點ニ接續シ多倫諾爾庫倫本線ニヨリ庫倫ニ達スルモノデ、中國中部ノ人口最密ノ地方カラ中部蒙古ノ土地肥沃人口稀少ナル大地域ヲ通過シ其延長ハ定遠カラA接合點ニ至ル迄約一千三百哩デアル。

(3)　東方大港烏里雅蘇臺線

東方大港カラ第一線ヲ利用シテ定遠ニ至リ更ニ第二線ニヨツテ亳州ニ出デ之レヨリ西行シテ河南ノ鹿邑ニ至リ、西北ニ轉ジテ太康、通許ヲ經、中牟ニ於テ海蘭線ト合シ並行シテ鄭州、滎陽ヲ通過シ汜水ニテ黃河ヲ渡リ溫縣、懷慶ヲ過ギテ山西省ニ入リ陽城、沁水、浮山ヲ經テ平陽ニ至ツテ汾水ヲ渡リ蒲縣、大寧ヨリ西轉シテ再ビ黃河ヲ過リ、陝西省延長ヨリ延水流域ニ從ツテ延安、小關、靖邊ニ達シ萬里ノ長城ノ南側ニ沿ヒテ甘肅ニ入リ又黃河ヲ渡ツテ寧夏ニ至リ、寧夏ヨリ西北、賀蘭山脈ヲ越エテ沙漠ノ緣邊ナル定遠營ニ出デ一直線ニ西北行シテ西北鐵道系統ノB接合點ニ至リ此系統ニ合シテ烏里雅蘇臺ニ達スルモノデ、途中通過スル所ノ砂漠及ビ草地ノ部分ハ灌漑工事ニヨツテ大イニ改善セラルベキモノデアル。亳州カラB接合點迄ノ距離ハ一千八百哩。

(4)　南京洛陽線

本線ハ中國ノ二舊都ヲ連絡シ人口最モ稠密、土地極メテ肥沃ナル地方ヲ通過シ、又洛陽附近デハ豐富ナル鑛產地ニ接觸スルモノデアル。線路ハ南京カラ第一第二ノ兩線ニヨツテ懷遠ニ達シ西ニ分レテ太和ヲ經テ河南省ニ入リ、大沙河ノ左岸ニ沿ウテ一大商業地タル周家口ニ至リ臨潁ニテ平漢線ト交叉シ大炭田所在地タル襄城、禹州ヨリ嵩山ノ分水嶺ヲ踰エテ洛陽ニ達シ海蘭線ニ連絡スルモノデ懷遠洛陽間三百哩デアル。

(5)　南京漢口線

本線ハ揚子江ノ左岸ニ沿ヒ支線ヲ以テ九江ト連絡スルモノデ、南京ノ對岸カラ起ツテ西南ニ向ヒ、和州、無爲州及ビ安徽省城安慶、宿松黃梅ニ至リ之レヨリ支線ニテ小池口ニ至ツテ揚子江ヲ渡ツテ九江ニ連絡シ、黃梅ヨリハ西ニ轉ジテ廣濟ニ至リ更ニ西北ニ轉ジテ蘄水ヨリ西方漢口ニ達スル約三百五十哩、大部分ハ平坦地デアル。

(6)　西安大同線

本線ハ西安ヨリ北方三原、耀州、同官、宜君、中部、甘泉ヲ經テ延安ニ於テ東方大港烏里雅蘇臺線ト合シ東北ニ轉ジテ綏德、米脂及ビ黃河右岸ノ葭州ニ至リ黃河ニ沿ヒテ蔚汾河黃河會合點ニ達シ此處ニテ黃河ヲ渡リ蔚汾河ノ谷地ニ從ツテ興縣、苛嵐ニ至リ東方大港庫倫線ト交叉シコレヨ

リ五寨、羊房ヲ過ギ萬里ノ長城ヲ越エテ朔州ヨリ大同ニ至ツテ平綏線ト連絡スル約六百哩デ途中有名ナル陝西油田地方並ニ山西西北炭田ノ北境ヲ通過シ居リ、大同張家口間ノ平綏線ヲ通ジテ將來西北系統中ノ張家口多倫諾爾線ニ屬スベキモノデアル。

(7)　西安寧夏線

本線ハ西安ヨリ西北行シテ涇陽縣、淳化、三水（今栒邑ト改稱）ヲ經テ甘肅省ニ入リ、正寧ニテ西ニ轉ジ寧州ヨリ環河ノ谷地ニ入リ其左岸ニ沿ウテ慶陽府及ビ環縣ニ至リ、河岸ヲ離レテ清平、平遠ヲ過ギ再ビ環河ト會シテ其谷地ヲ上リ分水嶺ヲ踰エテ靈州ニテ黃河ヲ渡リ寧夏ニ達スル約四百哩デ豐富ナル鑛產地及ビ油田ヲ經過スルモノデアル。

(8)　西安漢口線

本線ハ黃河流域中最モ富饒ナル一區域ト長江流域中最モ富饒ナル一區域トヲ連絡スル重要線デアツテ、西安カラ第一線ヲ利用シテ秦嶺ヲ踰エ丹江ノ谷地ニ出デ、淅川ニ至リ之レヨリ分岐シテ湖北省ニ入リ漢水ノ左岸ニ沿ウテ老河口ヨリ襄陽ノ對岸樊城ヲ經テ安陸ニ至リ、一路東南漢川及ビ漢口ニ達スル約三百哩デアル。

(9)　西安重慶線

本線ハ西安ヨリ南行シテ直ニ秦嶺ヲ踰エ漢水ノ谷地ニ入ツテ寧陝、石泉、紫陽ヲ過ギテ任河ノ谷地ニ進ミ大竹河ニ於テ四川省ニ入リ、大巴山ノ分水嶺ヲ越エテ太平河ノ谷地ヲ下リ綏定、渠縣ヲ經テ谷地ノ左方ニ轉入シテ鄰水ニ至リ通商路ニ沿ヒテ江北及ビ重慶ニ達スル全長約四百五十哩デ物產豐富ノ地域ヲ通過シ居リ又木材ノ產出ガ多イ。

(10)　蘭州重慶線

本線ハ蘭州ヨリ第一線ニ依リテ東南ニ向ヒ狄道ヨリ分岐シテ洮河ノ谷地ニ入リ、岷山ノ分水嶺ヲ踰エ黑水ノ谷地ヲ下ツテ階州ニ出デ碧口ノ下流ニテ四川省ニ入リ昭化ニ至ル。黑水河ハ昭化ニテ嘉陵江ニ合シテ之レヨリ嘉陵江ニ沿ヒテ保寧、順慶、合州、重慶ニ下ルモノデ全長約六百哩、沿道ハ物產並ニ鑛山ガ多イ。

(11)　安西州于闐線

本線ハ戈壁ノ砂漠ト「アルティンタハ」嶺トノ中間ニアル一帶ノ肥沃ナル地方ヲ貫通スルモノデアル。此地方一帶ハ元來無數ノ內地灌漑ノ小河川ニ依ツテ潤ホサレテ居ル土地デアルガ、其人口ノ頗ル稀薄ナルハ取リモナホサズ交通機關ノ缺乏ニ起因スルモノデアルカラ本線ノ完成ト共ニ此地域ガ中國人ノ殖民地トシテ最モ價値アル地帶トナルベキコトハ疑ヒヲ容レザル所デアル。線

路ハ安西州カラ起ツテ西方敦煌ニ至リ、「ロブノール」湖ノ南岸ニ沿ウテ嬀羌ニ至リ車城ヲ經テ于闐ニ達シ西北系統線ノ終點ト接續スルモノデ、之レニヨツテ東方大港ト中國最西端ノ喀什葛爾トヲ連絡シ得ルモノデアル。安西州カラ于闐ニ至ル間ハ約八百哩。

(12)　嬀羌庫爾勒線

本線ハ塔里木河ノ下流ニ沿ウテ砂漠ヲ横斷スルモノデ沿道ノ地方ハ水利ニ富ミ此線ノ完成ト共ニ有望ナル殖民地ヲ形成スルニ至ルベク延長約二百五十哩、砂漠ノ北端ヲ通ズル線ト相接續シテ此兩肥沃地ヲ連絡セシムル捷徑デアル。

(13)　北方大港哈密線

本線ハ北方大港ニ起ツテ西北方寶坻、香河ヲ經テ北平ニ出デ北平、張家口間ハ平綏線ヲ利用シ、之レヨリ蒙古ノ高原ニ進入シテ隊商ノ通路ニ循ツテ西北行シ、陳臺、布魯臺、哲斯、托里布拉克ヲ經、托里布拉克カラ西方一直線ニ内外蒙古ノ平野ト沙漠ヲ横斷シテ哈密ニ達スルモノデ、哈密デ東方大港塔城線ト連絡シ之レニ依ツテ西方新疆省ノ首府廸化ニ達スルコトガ出來ル。從ツテ本線ハ廸化ト北平及ビ北方大港ノ直通線ト云ヒ得ベク延長約一千五百哩デ大部分ハ耕作可能ノ土地ヲ通過シテ居ルカラ完成後ハ殖民上重要ノ線トナルデアラウ。

(14)　北方大港西安線

本線ハ北方大港ヨリ天津ニ至リ靜海、大城ヲ經テ河間ニ出デ河間ヨリ更ニ西行シテ深澤、無極ヲ過ギ正定ニ於テ平漢線ト交叉シ之レヨリ正太線ヲ利用スルモノデ、正太線ノ狹軌ハ標準軌間ニ改造シテ太原トノ交通ヲ便利ナラシムルヲ要シ、太原カラハ西南ニ向ツテ交城、文水、汾州隰州ヲ經テ大寧ニ至リ大寧ヨリ西ニ轉ジテ黄河ヲ渡リ又西南ニ向ツテ宜川、洛川、中部ニ至リ中部デ西安大同線ニ合シ其線路ニヨツテ西安ニ達スル約七百哩デ、沿線ハ農產物極メテ豐富デ又鐵、石炭、石油ノ廣大ナル產地デアル。

(15)　北方大港漢口線

本線ハ北方大港カラ海岸線ニ沿ウテ北塘、大沽、岐口ヲ過ギ鹽山ヲ經テ樂陵ニテ山東省ニ入リ、德平、臨邑ヨリ禹城ニ出デ、津浦線ヲ横ギリ、東昌、范縣ニ至ツテ黄河ヲ渡リ曹州ヲ過ギテ河南省ニ入リ海蘭線ト交叉シテ睢州ニ至リ進ンデ大康ニテ更ニ第三線ト交叉シ、陳州、周家口ヲ過ギテ又第四線ト交叉シ項城、新蔡、光州、光山ヲ經過シテ分水嶺ヲ踰エ、湖北省ニ入ツテ黄安ヲ經テ漢口ニ至ル延長約七百哩デ北方大港カラ中國中部ノ商業中心地ニ至ル線路デアル。

(16)　黃河港漢口線

本線ハ黃河港カラ西南行シテ博興、新城、長山ヲ過ギテ膠濟（山東）線ト交叉シテ博山ニ出デ分水嶺ヲ越エ、汶河ノ谷地ヨリ泰安ニ至リ津浦線ヲ過ギテ寧陽、濟寧ヲ經、一直線ニ西南ニ向ツテ安徽ノ亳州、河南ノ新蔡ニ至リ、新蔡カラハ前項ノ北方大港漢口線ニ合シテ漢口ニ至ルモノデ黃河港カラ新蔡迄約四百哩デアル。

(17)　芝罘漢口線

本線ハ山東半島北部ノ芝罘ニ起ツテ半島ヲ横斷シ萊陽、金家口ヲ經テ南海岸ノ卽墨ニ出デ卽墨カラ膠州灣奥ノ低濕地ヲ通過シテ一氣ニ諸城ニ至リ分水嶺ヲ經テ、沐河ノ谷地ニ入リ、莒州沂州ヨリ進ンデ徐州ニテ津浦海蘭兩線ト會シ津浦線ヲ利用シテ安徽ノ宿州ニ達シ、之レヨリ分岐シテ蒙城、潁州ヲ經テ河南ノ光州ニ至リ北方大港漢口線ニ合シテ漢口ニ至ルモノ、芝罘カラ光州迄ノ延長約五百五十哩デアル。

(18)　海州濟南線

本線ハ海州ニ起ツテ臨洪河ニ沿ヒ歡墩埠ヨリ西ニ轉ジテ臨沂ニ至リ、臨沂ヨリ北向シテ又西北ニ轉ジ蒙陰、新泰ヲ經テ泰安ニテ津浦線ニ合シ之ニ依リテ濟南ニ達スルモノ、海州泰安間約百十哩デ山東南部ノ鐵石炭鑛區ヲ貫通スルモノデアル。

(19)　海州漢口線

本線ハ海州ヨリ出發シテ西南沐陽、宿遷ニ至ル間ハ或ハ海蘭線ノ豫定線ト同一ナルベク宿遷ヨリ泗州、懷遠ヲ經テ東方大港庫倫線及烏里雅蘇臺線ト交錯シ、壽州正陽關ヲ過ギテ河南省ノ東南角ヲ横ギリ湖北省トノ分水嶺ヲ越エ麻城ヲ經テ漢口ニ達スル約四百哩デアル。

(20)　海州南京線

本線ハ海州ヨリ南行安東、淮安ヲ經テ寶應湖ヲ渡リ（本湖ハ第二計畫第四項ノ淮河整理ノ項下デ埋立テルコトニナツテキル）天長、六合ヲ過ギテ南京ニ達スル延長百八十哩デアル。

(21)　新洋港漢口線

本線ハ新洋港ヨリ鹽城ニ至ツテ大縱湖ヲ渡リ（本湖モ埋立テノコト）淮安ヨリ西南ニ轉ジテ洪澤湖ノ東南角ヲ横ギリ（本湖モ同樣埋立ツベキモノトス）安徽ノ盱眙ヲ過ギ明光附近ニテ津浦線ト交叉シ定遠ニ至ツテ第二、第三兩線ト會シ、六安霍山ヲ經テ湖北省ニ入リ羅田ヲ過ギテ漢口ニ達スル約四百二十哩デアル。

(22)　呂四港南京線

本線ハ呂四港ヲ基點トスル。呂四港ハ將來楊子江口ノ北端ニ建設セラルベキ漁業港デアツテ同港ヨリ西方通州ヲ經テ西北如皋ニ至リ又西行シテ泰州、楊州、六合、南京ニ至ル全長約二百哩ノ線デアル。

(23) 海岸線

本線ハ北方大港ヲ起點トシ北方大港漢口線ニヨリテ岐口ニ達シ、之レヨリ分岐シテ海岸ニ密接南行シ山東ノ黃河港ヨリ萊州ニ至ツテ海岸ヲ離レ、一直線ニ招遠及ビ芝罘ニ向フコトトシテ煙濰線ノ計畫ト重復スルコトヲ避ケ、芝罘カラハ東南ニ向ヒ寧海文登ニ至リ文登ヨリ榮城ニ支線ヲ設ケ、又別ニ一支線ヲ以テ石島ニ至リ、榮城ヨリハ西南ニ轉ジテ海陽、金家口ニ至ツテ芝罘漢口線ト合シ、之ニ依ツテ膠州灣ノ西端ニ達シ南折シテ靈山街ニ出デ西南方海岸ニ沿ヒテ日照ヨリ江蘇省ニ入リ、贛榆ヲ過ギテ海州ニ至リ西南ニ進ンデ鹽城、東臺、通州、海門ヲ經テ崇明島ニ達スルモノ、崇明島ハ楊子江ノ治水堤防タルモノナレバ大陸ト聯結スベキモノデアリ、崇明カラ上海迄ハ列車搭載ノ渡船ヲ以テ連絡スベキモノデアル。本線ノ岐口カラ崇明迄ハ延長約一千哩デアル。

(24) 霍山蕪湖蘇州嘉興線

本線ハ霍山ヨリ舒城、無爲ヲ經テ楊子江ヲ渡ツテ蕪湖ニ至リ高淳、溧陽、宜興ヨリ大湖ノ北端ヲ過ギテ（將來築港ノコト）蘇州ニ至リ滬寧線ニ合シ、蘇州ヨリ南行シテ滬杭線ノ嘉興ニ達スルモノデ安徽江蘇兩省中ノ殷富地域ヲ通過シ、將來上海漢口直通線ノ中堅トナスベキモノ、延長三百哩デアル。

以上中央鐵道系統各線ノ總計哩數ハ一萬六千六百哩デ卷頭ノ圖面ニ示セル通リデアル。

第二項　東南鐵道系統

本系統ノ區域ハ大體不規則三角形ヲ爲シ居リ此區域內ヲ縱橫ニ走リ居ルモノデ、其三角形ハ東方大港ト廣州間ノ海岸線ヲ底邊トシ、上海重慶間ノ楊子江ヲ一邊トシ、更ニ重慶ヨリ湖南ヲ經由シテ廣州ニ至ル線ヲ他ノ一邊トシ重慶ヲ頂點トスルモノデアル。本地域ハ浙江、福建、江西ノ三省及ビ江蘇、安徽、湖北、湖南、廣東各省ノ一部ヲ包含シ居リ農產物、鑛產物殊ニ鐵石炭豐富ニシテ隨處ニ之レヲ發見シ得ラレ、且ツ人口ノ密度モ頗ル大ナルモノガアルカラ鐵道建設ニヨル利益モ亦甚大ナルモノデアル。

東方大港、南方大港及ビ其中間ノ二三等港ハ之等鐵道ノ終點トナルベキモノデ建設スベキ各線ハ左記ノ通リデアル。

1　東方大港重慶線

2　東方大港廣州線
3　福州鎭江線
4　福州武昌線
5　福州桂林線
6　溫州辰州線
7　厦門建昌線
8　厦門廣州線
9　汕頭常德線
10　南京韶州線
11　南京嘉應線
12　東方南方兩大港間海岸線
13　建昌沅州線

(1)　東方大港重慶線

本線ハ楊子江ノ南部ヲ殆ンド一直線ニ中國西部ノ商業中心地タル重慶ト東方大港トヲ繫グ線路

デアツテ東方大港カラ杭州、臨安、昌化ヲ經テ安徽省ノ徽州（歙縣）ニ至リ進ンデ休寧、祁門ヨリ江西省ニ入リ湖口ヲ經テ九江ニ出デ、之ヨリ楊子江ノ右岸ニ沿ウテ湖北ノ興國州ニ至リ通山、崇陽ヨリ湖南ノ岳州ニ達シ一直線ニ洞庭湖ヲ貫キテ（洞庭湖ハ將來整理埋立ヲ要ス）常德ニ進ミ澧水ノ谷地ヲ遡リテ慈利ヨリ湖北ノ鶴峰ニ入リ施南、利川ヲ過ギ、施南ヨリハ東北宜昌ニ一支線ヲ出シ又利川ヨリモ西北萬縣ニ別ノ支線ヲ出スモノデアル。此宜昌及ビ萬縣ハ何レモ楊子江ノ右岸ニアル。利川カラハ四川省ニ入ツテ石砫ヨリ涪州ニ至リ此地デ廣州重慶線ノ甲線ニ會シ烏江ヲ過ギ楊子江ノ右岸ニ沿ウテヨリ再ビ廣州重慶間ノ乙線ニ合シ同一橋梁ヲ渡ツテ對岸ノ重慶ニ達スルモノ、支線ヲ合シ全長約千二百哩。

(2)　東方大港廣州線

本線ハ一等港灣ト一等港灣トヲ一直線ニ連結スルモノデ東方大港カラ杭州ヲ經テ西南ニ折レ錢塘江ノ左岸ニ沿ウテ上リ富陽、桐廬、嚴州、衢州ヲ過ギ江西ノ廣信（上饒）ヨリ上清、金谿、建昌、南豐、廣昌、寧都、雩都、信豐、龍南ヲ經テ江西、廣東兩省界ノ分水嶺ヲ踰エ長寧（新豐）從化ヨリ廣東ニ達スル約九百哩デアル。

(3)　福州鎭江線

本線ハ福州ニ起リ羅源、寧德ヲ經テ福安ニ於テ福建浙江兩省界ヲ踰エ、泰順、景寧、雲和、處州ヨリ武義、義烏、諸暨ヲ過ギテ杭州ニ達シ德清、湖州ヨリ江蘇省ニ入リ宜興、金壇、丹陽ヲ經テ鎭江ニ至ルモノ延長五十哩デアル。

(4)　福州武昌線

本線ハ福州ヨリ閩江ノ左岸ニ沿ウテ水口、延平ヲ過ギ邵武ヨリ江西省ニ入リ建昌、撫州、省城南昌ヲ經テ湖北省ノ興國ヨリ武昌ニ達スル延長五百五十哩ノ線デアル。

(5)　福州桂林線

本線ハ福州ニ於テ閩江ヲ渡リ永福（永泰）大田、寧陽、連城、汀州（長汀）ヨリ江西省ニ入リ瑞金、雩都、贛州、上猶、崇義ヲ經テ湖南省ニ入リ桂陽縣（汝城）、彬州ニテ粵漢線ト交叉シ桂陽州、新田、寧遠、道州ニ至リテ廣州重慶間ノ甲乙兩線ト會シ南轉シテ道江ノ谷地ヲ遡リ廣西省界ヲ越エテ桂林ニ達スル延長七百五十哩デアル。

(6)　溫州辰州線

本線ハ溫州ノ新港ヨリ起リ甌江ノ左岸ニ沿ウテ上リ青田、處州、宣平ヲ經テ西ニ轉ジ江西省ノ玉山ニ至リ德興、樂平ヨリ鄱陽湖ノ南岸ヲ通ジ余干、南昌、瑞州（高安）上高、萬載ヲ過ギテ湖南ノ瀏陽ヨリ長沙ニ出デ寧鄉、安化ヲ經テ辰州ニ至リ廣州重慶間ノ甲線及ビ沙市興義線ト會スル延長八百五十哩デアル。

(7)　厦門建昌線

本線ハ厦門ノ新港ヨリ起リ長泰ヨリ九龍江ヲ遡ツテ濟平、寧洋、清流、建寧ヲ過ギ江西省ノ建昌ニ至リ東方大港廣州線、福州武昌線、建昌沅州線等ト相會スルモノデ延長二百五十哩デアル。

(8)　厦門廣州線

本線モ亦厦門ノ新港ヨリ起リ漳州、南靖、下洋ヨリ廣東省ノ大埔ニ出デ松口、嘉應、興寧、五華ヲ過ギ韓江及ビ東江ノ分水嶺ヲ踰エ龍川ヨリ東江ニ沿ヒ河源ニテ更ニ一分水嶺ヲ踰エテ龍門、增城、廣州ニ至ル延長約四百哩デアル。

(9)　汕頭常德線

本線ハ汕頭ヨリ潮州、嘉應ヲ經テ江西省ノ長寧（尋鄔）ニ入リ分水嶺ヲ踰エテ貢江ノ谷地ヲ下リ會昌、贛州、龍川（遂川）永寧（寧岡）蓮花ヨリ湖南省ノ株州、長沙、寧鄉、益陽ヲ經テ常德ニ終リ東方大港重慶線及ビ沙市興義線ト連接スル延長約六百五十哩デアル。

(10)　南京韶州線

本線ハ南京ヨリ楊子江ノ右岸ヲ遡リ太平、蕪湖、銅陵、池州、東流ヨリ江西ノ彭澤、湖口ニ至リ東方大港重慶線ト合シ該線ノ橋梁ニヨリテ鄱陽港ニ達シ、鄱陽湖ノ西岸ニ沿ウテ南康（星子）吳城南昌ニ至リ溫州辰州線及ビ福州武昌線ト會シ南昌ヨリ贛江ヲ遡ツテ臨江（江渡）吉安ニ至リ建昌沅州線ト交叉シ更ニ贛州ニ於テ福州桂林線ニ交叉シ、南康縣及ビ南安ヨリ大庾嶺ノ分水界ヲ踰エテ廣東省ノ南雄、始興ヨリ韶州ニ至リテ粵漢線ニ接續スル約八百哩デアル。

(11)　南京嘉應線

本線ハ南京ヨリ溧水、高淳ヲ經テ安徽省ノ宣城ニ入リ寧國、徽州ヲ過ギテ浙江省ニ入リ開化、常山、江山ヨリ福建省ノ浦城ニ出デ建寧（建甌）ヨリ延平ニ至ツテ福州武昌線ト交叉シ沙縣、永安ヲ經、寧洋ニテ福州桂林線及ビ厦門建昌線ニ會シ龍巖、永定ヨリ進ンデ松口ニ於テ厦門廣州線ト合シ嘉應ニ至ツテ止マル延長七百五十哩デアル。

(12)　東方南方兩大港間海岸線

本線ハ南方大港タル廣州ヲ起點トシ廣九鐵路ト同一方向ヲ取ツテ石龍ニ達シ之レヨリ分レテ東江ノ沿岸ヲ一路惠州ニ走リ三多祝、海豐、陸豐ヨリ東北ニ轉ジ揭陽、潮州ヨリ饒平ヲ經テ福建省ノ詔安ニ入リ雲宵、漳浦、漳州、厦門、泉州、興化ヲ過ギテ省城福州ニ出デ福州鎭江線ト同一方向ヲ取リテ福安ヨリ東ニ轉ジ福寧ニテ又北ニ轉ジ福鼎ヨリ浙江省ニ入リ平陽、溫州ニ至リ甌江ヲ渡リ樂清、黃巖、台州、寧海ヨリ寧波ニ至ツテ止マリ杭甬線ニテ杭州ヲ經テ東方大港ニ接續スルモノ、廣州ヨリ寧波迄ノ延長千百哩デアル。

(13)　建昌沅州線

本線ハ建昌ヨリ起リ宣貢、樂安、永豐、吉水ヲ經テ吉安ニ於テ南京韶州線ト會シ更ニ永新ヨリ蓮花ニ至ツテ汕頭常德線ト交叉シ、湖南省ノ茶陵ニ入リ安仁ヨリ衡州ニ出デテ粵漢線ニ交ハリ寶慶ニ進ンデ廣州重慶間ノ甲線ヲ横ギリ、西行シテ終點沅州（芷江）ニ至リ沙市興義線ニ接續スル延長約五百五十哩デアル。

以上東南鐵道系統ニ屬スル各線ノ總計哩數ハ九千哩デアツテ附圖ニ示セル通リデアル。

第三項　東北鐵道系統

此系統ハ滿洲ノ全部及ビ蒙古、河北省ノ一部分ヲ包含シ居リ其面積五十萬方哩人口二千五百萬ヲ有シ、三面ハ山ニ圍繞セラレ只南方ノミ開ケテ遼東ノ海灣ニ臨ムモノデアル。此三方面ノ山脈ニ圍マレタ中間低地ニ廣大肥沃ナル平原ガアツテ三ツノ河流ニ貫通セラレ北ニ瀫江アリ東北ニ松花江アリ南ニ遼河ガアル。此北部ノ地方ハ從來非常ニ閑却セラレタモノデアツタガ東支鐵道ノ開

通後中國最肥沃ノ地タルコトガ明白トナツタ譯デ、其產出スル大豆ハ日本全國ト中國一部ノ食料ニ供セラレテ居ル。此大豆ハ實ニ貴重ナモノデアツテ植物質中蛋白質ノ含有最大ナルモノデアリ、中國人ニヨツテ古ク發明セラレ肉類ノ代用品トシテ使用セラルルコト已ニ數千年以上デアル。此種ノ大豆ヨリ製造セラルル豆漿ハ其成分牛乳ト異ナラズ、又豆汁ヨリハ各種ノ食料品ヲ製造シ得ベク、近代化學者ノ證明スル所ニヨレバ其成分ハ肉類ニ勝ルト云ハレテ居ル。中國人ヤ日本人ハ之レヲ以テ肉ト牛乳ノ代用品トシテ居ル譯デアルガソレガ何時ノ時代ニ始マツタノカハ知ル人モナイ位デアル。所ガ近來歐米各國政府ノ食糧監理官ハ此肉類代用品ニ大ニ注目スル樣ニナツタ。此等大豆ノ歐米各國ヘノ輸出額ガ日增シニ增大スルノモ亦夫レガ爲メデアル。シテ見レバ滿洲ノ平野ハ確ニ世界的ノ大豆供給地ト云ハナケレバナラヌ。尙其外ニモ各種ノ穀類ヲ產出スルコト頗ル多額デ麥丈ケデモ優ニ「シベリア」東部全體ノ需用ヲ充タシ得ルノデアル。又其山中部ニハ木材ヤ鑛產ガ頗ル豐富デ金鑛ノ如キハ各地ニ發見セラレテ大ニ盛況ヲ呈シテ居ル。

以上ノ樣ナ狀態デアルカラ此區域ニ鐵道ヲ敷設スルコトハ最モ有利ナ事業タルニ相違ナク、已ニ敷設サレテ居ル三幹線中、北寧線ハ中國ニ於テ最モ繁昌スル鐵道デアリ、日本ノ南滿洲鐵道モ莫大ノ利益ヲ上ゲテ居ル。又東支鐵道ハ「シベリア」鐵道中最モ重要ナル部分デアル。此外ニモ尙日本人ニヨツテ計畫又ハ經營サレテ居ルモノガ數線アルガ全區域ニ亙ツテ發展ヲ策スル爲メニハ尙之レ以上ニ十分ノ鐵道網ヲ必要トスルモノデアル。

只之等鐵道網ノ各支線ヲ論ズル前ニ其中心地點ヲ建設スル要ガアル。之レハ蜘蛛ノ巢デ云ヘバ其中央ニ當ル處デ假リニ之レニ東鎭ト云フ名ヲ附シタイ。ソシテ其位置ハ嫩江ト松花江トノ合流地點ノ西南卽チ哈爾賓ノ西南約一百哩ノ地點トスレバ將來必ズ最モ有利ノ位置タルニ至ルベク、此新市街ハ單ニ鐵道網ノ中心タルバカリデナク遼河ト松花江ヲ連絡スル運河ノ成立後ハ水陸共交通ノ要地トナルベキ地點デアル。

此新計畫ノ市街地タル東鎭ヲ中心トシテ左記諸線ヲ建設スルコトトスル。

1　東鎭葫蘆島線
2　東鎭北方大港線
3　東鎭多倫線
4　東鎭克魯倫線
5　東鎭漠河線
6　東鎭科爾芬線

7　東鎮饒河線
8　東鎮延吉線
9　東鎮長白線
10　葫蘆島熱河北平線
11　葫蘆島克魯倫線
12　葫蘆島呼倫線
13　葫蘆島安東線
14　漠河綏遠線
15　呼瑪室葦線
16　烏蘇里圖們鴨綠沿海線
17　臨江多倫線
18　節克多博依蘭線
19　依蘭吉林線
20　吉林多倫線

(1)　東鎮葫蘆島線

本線ハ滿洲鐵道ノ中心地點ヨリ分出スル第一線デアツテ尙此ノ外ニモ遼東半島及ビ河北省ノ沿岸ニアル不凍港ニ直達スル線ガアルガ本線ヲ以テ最短距離ノモノトスル。本線ハ滿鐵ト並行スルモノデ北部デハ兩線間ノ距離八十哩ニ過ギズ、元來露國帝政政府トノ訂約ニヨツテ滿鐵トノ距離百哩以內ニハ並行線ヲ建設スルコトハ出來ナイノデアルガ、國際的發展計畫ヲ施行スルニ當ツテハ共同ノ利益カラ見テ此等ノ約束ハ廢除スベキ性質ノモノデアル。線路ハ東鎮カラ南向シテ滿洲ノ大平原ヲ走リ長嶺、双山、遼源、康平等ヲ經テ新民ニ至ル迄二百七十哩ノ一直線ヲナシ、新民カラハ北寧線ニヨツテ葫蘆島ニ至ル迄百三十哩デアル。

(2)　東鎮北方大港線

本線ハ中心地點カラ深吃水ノ不凍港ニ達スル第二線デアツテ、東鎮カラ西南ニ向ヒ東鎮ト西遼河トノ中間デ廣安ヲ經過シ西遼河ニ至ル迄ニ無數ノ小村落ヲ過ギ西遼河ヲ渡ツテ熱河區域ノ山地ヲ踰エ阜新縣城ニ出デ、再ビ分水嶺ヲ踰エテ大凌河ノ谷地ニ入リ更ニ其支流トノ分水嶺ヲ經テ灤河ノ流域ニ出デ萬里ノ長城ヲ越エ永平、樂亭ヲ過ギテ北方大港ニ至ル五百五十哩デアツテ前半ハ平地ヲ經過シ後半ハ山地ヲ經過スルモノデアル。

(3) 東鎮多倫線

本線ハ中心地點ヨリ分出スル第三線デアツテ、西方平原ヲ直走シテ洮南ニ至リ日本ノ計畫ニナル瓊琿熱河線ヲ横斷シ、又長春洮南間及ビ鄭家屯洮南間ノ兩計畫線ノ終點ト連絡スルモノデアル。洮南ヲ過ギテカラハ大興安嶺ノ東南山麓ヲ南走スルモノデ此邊一帶ノ山地ハ大森林ト大鑛產地デアル。ソレカラ更ニ上遼河ノ谷地ニ入ル。此谷地ハ北方ノ大興安嶺ト南方ノ熱河山地ヲ限ルモノデ、進ンデ林西、經棚等ノ都邑ヲ過ギテ多倫ニ達シ西北鐵道系統ノ幹線ニ合スルモノ延長四百八十哩デ大半ハ平地ヲ通過スルモノデアル。

(4) 東鎮克魯倫線

本線ハ東鎮中心地點ヨリ分出スル第四線デ、西北方ニ向ツテ殆ンド東支線ノ哈爾賓滿洲里線ト並行シ居リ兩線間ノ距離ハ百哩乃至百三十哩デアル。線路ハ嫩江松花江合流點ノ東鎮北端カラ西方嫩江ヲ渡ツテ大賚ニ至リ西北ニ轉ジテ平原ヲ横斷シ奎勒河ノ北支流ノ谷地ニ進入スルモノデ、此ノ谷地ニ入ツテ後ハ河流ニ沿ウテ水源地迄達シ大興安嶺ノ分水界ヲ踰エテ蒙古ノ平原ニ出デ哈爾哈河ノ右岸ニ從ツテ貝爾池ノ北端ニ至リ、コレヨリ西ニ轉ジテ克魯倫河ニ達シ其ノ南岸ニ沿ウテ克魯倫ニ達スルモノ、延長六百三十哩デアル。

(5) 東鎮漠河線

本線ハ中心地點ヨリ發出スル第五線デ嫩江松花江合流地ノ北岸ヨリ西北ニ向ツテ滿洲平原ノ北端ヲ横斷シテ齊々哈爾ニ至リ、齊々哈爾カラハ錦瓊計畫線ト同ジク西北方ニ向ヒ嫩江ノ左岸ニ沿ウテ嫩江縣ニ至リ、錦瓊線ト分レテ嫩江上流ノ谷地ヲ西北上シテ水源地ニ達シ大興安嶺ノ北端ヲ踰エテ漠河ニ達シ漠河多倫線ノ終端ニ接續スルモノ延長六百哩デ、始メノ四分ノ一ハ平原ヲ過ギ其ノ次ノ四分ノ一ハ嫩江ノ下流ニ沿ヒ、其ノ次ノ四分ノ一ハ嫩江上流ノ谷地ヲ上リ最後ノ四分ノ一ハ山地ヲ經過スルモノデ此ノ山地ガ有名ナル金產地デアル。只此ノ山地ハ地形甚ダ險阻ナルヲ免レナイ。

(6) 東鎮科爾芬線

本線ハ中心地點ヨリ分出スル第六線デ嫩江松花江合流地ノ北岸ヨリ平原ヲ横ギツテ肇東青岡等ノ都邑ヲ過ギ通肯河ヲ渡ツテ海倫ニ至リ、通肯河ノ谷地ヲ上ツテ小興安嶺ノ分水嶺ヲ踰エ科爾芬ノ谷地ニ下リ車陸ヲ經テ黑龍江ノ沿岸科爾芬江ニ達スル延長三百五十哩デ、三分ノ二ハ平地三分ノ一ハ山地デアル。此ノ線ハ東鎮カラ黑龍江ニ達スル最捷路デ對岸ハ露領デアル。

(7) 東鎮饒河線

本線ハ中心地點カラ分出スル第七線デ漱江松花江合流地ノ北岸カラ肇州ヲ經テ松花江ノ左岸ヲ繞リ平原ヲ過ギテ東支線ヲ横斷シ、呼蘭河ヲ渡ツテ呼蘭ニ至リ呼蘭ヨリ巴彦、木蘭、通河等ヲ經テ再ビ松花江ヲ渡ツテ三姓ニ至ルモノ三姓ハ卽チ現今ノ依蘭地方デアル。之レヨリ更ニ倭肯河ノ谷地ニ入リ分水嶺ヲ踰エテ七星碣子、大鍋蓋等ヲ經テ饒河ノ谷地ニ入リ沿岸ニアル無數ノ村落都邑ヲ縫ヒテ饒河縣ニ達シ、饒河ト烏蘇里河ノ合流地點ヲ終點トスルモノデ延長約五百哩、經過地方ハ皆肥沃ノ土地デアル。

(8)　東鎭延吉線

本線ハ中心地點ヨリ分出スル第八線デ漱江松花江合流點ノ東岸カラ松花江ノ右岸ニ沿ウテ東南方扶餘ニ至ル。扶餘ハ卽チ伯都納デ其ノ外沿岸ニハ都邑頗ル多ク、之レヨリ南滿線ヲ横斷シテ東ニ轉ジテ楡樹、五常ニ至リ五常ヨリ南轉シテ豐德棧ニ向ヒ進ンデ額穆ニ達シ、牡丹江ヲ渡ツテ凉水泉、石頭河ヲ過ギ、日本ノ會寧吉林線ト合シテ延吉ニ至ル延長三百三十哩、沿線ハ農產及鑛產極メテ豐富ナル地方デアル。

(9)　東鎭長白線

本線ハ中心地點ヨリ分出スル第九線デ漱江松花江合流點ノ南岸ヨリ東南方ニ向ヒ平原ヲ横ギツテ農安ニ至リ伊通河ヲ渡ツテ尙同一方向ニ進ミ伊通河ノ各支流ヲ越エテ九台站ニ至リ、吉長線ニヨリテ吉林ニ達シ、更ニ松花江ノ右岸ニ沿ウテ東南方拉法河トノ合流點ニ出デ松花江ニ從ツテ南ニ轉ジ、樺甸ヲ過ギテ尙遡江シ頭道溝ヨリ撫松ヲ經テ東南松香河ノ谷地ニ入リ、上ツテ長白山ノ分水嶺ヲ踰エ天池湖ノ南方ニ達シ又南ニ轉ジテ鴨江ニ沿ウテ朝鮮邊界ノ長白ニ至ル延長三百三十哩デ、最後ノ長白山ノ分水嶺ヲ通過スル地方ハ崎嶇羊腸タル山地デアル。

(10)　葫蘆島熱河北平線

本項以下述ブル處ハ東北鐵道系統計畫中更ニ別ノ「グループ」ヲ爲スモノデ此ノ「グループ」ハ勃海岸ノ不凍港ナル葫蘆島ヲ中心トスル。其ノ第一線ハ葫蘆島カラ西方ニ向ヒ沙河ノ谷地ヲ進ンデ新台邊門ニ出デ之レヨリ海亭、犄牛營子、三十家子等ノ山地ヲ過ギテ平泉ニ至リ尙同一方向ヲ取ツテ熱河ニ達スル、熱河ハ卽チ承德デアル。熱河カラハ舊時ノ官路（公用道路）ニヨツテ灤平ニ至リ西南古北口ニ於テ萬里ノ長城ヲ過ギ通路ニ從ツテ密雲、順義ヲ經テ北平ニ至ル二百七十哩デアル。

(11)　葫蘆島克魯倫線

本線ハ葫蘆島ヨリ分出スル第三線デ葫蘆島埠頭カラ一路北ニ向ヒ建平、赤峰等ノ熱河區域山地

ヲ過ギ通路ニ從ツテ遼河各地ノ上流地方ヲ經テ間場、西圖、大金溝、林西等ヲ通過シ林西カラハ陸家窩ノ谷地ニ入リ甘珠廟ノ右方ニ於テ大興安嶺最南ノ分水嶺ヲ踰エ進ンデ巴原布拉克、烏尼克特、歡布庫列ヲ經テ多倫克魯倫線ニ合シテ克魯倫ニ達スルモノ、歡布庫列ニ至ル迄ノ延長四百五十哩、經過地方ハ鑛產、木材、農業等ガ盛ンデアル。

(12) 葫蘆島呼倫線

葫蘆島ヨリ分出スル第三線デ錦州ヲ過ギ大凌河ノ右岸ヲ上ツテ義州ニ出デ、大凌河ヲ渡ツテ清河邊門阜新ニ至リ、阜新カラハ直北ニ向ツテ綏東ニ達シ西遼河ヲ渡ツテ開魯ニ至リ、大魚湖、小魚湖ノ間ヲ通過シテ合板、突泉ヲ經、大興安嶺ヲ踰エテ阿滿ノ谷地ニ入リ河流ニ沿ウテ呼倫ニ達スル約六百哩デ、經過地方ハ鑛產農業ガ殷盛デアリ又未開發ノ森林ガ多イ。

(13) 葫蘆島安東線

第四線ハ葫蘆島カラ東北方ニ向ヒ計畫中ノ遼河葫蘆島運河ニ沿ウテ北上シ東南ニ轉ジテ牛莊、海城ニ至リ、更ニ東南柝木城ニ出デ安奉線ニ合シテ朝鮮境ノ安東ニ達スル二百二十哩デ、前記葫蘆島熱河北平線ト連絡シテ朝鮮カラ北平ニ達スル最捷經タルモノデアル。

(14) 漠河綏遠線

本線ハ更ニ別ノ「グループ」ニ屬スル鐵道系統ノ第一線デアル。此ノ「グループ」ハ環狀形ヲナスモノデ東鎭中心地ヲ樞軸トシテ二ツノ半圓形ヲ作リ一ハ內方一ハ外方ニ位スルモノデアル。此ノ漠河綏遠線ハ漠河カラ黑龍江ニ沿ウテ烏蘇里、額木爾蘋果、奎庫堪、安羅、倭西們ヲ過ギ黑龍江ノ南折ニ從ツテ同ジク南方ニ向ヒ安幹察哈顏、望安達、呼瑪等ヲ經、呼瑪ヨリ更ニ錫爾根、奇奇拉、滿洲屯、黑河ヲ通ジテ愛琿ニ至リ、愛琿ニテ錦愛線ノ終點ト會シ此ノ地ヨリ次第ニ東ニ轉ジテ霍爾木勒津、奇克勒、科爾芬ニ達シ、科爾芬デ東鎭科爾芬線ニ會シ更ニ進ンデ烏雲、佛山、蘿北ヨリ同江ニ至ル。同江ハ黑龍、松花兩江ノ會流點デ本線ハ松花江ヲ渡ツテ同江ニ至リ街津口額圖ヲ經テ綏遠ニ達スルモノ、綏遠ハ黑龍、烏蘇里兩江ノ合流點デアリ、全長約九百哩、沿道ハ皆金產地デアル。

(15) 呼瑪室葦線

本線ハ漠河綏遠線ノ支線デ呼瑪カラ庫瑪爾河ニ沿ウテ大砬子、瓦巴拉溝等ノ金鑛地ヲ過ギ尙谷地ヲ西上シテ更ニ西南ニ轉ジ、同河ノ北源ニテ分水嶺ヲ踰エ哈拉爾ノ谷地ニ入ツテ室葦ニ達スル三百二十二哩デ金鑛多キ地方デアル。

(16) 烏蘇里圖門鴨綠沿海線

本線ハ外部半圓形ノ第二線デ綏遠ニ於テ第一線ニ接續シ、烏蘇里江ニ沿ウテ高蘭、富有、民康等ヲ經テ饒河ニ至リ東鎮饒河線ノ終點ニ會シ更ニ南行、烏蘇里江東ノ露國烏蘇里鐵道ト並行シテ虎林ニ達シ、虎林カラハ西方ニ轉ジ穆陵河ニ沿ウテ興凱湖ノ西北角ナル密山縣ニ至リ、更ニ平安鎮ヲ經テ南ニ轉ジ國境ヲ走ツテ小綏芬驛ニテ東支鐵路ヲ横斷シ、東寧ヲ過ギ尙國境ニ從ツテ五道溝、四道溝ノ會合點ニ至リ西ニ轉ジテ琿春ヲ經過シ又西北ニ向ヒ延吉ニ於テ日本ノ吉會線ニ會シ、同線ニ沿ウテ和龍ニ至リ分岐シテ圖門江ノ左岸ヲ西南行シ分水嶺ヲ踰エテ鴨綠江ノ谷地ニ入リ東鎮長白線ト會シ、之レヨリ西ニ轉ジ又西北ニ進ミ鴨綠江ノ右岸ニ沿ウテ臨江ニ至リ再ビ西南ニ偏シテ尙鴨綠江ノ右岸ヲ進ンデ輯安縣ヨリ安東ニ至リ、安奉線ヲ過ギテ江口ノ大東溝ニ出デ海岸線ヲ大孤山、莊河ニ進ミ西轉シテ平西屯、房店ヲ過ギ吳家店ニ於テ南滿鐵道ト會スルモノ延長一千一百哩、終始滿洲ノ東南國境ニ沿フモノデアル。

(17)　臨江多倫線

本線ハ東鎮中心點ヲ繞ル外部半圓形中ノ第三線デ中心點ヨリ南方ニ分出スル各線ト接續スルモノデアル。線路ハ鴨綠江ノ西南彎曲部ニ位スル臨江縣ニ起リ山地ヲ通過シテ通化、興京、撫順等ヲ經、奉天ニ於テ南滿路ヲ横ギリ北寧線ニヨツテ新民ニ至リ東鎮葫蘆島線ト交叉シ西北方新立屯ヲ經テ阜新ニ出デ遼河上流ノ山地ニ進入シ赤峰ニ向ヒ無數ノ小村落及ビ天幕地ヲ通過スル、之レ等ノ地方ハ皆大牧場地デアル。赤峯カラハ三座店、公主陵、大輾子等ヲ過ギ銀河ノ谷地ニ入ツテ發木谷ニ至リ吐根河ニ沿ウテ多倫諾爾ニ至ル約五百哩デアル。

(18)　節克多博依蘭線

本線ハ內部半圓形ノ第一線デ東鎮中心地カラ東北方ニ分出スル各線ト接續スルモノデアル。黑龍江上流ノ節克多博ニ起ツテ東ニ向ヒ又東南ニ偏シ大興安嶺ノ山谷ヲ横斷スルコト數所ニシテ漱江ニ達シ南轉シ克山、海倫ニ至リ松花江ヲ渡ツテ三姓卽チ依蘭ニ達スル延長約七百哩、農產及ビ金鑛ノ多イ地方デアル。

(19)　依蘭吉林線

內部半圓形ノ第二線デ西南方牡丹江ノ右岸ヲ進ミ頭站、二站、三站、四站ヲ過ギテ城子ニ於テ東支線ヲ越エ牡丹江ノ左岸ニ移ツテ寧古塔ニ出デ、寧古塔ヨリ西方ニ向ツテ甕城、藍旗站、搭拉站、鳳凰站ヲ經テ額穆ニ於テ吉會線ニ會シテ吉林ニ至ル延長約二百哩、牡丹江流域ノ肥沃地方ヲ經過スルモノデアル。

(20)　吉林多倫線

內部半圓形ノ第三線デ吉林カラ舊通路ニヨツテ長春ニ出デ東支線及ビ南滿線ト會シ平原ヲ橫ギツテ双山ニ至リ、東鎭葫蘆島線及ビ日本ノ四鄭洮南線ト交叉シ遼河ヲ渡ツテ遼源ニ進ミ再ビ大平原ヲ通過シテ東鎭北方大港線ヲ橫斷シ、綏東ニ於テ葫蘆島呼倫線ニ會シ遼河ノ谷地ヲ上ツテ葫蘆島克魯倫線ヲ過ギ分水嶺ヲ踰エテ多倫ニ至ル約五百哩デアル。

以上ニヨツテ東北鐵道系統ノ網狀計畫ハ完成スルモノデ全延長約九千哩、附圖ニ示セル通リデアル。

第四項　西北鐵道系統ノ擴張

西北鐵道系統ハ蒙古、新疆及ビ甘肅ノ一部分ヲ包含スル區域デ面積凡ソ百七十萬方哩デ「アルゼンチン」共和國ヨリモ約六十萬方哩大キイ。「アルゼンチン」ハ世界ニ肉類ヲ供給スル大生產地デアルガ蒙古ノ牧場ハ尙未ダ開發セズ、運搬不便ナレドモ「アルゼンチン」ガ米國ニ代ツテ世界ニ肉類ヲ供給シ居ル如ク蒙古モ鐵道ノ便利ヲ得又科學的方法ニヨツテ牧畜ヲ改良シタナラバ、將來必ズ「アルゼンチン」ニ取ツテ代ルベキ可能性ヲ有スルモノデ、斯ノ如キ食物ノ大生產地ニ鐵道ヲ建設スルコトハ最モ緊要事タルト共ニ世界食物ノ缺乏ヲ救濟スル所以デアル。余ハ曾テ中國實業國際共同發展ノ第一計畫中ニ於テ此地方ニ七千哩ノ鐵道ヲ敷設スルコトヲ提議シタコトガアル。コレハ北方大港建設ノ目的タルト共ニ又中國東南部地方ノ稠密ナル人口ヲ漸次此ノ地方ニ移民セシメントスルモノデ七千哩ハ尙第一歩ノ計畫ニ過ギズ、實際上ノ發展ヲ期スルニハ尙增築ノ必要アルベク左ニ其擴張計畫トシテノ各線ヲ記述スルコトトスル。

1　多倫恰克圖線
2　張家口庫倫烏梁海線
3　綏遠烏里雅蘇臺科布多線
4　靖邊烏里雅蘇臺線
5　肅州科布多線
6　西北邊境線
7　廸化烏蘭固穆線
8　戛什溫烏梁海線
9　烏里雅蘇臺恰克圖線
10　鎭西庫倫線
11　肅州庫倫線

12　沙漠聯絡驛克魯倫線
13　格合克魯倫節克多博線
14　五原洮南線
15　五原多倫線
16　焉耆伊犂線
17　伊犂和闐線
18　鎭西喀什噶爾線

(1)　多倫恰克圖線

本線ハ多倫ヨリ西北方ニ向ヒ驛路ニ沿ウテ大牧場ヲ横斷シ喀特爾呼、闊多、蘇疊圖等ヲ經テ外蒙古ニ入リ更ニ霍申屯、魯庫車魯、楊圖等ヲ過ギ克魯倫河ヲ渡ツテ額都根、霍勒闊ノ山地ニ入ルノデアル。此處デハ克魯倫河分水界ト赤奎河分水界トヲ横切ツテ居ルガ其ノ中克魯倫河分水界ノ水ハ黑龍江ニヨリテ太平洋ニ流レ込ミ、又赤奎河分水界ノ水ハ一旦「バイカル」湖ニ注ガレテ後、再ビ北氷洋ニ流レ出ル。此ノ河ノ分水界ヲ過通シタ後此ノ線ハ赤奎河ノ支流ニ沿ウテ恰克圖ニ至ルモノデ全長約八百哩デアル。

(2)　張家口庫倫烏梁海線

本線ハ萬里ノ長城ノ張家口カラ西北ニ向ヒ、高原地方ヲ進ミ山脈ヲ越エテ蒙古ノ大草地ニ達スルモノデアル。途中明安、博羅里治、烏得及格合等ヲ經由シテ多倫廸化幹線ト交叉スル。格合ヲ過ギテ後ハ穆布倫ノ廣大肥沃ナル牧場ヲ貫キ其ノ後ハ一直線ニ前進シテ穆克圖、那賴哈、庫倫ヲ通リ漸次山地ニ入リ、色楞格谷地ヲ横切リテ庫蘇古爾泊最南端ノ對岸ニ達シテ後、再ビ轉ジテ北進シ山脈ヲ越エ庫蘇古爾泊ノ南岸ヨリ哈特呼爾ニ向ヒ、其後庫蘇古爾泊ノ湖岸ニ沿ヒテ進ム事暫時、再ビ西北方ニ進ミ烏魯克穆河岸ニ沿ウテ國境通路近ク迄進ミ、次デ西南ニ折レテ直チニ克穆赤克ノ谷地ニ至ルモノデ起點ヨリ巴闊窪ヲ經由シテ中露國境ニ至リテ終ル迄ノ距離約一千七百哩。

(3)　綏遠烏里雅蘇臺科布多線

本線ハ綏遠ヲ起點トシ山西省ノ西北隅近クヲ西北方ニ向ツテ前進シ山地ヲ過ギ蒙古ノ託里布拉克牧場地方ニ入リ、此處デ北方大港哈密線及ビ北方大港庫倫線ト會スル。託里布拉克ヲ過ギテ後、本線ハ尙モ同一方向ニ直進シ匝們蘇治ヲ通リ土謝圖ノ首府ニ至リ此處カラ直チニ西北走シテ霍勒特ニ向ヒ、再ビ通商路ニ沿ウテ郭里得果勒ニ出デ其後復タ西北ニ進ンデ河流溪谷數箇所ト小

都市ヲ過ギテ烏里雅蘇臺ニ達シ、北方大港及ビ烏魯木齊線ノ第二驛ヨリ發スル支線ト相會スル。烏里雅蘇臺ヲ過ギテ後ハ通商路ニ沿ウテ西走シ呼都克卒爾、巴爾淖爾及ビ匝哈布魯等ヲ經テ科布多ニ出デ、此處デ西北方ニ轉ジ歡戛喀圖及ビ列蓋等ノ諸地ヲ通ツテ又西走シテ別留ニ至リ國境ヲ終點トスル。全長約一千五百哩、

(4)　靖邊烏梁海線

此ノ線ハ陝西省西北境界線ト萬里長城トガ相接スル靖邊カラ起ツテ途中波羅波勒格孫、鄂託、臣濁等ノ諸處ヲ經、黃河ヲ越エテ三道河ニ至リ哈那々林烏拉嶺ヲ上リ、西北方蒙古大草地ヲ經テ後古爾斑昔哈特デ北平哈密線ト交叉シ烏尼格圖、恩京ニ至ル。恩京ハ卽チ北方大港烏魯木齊線ノ通過點デアル。恩京ヨリ先ハ溪谷地ト分水界地方ヲ通リ北方西庫倫ニ至リ、再ビ西北行シテ色楞格河流域ノ各支流及溪谷ヲ走ル、卽チ抵沙布克臺及蠡里廟等ノ地方デアル。其後色楞格河ヲ渡リ、其ノ支流ニ沿ウテ帖里吉爾穆連河ノ發源地ニ至リ、帖里淖爾湖ヘノ分水界ヲ經テ湖畔ニ沿ヒ湖口烏魯克穆河ニ出デ此處デ張家口庫倫烏梁海線ト合シテ之レヲ終點トスル。此ノ全長約一千二百哩。

(5)　肅州科布多線

本線ハ肅州カラ西北ニ向ヒ尖牛デ萬里ノ長城ヲ貫キ炭坑地方ニ出デル。之レハ肅州カラ二百五十哩バカリノ處デアル。之レカラ哈畢爾罕布魯克、伊哈託里ニ至リ伊哈託里カラ遠クナイ處デ北平哈密線ト交叉シテ伯勒臺ニ達シ、次デ一小沙漠ヲ經テ底門赤魯ニ至ル迄山地ト低濕ナル村落トヲ過ギ、更ニ進ンデ戛什溫ニ於テ北方大港、烏魯木齊間ノ幹線ヲ橫斷シ倭倫呼都克、塔巴騰、塔普圖ヲ經テ塔普圖ヨリハ古城、科布多間ノ通路ト會シ、伯多滾臺、蘇臺ヲ經テ科布多ニ至ルモノデ延長七百哩デアル。

(6)　西北邊境線

本線ハ伊犁ヲ起點トシ烏魯木齊、伊犁線ニ沿ウテ三臺卽チ賽里木湖ノ東方ニ至リ之レヨリ東北ニ進ミ艾比湖ノ西方ヲ土斯賽ニ至リ、土斯賽ヨリ託里ニ進ミ中央幹線卽チ北方大港塔城線ヲ橫斷シ納木果臺、斯託羅蓋臺ニ至ル間ニ於テ大森林ト大炭坑地ヲ經過シ、斯託羅蓋臺カラハ通路ニ沿ウテ承化寺卽チ亞爾泰省ノ首府ニ達シ、山脈ヲ橫斷シテ烏爾霍蓋圖山口カラ科布多ノ谷地ニ入リ科布多河ノ源流ニ沿ウテ別留ニ出デ綏遠科布多線ニ合シテ烏列蓋ニ至リ、烏列蓋ヨリ分岐シテ烏松闊勒、烏蘭固穆ヲ經テ塔布圖ニ達シ再ビ他ノ線ト合シテ唐努烏梁海ノ烏爾克穆河ニ至リ、東ニ轉ジテ河流ニ沿ウテ上リ別開穆、烏魯兩河ノ合流地ニ出デ尙河流ニ沿ウデ進ミ東北方カラ河源

ニ遡ツテ國境ニ達スルモノデ總延長九百哩デアル。

(7)　廸化（烏魯木齊）烏蘭固穆線

本線ハ廸化ヨリ多倫廸化間ノ幹線ニ依ツテ阜康ニ至リ分岐シテ北進シ自闢川ヲ經テ霍爾楚臺ニ至リ、東北ニ轉ジテ山地ヲ經過シ開車、土爾扈特ニ出テ北方大港烏魯木齊線ノ支線ナル第三交叉點ヲ過ギ北ニ轉ジテ巴憂寧格力ノ谷地ヲ經テ斯和碩特ニ至リ、ソレヨリ帖列克特山口ヲ過ギ東北ニ進ンデ處女耕作地ヲ經過シテ科布多ニ至リ、更ニ肥沃ナル牧場ヲ通リ數個ノ河流ヲ渉リ數個ノ湖岸ニ沿ウテ烏蘭固穆ニ達シ、西北邊境線ト會スルモノデ延長約五百五十哩デアル。

(8)　憂什溫烏梁海線

本線ハ憂什溫ヨリ東北ニ向ヒ山地低濕地トノ境界線ヲ過ギ哈同呼圖克、達蘭趣律、博爾努魯ヲ經、匣盆ノ谷地ヲ横過シ呼志爾圖、博爾霍ヲ經テ烏里雅蘇臺ニ至リ綏遠科布多線及ビ北方大港烏里雅蘇臺線ト會シ、更ニ北方ノ處女地ニ進ンデ色楞格河ノ本源地及ビ帖斯河ノ本源地ヲ經過シテ帖斯河ノ谷地ニ出デ一大處女林ヲ貫通シ、轉ジテ西北ニ向ツテ分水嶺ヲ踰エ唐努烏梁海ノ烏魯克穆谷地ニ入リ西北邊境線ト會シテ終點ニ達スル延長六百五十哩デアル。

(9)　烏里雅蘇臺恰克圖線

本線ハ烏里雅蘇臺ヨリ憂什溫烏梁海線ニ依ツテ色楞格河ノ支流ナル鄂疊爾河ニ至リ、分レテ東ニ向ヒ鄂疊爾河ノ流域ニ沿ウテ下リ靖邊烏梁海線ヲ横ギツテ鄂疊爾、色楞格兩河ノ會流點ニ達シ張家口庫倫烏梁海線ニ合シテ遠ク東方ニ至リ、同線ガ東南行スル處ヨリ分レテ東北ニ向ヒ色楞格河ニ沿ウテ恰克圖ニ達スルモノ、延長約五百五十哩デ經過地方ハ肥沃ナ谷地デアル。

(10)　鎮西庫倫線

本線ハ鎮西ヨリ東北ニ向ヒテ耕作地ヲ横斷シ、圖塔古ヲ經テ烏爾格斜特ニ至リ肅州科布多線ヲ横ギリ戈壁沙漠北方ノ大草地ヲ經テ蘇治、達蘭圖魯ニ至リ、北行シテ北方大港烏里雅臺線及ビ多倫諾爾烏里雅蘇臺線ト交叉シ塔順呼圖克ヲ過ギ鄂羅蓋地方ニ於テ綏遠烏里雅蘇臺線ト會シ、進ンデ分水嶺ヲ踰エテ色楞格河ノ谷地ニ入リ沙布克臺ニ於テ靖邊烏梁海線ヲ横ギリ、東ニ轉ジテ數個ノ山脉及ビ河流ヲ經過シテ庫倫ニ至ルモノ經過距離約八百哩。

(11)　肅州庫倫線

本線ハ肅州ヨリ起リ金塔ヲ經テ毛目ニ至リ道河一名額濟納河ニ沿ウテ進ムモノデ、此ノ河ハ沙漠ノ灌漑用ニ供シ得ラレルモノデアル。河ニ沿ウテ下レバ一ノ湖水ニ達シ之レヨリ戈壁ノ沙漠ヲ越エテ北平哈密線及ビ北方大港烏里雅蘇臺線ノ會合點ニ達シテ共同聯絡驛ヲ作リ尙沙漠ト草地中

ヲ進ンデ更ニ他ノ交叉點ニ達スル。之レハ綏遠科布多線ト靖邊烏梁海線ノ會合點デ、ココデモ共同聯絡驛ヲ作リ、夫レヨリ一大草地ニ進入シテ哈藤、圖里克ヲ經テ三音達賴ニ達シ多倫諾爾烏魯木齊線ニ會シ、烏蘭和碩其他ノ都邑城寨ヲ過ギテ庫倫ニ達スルマデ全長七百哩ノ内三分ノ一ハ沙漠ヲ三分ノ二ハ低濕ナル草地ヲ經過スル。

(12)　沙漠聯絡驛克魯倫線

本線ハ沙漠聯絡驛ヨリ東方ノ大草地ヲ進ミ鄂蘭淖爾湖ノ南方ニテ靖邊烏梁海線ヲ横ギッテ土謝圖汗ノ首府ニ於テ綏遠科布多線ニ會シ、又大草地ヲ經テ第一聯合驛ニ至リ更ニ烏蘭呼圖、尖頂車ヲ經テ張家口烏梁海線ヲ過ギテ車臣汗ニ出デ、之レヨリ東北ニ向ヒ河流ニ沿ウテ下リ克魯倫城ニ達シテ多倫克魯倫線及ビ克魯倫東鎮線ト相會スルモノデ延長八百哩デアル。

(13)　格合克魯倫節克多博線

本線ハ格合ヲ起點トスル。格合ハ多倫諾爾烏魯木齊線ト張家口庫倫烏梁海線ノ交叉點デ之レヨリ東北ニ進ミ大草地ヲ經過シテ霍申屯ニ至リ多倫諾爾恰克圖線ヲ横ギリ、尙東ニ向ヒ更ニ大草地ヲ越エテ克魯倫ニ於テ呼倫克魯倫線ニ交リ克魯倫河ノ右岸ヲ下リ次デ左岸ニ出デ呼倫池ノ西北方ヲ過ギ東支鐵路ヲ横斷シ額爾克納河ヲ渡ッテ其右岸ニ沿ウテ節克圖博ニ達シ、多倫諾爾漠河線及ビ節克圖博依蘭線ト會スルマデ距離六百哩、始メノ半分ハ乾燥地ヲ後ノ半分ハ濕地ヲ經過スル。

(14)　五原洮南線

本線ハ黄河ノ西北邊ナル五原ヨリ東北ニ向ヒ曬田烏拉山及ビ大草地ヲ越エテ託里布拉克ニ至リ北平哈密線、綏遠科布多線及ビ北方大港庫倫線ノ三線ト交叉シ、之レヨリ尙東北ニ向ッテ草地ヲ經テ格合ニ至リ多倫烏爾木齊線、北平庫倫線及ビ格合克魯倫線ト出會ヒ東ニ轉ジテ多倫諾爾、恰克圖ノ中間ナル歡布庫里ニ於テ多倫克魯倫線及ビ葫蘆島克魯倫線ト交リ、夫レヨリ境界線ノ南ニ出デ之レニ沿ウテ達克木蘇馬ニ至リ多倫漠河線ト會シ東方興安嶺ヲ過ギテ突泉ニ出デ東南ニ轉ジテ洮南ニ達スル延長九百哩デアル。

(15)　五原多倫線

本線ハ五原カラ東北ニ向ヒ曬田烏拉嶺ヲ踰エテ茂名安旂ニ至リ、北方大港庫倫線ヲ横ギリ大草地ニ向ッテ進ミ綏遠科布多線ヲ過ギテ邦博圖ニ至リ同處ニテ北平哈密線ニ會シ之レヨリ東ニ向ヒ、張家口庫倫烏梁海線ヲ過ギテ多倫ニ達シ、多倫奉天臨江線ト會スルモノデ黄河上流ノ谷地ヲ直ニ肥沃ナル遼河谷地ニ聯絡スル五百哩ノ線路デアル。

(16)　焉耆伊犂線

本線ハ焉耆一名喀喇沙ヨリ西北ノ山脈ヲ踰エテ伊犂ニ進入シ、崆古斯河ニ沿ウテ西ニ下リ肥沃ナル谷地ヲ經テ伊寧、綏遠ヨリ伊犂城ニ達スルモノデ、之等ハ皆「ロシア」邊境ニ近イ主要都市デアル。終點デハ伊犂烏魯木齊線ニ接續シ延長四百哩。

(17)　伊犂和闐線

本線ハ伊犂ヨリ南ニ向ヒ伊犂河ヲ渡ツテ東方ニ轉ジ左岸ニ沿ウテ始メハ東南ニ後ニハ又南ニ向ヒ、博爾臺ニ至ツテ西南ニ轉ジ帖克斯河ノ谷地ニ入リ同河ヲ遡ツテ天橋ニ達シ、尙山道ヲ踰エタ上デ東南ニ向ヒ大炭坑地方ヲ通過シ西南ニ轉ジテ札木臺ニ至リ吐魯番喀什噶爾線ヲ越エ南行シテ塔里木谷地北部ノ最肥沃地ヲ經テ巴斯團塔格拉克ニ達シ、更ニ西南行シテ和闐ニ至ルマデ無數ノ小部落ヲ經過シテ居リ夫レ等ハ皆和闐河流域ノ肥沃ナル區域中ニアル。和闐河ハ沙漠ニ流入シテ居ルモノデアル。和闐デ喀什噶爾和闐線ト接續シテ南方ニ向ヒ高原ヲ上ツテ國境線迄延長七百哩デアル。

(18)　鎭西喀什噶爾線及其支線

本線ハ鎭西ヨリ西南ニ向ヒ天山ノ草地ニ沿ウテ延安堡、薛家隴、陶賴子等ヲ經テ七箇井ニ至リ其後ハ天山ノ森林ニ沿ウテ桐窩西鹽池、阿朗ヲ過ギ鄯善ニ出デ中央幹線ヲ横ギリ塔里木沙漠ノ北端ニ沿ウテ魯克泌、石泉ヨリ河拉ニ於テ車城庫爾勒線ニ出會ヒ進ンデ塔里木河流域ノ無數ノ新村落、肥沃地、未開發ノ大森林等ヲ通過シテ巴斯團塔格拉克ニテ伊犂和闐線ニ交リ巴楚ヲ過ギテ喀什噶爾ニ達シ烏魯木齊和闐線ヲ横斷シ、ソレヨリ西北方國境ニ達スルモノデアル。此線ト關係アルモノニ二ツノ支線ガアル。第一ハ河拉カラ西南方沙漠中ノ數個ノ「オアシス」ヲ經テ車城ニ至ルモノデアリ、第二ハ巴楚カラ西南方葉爾羌河ニ沿ウテ莎車ニ出デ更ニ西南方伊犂カラ國境近クニ至ルモノデ本支線合計約千六百哩デアル。

以上本系統ニ屬スル線路ノ總延長ハ一萬六千哩デ附圖所載ノ通リデアル。

第五項　高原鐵道系統

之レハ余ノ鐵道計畫ノ最後ノ部分デアツテ其工事ハ極メテ困難デアルト共ニ其經費モ亦莫大ナル額ヲ要スルモノデアル。而モ之ヲ他ノ部分ノ鐵道ニ比較スレバ收益ノ點カラ言ツテモ多クヲ望マレナイモノデアルカラ其建設ハ最モ後廻シニセネバナラヌ。他ノ部分ノ鐵道ガ全部完成スル迄ハ到底着手スルコトハ覺束ナイ。ガ他ノ鐵道ガ皆出來上ツタ上ナラバ此高原地帶ノ鐵道ヲ作ツテ莫大ナル經費ヲ投ジテモ相當ノ利益ヲ上ゲルニ難クナイト思フ。

此高原地帶ハ西藏、青海、新疆ノ一部分ト甘肅、四川、雲南地方ヲ包括スルモノデ其面積ハ約百萬方哩アリ、土地ハ農業ト牧畜ニ適シテ居ルガ外國人ニハマダ余リ知ラレテ居ナイ地方デア

ル。中國人ハ西藏ハ卽チ西方ノ寶藏ナリト稱スル位デ金ノ產出ガ多イバカリデナク其他ノ鑛產モ非常ニ多イノデアル。其中デモ銅鑛ガ最モ多ク此ノ世人未知ノ地方ニ寶藏ト云フ名ヲ付ケルコトハ誠ニ當ヲ得タモノト云フベキデアル。將來世界中ニ貴金屬ガナクナリカケタ時ニ吾々ガ此ノ大鑛產地ヲ開發シテ此地方ニ鐵道ヲ建設スルコトハ正ニ必要欠クベカラザルコトデアル。其計畫線ハ左ノ如シ。

1 拉薩蘭州線
2 拉薩成都線
3 拉薩大理車里線
4 拉薩提郎宗線
5 拉薩亞東線
6 拉薩來吉雅令線及支線
7 拉薩諾和線
8 拉薩干闐線
9 蘭州嬉羌線
10 成都宗札薩克線
11 寧遠車爾城線
12 成都門公線
13 成都元江線
14 敍州大理線
15 敍州孟定線
16 于闐噶爾渡線

(1) 拉薩蘭州線

本線ハ西藏ノ首府ト連絡スルモノデ本境域中ノ中央幹線デアリ本系統中最モ重要ナル線デアル。起點ト終點ハ現在デモ相當ノ人口ヲ有スルガ將來ハ正ニ一大殖民地トナルベキ地方デアルカラ鐵道ノ開通ト共ニ相當ノ利益ヲ上ゲ得ルデアラウ。線路ハ拉薩カラ舊官道ニヨリテ北方ニ向ヒ達隆ヲ經テ騰格里湖ノ東南方ヲ雅爾ニ至リ、東ニ轉ジテ藏布ノ谷地ヨリ分水嶺ヲ踰エ双竹山口カラ潞江ノ谷地ニ入リ、再ビ東ニ轉ジテ潞江ノ源流ヲ渡リ數個ノ谷地、河流、山脈ヲ過ギテ楊子江流域ニ出デ苦苦賽爾橋ニテ楊子江ノ源流金沙江ヲ渡リ、東南ニ轉ジテ後又東ニ向ヒ楊子江ノ谷地

ヲ出デテ黄河ノ谷地ニ入リ數多ノ小村落ト天幕生活地方ヲ過ギテ札陵、鄂陵兩湖ノ間ニアル星宿海ヲ經テ東北ニ向ヒ、柴塔木ノ東南部谷地ヲ通過シテ再ビ黄河ノ流域ニ入リ喀拉普其他ノ小都會ヲ經テ丹噶爾ニ至ル。丹噶爾ハ卽チ今ノ湟源デ甘肅ト青海ノ境界ニアル。丹噶爾カラハ更ニ東南ニ向ツテ西寧河ニ沿フテ其沃地ヲ下リ西寧、碾泊其他數百ノ小都會ト村落ヲ經テ蘭州ニ達スルモノデ延長一千一百哩。

(2)　拉薩成都線

本線ハ拉薩カラ矢張リ舊官道ニヨツテ東北ニ向ヒ德慶、南摩、墨竹工卡ヲ經テ東南ニ轉ジ、更ニ東北ニ向ヒ江達ニテ一度北方ニ向ヒ再ビ東北ニ進ミ託拉山ヲ踰エテ拉里ニ至リ、拉里カラ東行シテ邊壩碩圖及ビ數個ノ小都會ヲ過ギテ洛龍宗ニ出デ嘉裕橋ニテ瀘江ヲ渡リ東北向シテ恩達、察木多ヲ過ギ、東南方ノ官道ニヨツテ巴塘ニ至ル線ヲ採ラズ之レカラ東北ニ向フ別ナ通商路ニ沿フテ四川省ノ西北ニアル巴戎ニ向ヒ途中札武三土司附近デ金沙江ヲ渡リ、東南向シテ依杵河ノ谷地ニ入リ鴉龍江ニ沿ウテ甘孜ニ下リ長葛、英溝カラ大金川ノ倍田、小金川ノ望安ヲ過ギ斑爛山ヲ踰エテ灌縣ニ出デ成都平野ニ入ツテ郫縣カラ成都ニ達スル延長約一千哩デアル。

(3)　拉薩大理車里線

本線ハ拉薩成都線ト同一線路デ江達迄行キ西南ニ分岐シテ藏布江ノ支流ニ沿ウテ本流トノ會流點油魯ニ出デ、本流ノ左岸ニ沿ウテ公布什噶城ヲ經、底穆昭ヨリ藏布河ヲ離レテ東行シ底穆宗城、遺貢、巴谷、刷宗城ヲ過ギ東南ニ折レテ力馬ニ至リ、再ビ東行シテ瀘江岸ノ門公ニ達シ門公カラ南ニ轉ジテ瀘江ノ右岸ニ沿ヒ葛蒲桶、丹鄙ヲ經テ瀘江ヲ渡リ、崖瓦村ノ谷地カラ分水嶺ヲ踰エテ瀾滄江別名美江ノ流域ニ入リ江ヲ渡ツテ小維西ヲ過ギ江岸ニ沿ウテ誠心銅廠ニ下リ此處デ江岸ヲ離レ、河西、洱源、鄧州、上關ヲ經テ大理ニ達シ更ニ南行シテ下關、鳳儀、蒙化、保甸カラ再ビ瀾滄江岸ニ出デ左岸ニ沿ウテ南方車里ニ至ル九百哩デアル。

(4)　拉薩提郎宗線

本線ハ拉薩カラ南方德慶ヲ經テ藏布江ニ出デ東轉シテ江ノ左岸ヲ札噶爾總ニ下リ澤當デ江ヲ渡リ南行吹夾坡郎、滿楚納、塔旺ヲ過ギテ提郎宗ニ達シ印度ノ亞三境界ニ接續スルモノデ延長二百哩デアル。

(5)　拉薩亞東線

本線ハ拉薩カラ西南ニ向ヒ札什カラハ舊官道ニヨツテ僵里、曲水ニ至リ末力橋ヲ過ギ藏布江ヲ渡ツテ査曼木ヨリ塔馬隆、白地、達布隆、浪噶子等ヲ經、西ニ轉ジテ翁古、拉隆、沙加ニ至リ官

道ヲ離レテ西南ニ向ヒ孤拉ヲ經テ亞東卽チ印度ノ「シキム」ノ境界ニ至ル延長二百五十哩デアル。

(6)　拉薩來吉雅令線及其支線

本線ハ拉薩ヨリ西北ニ向ヒ札什ヨリ舊官道ニ沿ウテ小德慶ニ至リ、西轉シテ桑駝駱池ニ至リ又西南轉シテ那馬陵、當多汛ヲ過ギ拉古附近ニ於テ藏布江ヲ渡リ西向シテ日喀則城ニ達スル、日喀則城ハ西藏第二ノ大市場デアル。夫レヨリ尙同一方向ヲ辿リ藏布江ノ右岸ニ沿ウテ進ミ札什岡、朋錯嶺ヲ經テ拉孑ニ至リ拉孑カラハ西南ニ支線ヲ派出シ脅噶爾、定日ヲ經テ「ネパール」境ノ聶拉木ニ至リ、本線ハ尙藏布江ノ右岸ヲ官道ニ沿ウテ進ミ那布林、格喀、大屯ニ至ツテ更ニ西南「ネパール」境ニ一支線ヲ出シ、尙西北ニ進ミ搭木札卓山、噶爾渡ヨリ西ニ轉ジテ薩特來得河ノ來吉雅令カラ印度境ニ終ルモノデ二支線共延長總計八百五十哩デアル。

(7)　拉薩嫩和線

本線ハ拉薩ヨリ第二線ニヨリテ桑駝駱海ニ至リ夫レヨリ分岐シテ西北ニ向ヒ得貞、桑札宗、塔克東ヲ經テ西藏ニ於ケル金鑛最多ノ地方ニ進ミ翁波、都拉克巴、光貴、于喀爾ヨリ嫩和ノ終點ニ至ル延長七百哩デアル。

(8)　拉薩于闐線

本線ハ拉薩ヨリ第二、第三ノ兩線ニヨツテ騰格里湖ノ西南隅ニ達シ、之レヨリ西北ニ分岐シ隆馬絨、特布直、託羅海、其他四五ノ小地方ヲ經テ薩里ニ至リ、夫レヨリ一大無人境ヲ過ギテ巴喀爾、蘇格特ニ出デ山脈ヲ踰エテ高原ヲ下リ索爾克ヲ經テ塔里木河流域ノ雅蘇勒公ニ達シ西北鐵道系統ノ車爾城于闐線ニ合シテ于闐ニ至ルモノ延長七百哩デアル。

(9)　蘭州嫩羌線

本線ハ蘭州ヨリ拉薩蘭州線ニヨツテ青海ノ東南隅ニ達シ分岐シテ青海ノ南岸ヲ繞リテ都蘭奇特ニ出デ西南走シテ宗札薩克ニ至リ、夫レヨリ柴達木低地ノ南邊ヲ西南行シ屯月、哈羅里、各爾莫、哈自格爾ヲ過ギテ西北ニ轉ジ拜把水泉、那林租哈、河爾善特水泉ヲ經、北方山脈ヲ踰エテ嫩羌ニ達シ安西于闐線及ビ嫩羌庫爾勒線ト聯絡スルモノデ延長七百哩デアル。

(10)　成都宗札薩克線

本線ハ成都ヨリ拉薩成都線ヲ利用シテ灌縣ニ至リ之レヨリ分岐シテ汶川、茂州ヲ經、岷江ニ沿ウテ西北上シ松藩ヲ經テ岷山ノ谷地ニ入リ東丕、上勒回ヨリ楊子江黃河兩流域ノ分水嶺ヲ踰エ進ンデ鄂爾吉庫舍里ニ至ツテ黃河ノ支流水源ニ沿ウテ本流ニ達シ、其右岸ヲ察漢津、布勒拉察布ニ進ミ渡河シテ舊官道ニ出デ西北轉シテ拉薩蘭州線ニ合シ、拉尼巴爾ニ於テ再ビ西北ニ向ヒ分岐シ

テ宗札薩克ニ達シ、蘭州嫐羌線ト相會スルモノデ其距離約六百五十哩デアル。

(11)　寧遠車爾城線

本線ハ寧遠ヨリ西北行シ懷遠鎮ヲ經テ雅江ニ出デ其ノ右岸ヲ舊驛路ニ沿ウテ進ミ、西俄落ニテ江ヲ離レ驛路ニヨツテ裏塘ニ至リ尙同一方向ヲ金沙江左岸ノ岡沱、札武三土司ニ進ミ此處ニテ拉薩成都線ヲ横斷シ、尙金沙江ニ沿ウテ上リ圖登貢巴ヨリ苦苦賽爾橋ニ至ツテ拉薩蘭州線ト交叉シ金沙江ノ北支流ニ沿ウテ其水源地ニ至リ、分水嶺ヲ踰エ駱駝路ニヨツテ泌司坎阿洛共ヨリ車爾城ニ至ルモノ延長約一千三百五十哩デ本系統中ノ最長線路デアル。

(12)　成都門岔線

本線ハ成都ヨリ西南ニ向ヒ双流、新津、名山、雅州ヲ經、西北向シテ天全ニ至リ又西轉シテ打箭爐、東俄落、裏塘等ヲ過ギテ西南ニ轉ジ巴塘、宴爾喀羅ヲ經テ門岔ニ至ル約四百哩デ經過地方ハ砦山脈地デアル。

(13)　成都元江線

本線ハ成都ヨリ成都門岔線ニヨツテ雅州ニ達シ分岐シテ同一方向ヲ辿リ滎經、清溪ヲ經テ南向シ越雋ヨリ寧遠ニ至ツテ寧遠車爾城線ノ起點ニ會シ進ンデ會理ニ至ツテ金沙江ヲ渡リ雲南府ニテ廣州大理線ニ交リ、昆明湖ノ西方ヲ繞リテ昆陽ニ出デ新興、嶍峨ヨリ元興ニ達シテ廣州思茅線ニ連絡スルモノデ延長約六百哩デアル。

(14)　敍州大理線

本線ハ敍州ヨリ楊子江ノ左岸ヲ上リ屏山、雷波ヲ經テ河流ヲ離レ、西南方大梁山ヲ過ギテ寧遠ニ於テ成都寧遠線、廣州寧遠線並ビニ寧遠車爾城線ト會シ、尙同一方向ニ進ンデ鴉龍江ヲ渡リ鹽源、永北ヨリ南ニ轉ジ金沙江ヲ渡ツテ賓川ニ出デ、大理ニ至ツテ廣州大理線及ビ拉薩大理線ト會スルモノデ延長四百哩デアル。

(15)　敍州孟定線

本線ハ敍州ヨリ敍州大理線ヲ利用シテ雷波ニ出デ、金沙江ヲ渡リ其左岸ニ沿ウテ江ノ南方ニ彎曲スル所マデ遡江シ此處デ成都元江線ヲ横ギツテ元謀ニ出デ、楚雄ニ於テ廣州大理線ト交叉シテ景東ニ至リ西南轉シテ瀾滄江ヲ渡ツテ雲州ニ至リ又西南ニ向ヒ潞江ノ支流ニ沿ウテ孟定ニ達シ國境ニ終ルモノデ延長約五百哩デアル。

(16)　于闐噶爾渡線

本線ハ于闐ヨリ克利雅河ニ沿ウテ南方波魯ニ達シ西南行シテ阿拉什東郎、諾和ニ至リ、拉薩諸

和線ノ終點ニ連ナリ、諾和湖ノ東部ヲ繞ツテ羅多克ニ出デ再ビ西南ニ向ヒ「インダス」河ニ沿ウテ碟穆綽克ニ至リ、之レヨリ東南「インダス」河ニ沿フテ上リ噶爾渡ニ達シテ拉薩來吉雅令線ト連絡スルモノデ其延長約一千百哩デアル。

第六項　機關車、客車、貨車製造工場ノ設立

以上第四計畫デ敷設豫定ノ線路ハ總延長六萬二千哩デ之ニ加フルニ第一計畫カラ第三計畫迄ノ豫定線約一萬四千哩ヲ以テスレバ合計七萬六千哩、此外尙多數ノ幹線中ニハ複線ヲ要スルモノガ少クナイカラ以上總計ノ計畫線ハ少クトモ十萬哩ニ上ルベク、此十萬哩ヲ十年間ニ建設スルトスレバ機關車、客貨車ヲ要スルコトモ莫大ナモノデアルガ、現在大戰後各國共改造時代デアルカラ、世界中ノ製造所ニ注文シテモ到底間ニ合ハヌモノト見ナケレバナラズ是非共中國內ニ大製造工場ヲ建設セネバナラヌ。之レハ必要ナコトデアルト共ニ又非常ニ有利ナ事業デアルコトニ注意セネバナラヌ。中國內ニハ無限ノ原料ト低廉ナル勞力トガアルカラ之レヲ利用シテ工場建設ノ基礎トスベキデアルガ、只此等ノ事業ニ對シ無クテナラヌモノハ外國ノ資本ト專門ノ技術家デアル。此等ノ計畫ニ對シ幾何ノ資本ヲ必要トスルカハ之ヲ經驗アル技術者ニ一任スベキデ別ニ此處ニ之レヲ贅スル必要ハアルマイ。

第六節　第五計畫

以上四ツノ計畫デ余ハ已ニ一般方略並ニ根本的工業ノ發展方策ヲ論ジタカラ之レカラ本體的工業ニ就テ外國ノ援助ヲ借ツテ發達サセネバナラヌコトヲ論ジヨウ。本體的工業ト云フノハ個人生活及ビ家族生活上ノ必需品並ビニ其生活ヲ安慰ナラシメル爲メノ物品ヲ製造スルモノデ、根本工業ガ發達スレバ其他ノ工業ハ自然ニ全國ニ亙ツテ最短期間內ニ發生スルモノデアルコトハ歐米ニ於ケル產業革命ニ於テ已ニ證明サレテ居ル處デアル。卽チ根本工業ガ發達スレバ各人皆勞務ニ從事スル樣ニナリ、之ニ對スル報酬ヲ得テ生活程度ノ向上ヲ來スカラ生活上ノ必需品並ニ安慰品ノ價格モ夫レニ連レテ騰貴シ從ツテ本體工業ノ發達ヲ來ス所以デアル。今中國ガ國際的ニ發展セントスル道程ニ於テ本體工業ノ發達ヲ策スル所以ハ、各人ガ比較的高率ノ賃銀ヲ得ルト同時ニ國內ニ於テ多額ノ生活必需品及ビ安慰品ヲ製造シテ其生活費ヲ減少セシメンガ爲デアル。世人ハ往々ニシテ中國ヲ以テ生活費ノ最モ低廉ナル國ト考ヘル樣デアルガ、其誤謬ノ由ラ來ル所ハ普通ノ見解カラ金錢ヲ以テ一般物價ヲ評價スルカラ間違フノデアツテ、若シ工賃ヲ標準トシテ生活費ヲ評價シタナラバ中國ハ勞働者ノ生活費ガ最モ高イ國デアラウ。中國ノ普通ノ勞働者ノ勞働時間ハ每

日十四時間乃至十六時間デアツテ夫レデヤツト生活ヲ維持シテ居ル位デアル。商店ノ事務員ヤ田舍ノ學校教師ナドノ一年ノ收入ハ百元以下デアリ、農夫ハ其收穫物カラ地租及ビ僅カノ生活必需品代ヲ引去レバ余ス所ハホンノ少シ許リニ過ギナイ。勞力ノ供給ガ多イ爲メニ賃銀ハ低廉デアル。食物及ビ生活上ノ物資ハ普通ノ豐作ノ時デ漸ク四億人ノ需要ヲ充シ得ルガ一朝兇作トナレバ多數ノモノハ餓死セネバナラヌ。一體大多數ノモノガコンナ悲慘ナ境遇ニアルト云フノハ何故デアラウカ。トリモ直サズ國內ニ於ケル一切ノ事業ガ發達セズ、生產方法宜シキヲ得ザルガ爲ニ徒ラニ勞力ヲ空費シテ得ル所ガナイカラデアル。之レヲ根本的ニ救濟スルガ爲ニハ外國ノ資本及ビ專門ノ技術ヲ利用シテ工業ヲ發達セシメ國民ノ福利ヲ增進スル以外ニ方法ハナイノデアル。歐米ニ於ケル工業ノ發達ハ中國ニ先ンズルコト一百年デアツテ、今最短期間內ニ之ニ追付カントスルニハドウシテモ其資本ト機械トヲ利用セネバナラヌ。若シ資本ヲ利用スルコトガ出來ネバ少クトモ其專門的技術ノミハ採用シテ各國ノ專門家發明家ヲシテ中國ノ爲メニ機械ヲ作ラセネバナラヌ。ソシテ其機械デ固有ノアリ余ル勞力ヲ補助シテ無限ノ富源ヲ開發スルコトガ先決問題デアル。

近世文明ニヨレバ生活上ノ原動力トナル物件ニ五種アル、卽チ衣食住及ビ交通、印刷ガ之レデアル。余ハ之レニヨツテ次ノ計畫ヲ建テル。

(一) 食糧工業
(二) 衣服工業
(三) 建築工業
(四) 交通工業
(五) 印刷工業

第一項　食糧工業

食糧工業ハ又次ノ各項ニ分類スル。

1　食物ノ生產
2　食物ノ貯藏及ビ運搬
3　食物ノ製造及ビ保存
4　食物ノ分配及ビ輸出

第一　食物ノ生產

人類ノ食物ハ地上、海中及ビ空中ノ三方面カラ採取スルモノデ其中デ最モ重要デアリ又最モ多量ナルモノハ空中食物デアツテ酸素ハ其中ノ巨擘デアル。只此等ハ自然ニイクラデモ存在スルモ

ノデアルカラ飛行家ヤ潛水艇乘組員ガ特殊ノ場合ニ必要トスル外ハ別ニ人工ヲ加ヘテ製造スル必要ガナイ。誰レデモ自由ニ攝取シ得ルモノデアルカラ論述ノ必要ガナク、又海中ヨリ採取スル食物ニ就テハ前ニ漁港ノ建設及ビ漁船ノ構造ヲ論ジタ處デ海中ノ食物ニ論及シテアルカラ之レモ再論ヲ要セヌガ、只地上ヨリ採取スル食物ノ生產ニ就テ外國ノ援助ヲ必要トスルモノニツキ述ベルコトニスル。

元來中國ハ農業國デアツテ大多數ノ人民ハ食物ノ生產ニ從事シ、農夫ハ深耕農業ニ秀デテ居ツテ土地ノ生產力ヲ最大限迄活用セシメテ居ル。然シ一方ニハ又各種ノ原因カラ人口最モ稠密ナル地方デモ尙耕作可能ナル土地ヲ荒廢ニ歸セシメテ居ル處ガアル。ソレハ或ハ灌漑水ノ缺乏カ、低濕ニ過グルカ、或ハ地主ノ慾張リカラ貸出シヲ承諾シナイ等ノ種々ノ原因ニヨルモノデアル。

中國十八省ノ土地ハ現在デハ四億ノ人口ヲ養フコトガ出來ナイガ若シ荒廢セル土地ヲ開墾シ、又從來ノ耕地ニ現代式ノ機械及ビ科學的ノ方法ヲ以テ改良ヲ加ヘタナラバ產額ヲ增加シ十分發達セシムルノ余地ガアルノデアル。只自由農業法ニヨツテ農民ヲ保護奬勵シテ其勤勞ノ所得ニ均霑セシムルノ策ヲ採ラナケレバ開發ハ望ミ得ナイデアラウ。

食物ノ生產ヲ國際的ニ發展セシメントスルニハ先ヅ次ノ二計畫ヲ實行セネバナラヌ。

一、農地ノ測量

二、農具製造工場ノ設立

(一)　農地ノ測量

中國ノ土地ハ未ダ曾テ科學的ノ測量製圖ヲ行ツタコトガナク、土地ノ管理ヤ納稅ナドモ甚ダ亂雜デアツテ其害ヲ蒙ルモノハ田舍ノ貧乏人ヤ百姓デアルカラ、政府トシテハ何ハサテ措キ第一ニヤラナケレバナラヌコトハ農地ノ測量デアル。然シ之レモ經費ト專問ノ技術家ガナイカラ矢張リ外國ノ援助ニ俟タネバナラヌ。ダカラ余ノ考ヘデハ矢張リ一個ノ國際的執行機關ヲ作ツテ此機關カラ公債ヲ募集シテ其費用ニ充テ專門家ヤ各種ノ設備ヲ揃エテ之レニ從事セシメ、經費、期間、事務所ノ規模、飛行機測量ノ能否等ヲ專門家ニ決定セシメルコトニシタイ。

地質ノ調査モ經費節約ノ爲メ土地ノ測量ト同時ニ實行スルコトトスル。ソウスレバ測量ノ完成ト共ニ各省ニ於ケル荒廢未耕ノ土地デ或ハ耕作ニ或ハ牧畜ニ或ハ造林ニ或ハ開鑛ニ適スルコトガ明瞭ニナレバ、夫レニヨツテ稅金及ビ借地料ヲ決定シテ最モ有効ニ利用スルコトガ出來、耕地ヨリ增徵シタ分及ビ新開墾地ヨリ上ル稅金デ外債ノ元利ヲ償還シ得ルニ至ルデアラウ。又本部十八省ヲ除ク外ニモ滿洲、蒙古、新疆等ハ農牧ニ適スル地方ガ多ク、青海、西藏ニモ廣大ナ牧地ガア

ルカラ移民計畫ニ依ツテ大農的ニ之ヲ開發シ得ルコトハ已ニ第一計畫ニ述ベタ通リデアル。

(二)　農具製造工場ノ設立

荒地ヲ開墾シタリ耕作地ニ改良ヲ加ヘタリシテ餘剩ノ勞力ヲ農事ニ利用スルコトニナレバ必然的ニ農具ノ需要ガ喚起サレル。幸ニ中國ハ工賃ガ廉ク鐵石炭モ豐富デアルカラ農具ヲ作ルニハ國產品ノミデ事足リ外國品ノ輸入ヲ要シナイ。只資本ガ必要デアルガ工場ハ鐵ヤ石炭ノ產地附近ニ設立スレバ材料ハ得易ク勞力ハ節約シ得ル譯デアル。

第二　食物ノ貯藏及ビ運搬

貯藏及ビ運搬ニ關シ研究ヲ要スル重要食物ハ穀類デアツテ、中國ニ於テハ穀類貯藏法不完全ノ爲メ少シ多量ニ貯藏スレバ虫ガ食ツタリ腐ツタリスルカラ、從來多量ノ貯藏ハ不可能デアリ且ツ非常ナ注意ヲ拂ツテヤツト或ル期間丈ケ保存シ得テ居ル。又運搬ニ就テモ殆ンド人力バカリ使ツテ居ルカラ費用ガ嵩ムバカリデ水路迄搬出シテモ定期船ガ少イカラ利用ノ範圍ガ頗ル狹少デアル。若シ貯藏運搬ノ方法ガ改良サルレバ費用ハカカラズ大變便利ニナルデアラウ。余ノ意見トシテハ矢張リ國際的ノ開發機關ヲ設置シテ全國各地ニ運輸機關ヲ設ケ、河流ニハ特別運輸船ヲ航行セシメネバナラヌト思フ。其資本額並ビニ設立地點等ハ專門家ノ調査ニ待ツベキモノデアル。

第三　食物ノ製造及保存

從來中國ノ食物製造法ハ殆ンド全ク人力デヤツテ居ツテホンノ簡單ナ二三ノ器具デ之ヲ補助シテキル丈ケデアリ、又其保存ハ單ニ鹽漬ケカ乾燥ニヨルバカリデ精米機ダノ罐詰メナドハ用ヒラレテ居ナカツタモノデアル。余ノ見ル處デハ楊子江以南ノ各大都市デハ大抵米ヲ主食トシテ居ルカラ精米所ハ各地ニ設置セネバナラズ、又楊子江以北デハ小麥、燕麥及ビ米以外ノ雜穀ガ主食物デアルカラ各地ニ製粉所ヲ設ケネバナラヌ。ソシテ此等ノ工場ハ中央ノ統一管理トシテ經費ノ節減ヲ計ルベキデ所要ノ資本等ハ尙詳細ノ調査ヲ要スル。

果物、肉類、魚類等ハ罐詰メ又ハ冷藏法ニヨルベキデ罐詰工業ガ盛ンニナレバ錫板、鐵板ノ需要ガ多クナルカラ此等ノ製造工場モ興サネバナラズ、夫レニハ鐵鑛ノ近イ處ガ都合ヨク中國ノ南部地方ニハ錫、鐵、石炭三ツ共出ル處ガ多イカラ此種工場建設ニハ最モ好都合デアル。ソシテ罐詰工場ト鐵板工場トヲ合同經營トスレバ費用モ大ニ節約出來ル譯デアル。

第四　食物ノ分配及ビ輸出

從來中國デハ平年作デサヘアレバ決シテ食物ノ缺乏ヲ憂フル必要ハナク諺ニモ「一年耕セバ三年間ハ食ヘル」ト云ヒ、富裕ナ地方デハ大概三四年分ノ食糧ハ貯藏シテ飢饉ニ備ヘテアル位デア

ルガ、將來若シ經濟組織ガ發達シテ來レバ一年間ノ貯藏サヘアレバ十分デアルカラ餘ツタ分ハ工業ノ中心地方ヘ分配セネバナラヌ。ソシテ其分配輸出モ中央カラ管理スルコトハ貯藏運搬ト同ジ樣ニシ、或ル縣カラ餘分トシテ出タ分ハ近クノ都會ニ貯藏シテ何ノ都會デモ必ズ一年分ノ食糧ハ貯藏シテオクコトトシ、經理部デハ頭數ニ應ジテ主要食物ノ實費販賣ヲナシ餘ツタ分ハ外國中デ一番高ク買フ處ニ賣付ケ、中央經理部ノ輸出部デ之ヲ扱フコトニスレバ從來ノ樣ニ輸出禁止ノ爲メニ腐ラセテ了フ樣ナコトモナク、夫レニ依テ得タ巨額ノ金デ外債ノ元利ヲ償還シテモマダ餘リガアルダラウ。

食物工業ヲ論ズルニ當ツテ特論セザルベカラザルモノハ茶ト大豆デアツテ、茶ハ文明諸國デ已ニ熟知セル飲料デアリ大豆モ近來科學者及ビ食物管理官廳デ一種ノ重要食物ト認メル樣ニナツタモノデアル。先ヅ茶ニ就テ云ヘバ最モ衞生的且ツ高尙ナ人間ノ飲料デ中國デハ其栽培並ニ製造ハ最主要工業ノ一デアル。昔ハ中國ガ世界唯一ノ茶ノ供給國デアツタガ今日デハ印度ト日本ニ奪ハレテ了ツタ。然シ中國茶ノ品質ハ尙他國產ノ及ブ能ハザル處デ印度茶ニハ「タンニン」酸ガ多ク日本茶ニハ中國產ノモノ程香味ガナイ。最良ノ茶ハ矢張リ原產國タル中國デナケレバ出來ナイ。中國ガ製茶貿易ヲ失墜シタ原因ハ生產費ガ高イカラデアル。生產費ノ高イノハ厘金及輸出稅ノ爲メデアリ又栽培法ガ舊式ダカラデアル。厘金、輸出稅ヲ免除シ、新栽培法ヲ採用シタナラバ復興スルコトハ容易デアル。國際發展計畫中デ余ハ產茶區域ニ新式製茶工場設立ノコトヲ說イテアルガ、手工ニ代ユルニ機械ヲ以テシ生產費ヲ減ジテ品質ニ改良ヲ加ヘタナラバ世界ニ於ケル茶ノ需要ガ日ニ日ニ增加シテ居ル今日、又米國デハ禁酒ヲ勵行シテ居ル際デモアリ、安クテ上等ナ茶ヲ供給スレバ必ズ儲カルデアラウ。

大豆ヲ肉類ノ代用トシタノハ中國人ノ發明デアルガ中國人モ日本人モ數千年間之ヲ主要食料ニ供シテ居リ、今日デハ肉食ヲ好ム諸國デハ已ニ肉類ノ缺乏ヲ訴ヘテ其解決法ニ腐心シテ居ル。ダカラ余ハ國際發展計畫中デ大豆カラ乳汁ヤ「バタ」ヲ作ツテ歐米ニ輸出シテ各國ノ大都會ニ大豆製品工場ヲ設立シ蛋白質食料ヲ廉價ニ供給スルコトヲ考ヘテ居ル。又中國內ニ新式工場ヲ建テテ手工生產法ニ代ラシムレバ生產費モ安ク品質モ改良スルコトガ出來ルデアラウ。

第二項　衣服工業

衣服ノ主要原料ハ絹、麻、綿、羊毛、毛皮ノ五種デアル、以下順次ニ之ヲ述ベルコトニスル。

1　製糸業

2　製麻業

3　紡績業
4　製絨業
5　製革業
6　裁縫機械製造業

第一　製糸業

生糸ハ中國デ發明サレタモノデ西曆紀元前數千年カラ已ニ衣服ノ原料トナツテ居タ中國重要工業ノ一ツデ、爾來最近迄中國ハ全世界ニ生糸ヲ供給スル唯一ノ國家デアツタガ、現在デハ日本、伊太利、佛蘭西諸國デ競爭スル樣ニナリ、何レモ科學的ノ方法ヲ應用シテ居ルガ只中國ノミハ數千年來ノ舊法ヲ固守シテ居ル。生糸ノ需要ハ日々ニ增加スルノデアルカラ養蠶製糸ヲ改良スルコトハ最モ有利ナ事業デアル。余ハ國際發展計畫トシテ生糸ヲ產出スル各縣ニハ科學局ヲ置イテ生產者ヲ指導シ完全ナル種紙ヲ供給スルコトニシ、各局ハ中央カラ監督シテ繭ノ買入レニモ從事サセ、生產者ニハ割ノイイ値段ヲ拂ヒ適宜ノ地方ニ製糸所ヲ建テ新式ノ機械デ製造シ、最後ニハ絹織物工場ヲ設ケテ內外ノ需要ニ應ズルコトトシ此等ノ工場ハ皆國立機關ノ監督ヲ受ケ外資ヲ輸入シ專門家ノ指揮ヲ受クルコトニスレバ生產費ハ安クナリ品質ハ向上スルデアラウ。

第二　製麻業

製麻業モ中國ニハ古クカラアル工業デ中國產ノ苧麻ハ歐米產ノ亞麻ト違ヒ新式ノ方法ヤ機械ヲ以テスレバ細ク柔カニナツテ生糸ト變ラヌモノガ出來ルケレドモ、今日迄新式方法機械製ノモノガナクテ中國ノ有名ナ麻ハ皆舊法手工製ノモノデアル。中國南部地方ニハ麻ノ產出ハ甚ダ富豐デアルカラ此地方ニ多クノ新式工場ヲ設立セネバナラヌ。

第三　紡績業

棉花ハ元外國ノ產物デ中國ニ輸入サレタノハ數百年前デアル。手工紡織ノ時代ニハ中國デモ重要工業ノ一デアツタガ外國カラ棉製品ガ輸入セラルル樣ニナツテカラ手工業ハ殆ンド全滅シテ了ツテ、多クノ棉花ヲ輸出シテ棉製品ヲ輸入スル樣ニナツテ了ツタ。考ヘテ見レバ中國ニハ勞力ハ有リ余ツテ非常ニ廉價デアルノニ棉製品ヲ作リ得ナイナドト云フノハ全ク馬鹿馬鹿シイ話デアル。近年ニナツテ漸ク各開港場ニ紡績、織布ノ工場ガ多少出現シテ巨利ヲ博シテ居ルガ、或人ノ說ニヨレバ最近二三年來上海ノ紡織工場ハ十割二十割ノ利益ヲ上ゲテ居ルト言フ。コレハ全ク中國ニ於ケル棉製品ノ需要ガ遙カニ其ノ供給額ヨリ多イ事ヲ示スモノデアルカラ余程多クノ紡績工場ヲ作ラナケレバナラヌ。余ノ國際發展計畫デハ各產棉地ニ亙ツテ大紡績工場ヲ作リ、之ヲ中央ノ國立

機關カラ監督シテ經費ヲ節約スルト共ニ品質ノ向上ヲ圖リ低廉ナル棉製品ヲ國民ニ供給シ得ルコトヲ稱導スルモノデアル。

第四　製　絨　業

中國ノ西北部ハ全國面積ノ三分ノ二ヲ占ムル牧場地デアルガ製絨業ハ未ダ何等ノ發達ヲ見ズ、毎年中國カラ輸出サルル羊毛ハ莫大デアツテ外國デ製品トナツテ之ガ再ビ中國ニ輸入サルルノデアル。此ノ羊毛貿易ノ輸出入ノミカラ考ヘテモ製絨事業ヲ發達サセルコトガ中國ニ取ツテ莫大ナル利益ガアルコトハ明瞭ナル事實デアル。余ノ考ヘデハ科學的方法ヲ以テ飼養、剪毛ヲ行ツテ其品質、數量ヲ增加シ西北各地ニ工場ヲ設立シテ一切ノ毛織製品ヲ作ツタナラバ、原料工賃共ニ頗ル低廉デ需要ハ世界的デアルカラ非常ナ發展ヲ來スベク、外國ノ資本ト專門家ヲ用ヒタナラバ國際發展計畫中デモ最モ有望ナモノト思フ。中國ニハ從來此種ノ工業ハナイカラ競爭者モナイ譯デアル。

第五　製　革　業

各開港場ニハ少數ノ製革工場ガアルケレドモ本工業ハ中國ニ於テハ新工業デアツテ、生皮ノ輸出ト製革ノ輸出額ハ毎年莫大ナ額ニ上ツテ居ルカラ製革廠及ビ靴鞄類製造所ノ設立ハ最モ有利ナル事業デアル。

第六　裁縫機械製造業

中國デハ種々ナ裁縫機械ノ需要ガ大變多イ。或人ハ現ニ歐米ニ注文シテアル紡織ノ機械ガ全部引渡サレル迄ニハ三年カカルダラウト云フ。余ノ發展計畫ガ實現サルレバ此等ノ需要ハ尙現在ノ數倍ニ達スルダラウ。ソウナレバ歐米デモ到底供給シ得ラレナクナルカラドウシテモ國內ニ製造所ノ設立ガ必要デアリ又有利ナ事業デモアル。此種ノ工場ハ製鐵工場ノ近クニ設ケテ重イ原料ヲ運搬スル費用ヲ節約セネバナラヌ。其所要資本額ハ專門家ノ決定ニマタネバナラヌ。

第三項　建　築　工　業

中國四億ノ人口中貧者ハ尙茅屋陋室ニ居住シ北方ニハ今尙穴居ノ民サヘアル。然ルニ上等社會ノ住居ハ寺廟式ノ堂々タルモノデアル。海港場ナドデハ少數ノモノガ西洋建ニ住ンデ居ルガ大概ハ皆寺廟式デアル。一體中國人ガ家屋ヲ建築スルニハ生存者ノ爲メニ計ルヨリモ死者ノ爲メニ圖ル方ガ多ク、建築主ハ先ヅ祖先ノ位牌ヲ奉安スル處ヲ眞先キニ決メテ之ヲ家屋ノ眞中ニ置キ其ノ他ノ部分ハドウデモヨイノデアル。ダカラ自分達ノ住居スル所ハ決シテ安適ナル場所デハナク其上所謂紅事白事(祝儀不祝儀)ニ適スル樣ニ按排サレテアル。紅事ト云フノハ家族中ノ誰デモガ結婚スルコト及ビ其他ノオ祝ヒ事デアリ、白事ト云フノハ葬喪ノ事デアル。尙又祖先ノ位牌ノ外ニ多

クノ家ノ神ヲ祭ラネバナラズ、此等ノ神事ハ皆人事ヨリモ重要デアルカラ一番先キニ考ヘネバナラヌノデアル。ダカラ中國ノ家屋ハ一トシテ人間ノ安適又ハ便利ト云フコトヲ考ヘタモノハナイト云ツテモヨイ位デアル。今國際發展計畫中ニ建築工業ヲ計畫スルニハ全中國ノ家屋ニ想到セネバナラヌ。人或ハ四億人ノ爲メニ家屋ヲ建築スルハ不可能ナリト云フ者モアルベク余モ其大事業ナルヲ認メルガ、中國人ガ若シ最近三千年來ノ愚蒙ノ古說ト無用ノ習慣トヲ棄テテ近世文明ヲ適用シ、余ノ國際發展計畫ノ示ス所ニ從フナラバ、一切ノ家屋ヲ改築シテ近世的ナ安適ニシテ便利ナル樣式ニ合セシムルコトハ勢ノ必ズ赴ク所デ、或ハ社會ノ進化ニ因ツテ無意識ノ中ニ到達シ又ハ人工ノ建設ニ因ツテ有意識ノ中ニ到達スルコトモ出來ルデアラウ。西方ノ各民族ガ今日ノ近世文明ニ到達シタノモ殆ンド無意識的ニ到達シタノデアツテ、社會經濟科學ナドハホンノ最近ノ發達ニ過ギナイノデアル。只然シ人類一切ノ進步ハ皆多少トモ智識ニ原因セヌモノハナク科學的計畫ヲ基礎トセヌモノハナイ。余ノ國際發展計畫ニヨレバ中國ノ家屋ハ全部五十年以內ニ近世的安適便利ナル樣式ニ改造シ得ルコトヲ豫言シ得ルノデアル。科學的計畫ヲ以テ中國全部ノ家屋ヲ改築セント豫定スル場合ハ、何ニモ計畫ノナイモノニ比較スレバ必ズ安クテ上等ナモノガ得ラレル譯デアル。今若シ一遍ニ千軒ノ家ヲ建テルトスレバ一軒建テルモノニ較ベレバ値段ハ十分ノ一デ濟ムベク、余計造レバ余計造ル程値段ガ安クナルノハ生產學ノ原則デアル。生產學デ唯一ノ危險トスル所ハ生產過多デアツテ總テノ大規模生產ハ皆此束縛ヲ受クルモノデアル。歐米ノ工業發達以來世界大戰爭ノ前迄ニ財政ノ大恐慌ガアツタガ之レモ生產過剩ノ爲メデアツタ。中國ノ家屋建築ニ就テ考フルニ借主ハ四億人アル譯デ、ココ五十年間ニ少クトモ新家屋ヲ要スルモノガ五千萬位ハアラウカラ每年百萬軒宛作ツテモ世話ハナイ譯デアル。（原文ニハ間字ヲ用ヒアリ日本ノ一軒ヨリモ多少狹義ナレドモ便宜上軒ト譯シタリ）

家屋ハ文明ノ一要素デ人類ガ之ニ由ツテ得ル所ノ快樂ハ衣食以上ノモノデアリ、人類ノ工業ノ過半數ハ建築用品デアルカラ建築工業ハ國際計畫中ノ最大企業デアルト共ニ又最モ利益ノ多イ仕事デアル。余ノ豫定スル家屋發展計畫ハ民衆ニ廉價ナル住宅ヲ供給シ、開港場邊デ現在一萬元位ノ價格アル家屋ヲ千元以下デ供給シ夫レデモ建築業者ニ利益ガアル樣ニショウト云フノデアル。ダカラ材料ノ生產、運搬、分配並ニ室內ノ家具裝飾等ニ至ル迄皆建築工業ノ中ニ包括シテ左ノ如ク分類スルコトニスル。

1　材料ノ生產及運搬

2　家屋ノ建築

3　家具ノ製造

4　消耗品ノ供給

第一　建築材料ノ生產及ビ運搬

建築材料ハ煉瓦、瓦、木材、鐵材、石材、洋灰、三合土等デ各一種每ニ製造又ハ分解ヲ行ハネバナラヌ。煉瓦、瓦ノ製造ニハ窯ガ必要デアリ、木材ニハ製材所、鐵材ニハ鐵工所、其ノ他石切場、「セメント」工場、三合土工場等モ總テ適當ナ場所ヲ擇ビ材料ト市場トニ近イ處ニ設置セネバナラヌ。ソシテ全部ヲ中央ノ監督機關ノ下ニ置イテ生產ト需要トヲ調和セシメ、製造シタ材料ハ水路ナラバ舟ニヨリ陸路ナラバ車デ需要地ニ運搬シ、出來ル丈經費ヲ節約シ造船所、車輛製造所等モ特別ノ船車ヲ作ツテ此運搬用ニ供セネバナラヌ。

第二　家屋ノ建築

此處ニ述ブル建築事業ハ一切ノ公私ノ家屋、公衆建築ヲ包含スルモノデ公金デ經營シ、公用家屋ニ對シテハ少シノ利益ヲモ計上セズ、政府カラ專門官廳ヲ置イテ之レニ從事セシメ、又私用ノ家屋ハ國際發展計畫ニ依テ建築シ、低廉ナル價格ヲ以テ公衆ニ供給シ、夫レデモ建築者ハ相當ノ利益ヲ收メ得ル樣ニスルノデアル。ソシテ家屋ノ樣式ニハ一定ノ模範ヲ作ツテ都會ノ建物ハ二種類ニ分チ一ツハ家族住宅、一ツハ共同住宅トシ、家族住宅ハ八間、十間十二間ノ各種トシ、共同住宅ハ十軒長屋、百軒長屋、千軒長屋等トシ一軒內ニハ四間乃至六間ヲ有スルコトニスル。又田舍ノ家屋ハ其職業ニヨツテ農家ニハ穀倉、搾乳場等ヲ附屬セシメ、設計ハ總テ居住者ノ安適ヲ目的トセネバナラヌカラ特別建築局ヲ作ツテ人民ノ習慣營業上ノ必要等ヲ研究セシメテ到ル處ニ改良ヲ施シ、工事ニ當ツテハ成ルベク人力ヲ節約スル機械ヲ使用シテ工事ヲ迅速ナラシムルト共ニ經費ヲ節約セネバナラヌ。

第三　家具ノ製造

既ニ家屋ノ改造ヲ行ツタ上ハ家具モ全部新式ニ改造シ、人民ノ安適ヲ主トシテ其需要ニ應ゼネバナラヌ。食堂、書齋、客室、寢室、臺所、便所等ノ器具ハ皆一種每ニ特種工場デ製造シ國際發展機關監理ノ下ニ置クコトニスル。

第四　消耗品ノ供給

消耗品ハ水、燈火、燃料、電話等デアル。

(1)　開港場以外ニハ中國ノ諸都會デマダ水道ノアル處ガナイ。開港場デサヘモナイ處ガ多イノデアル。大概ナ場所デハ普通河水ヲ飲用ニ供スルガ汚水ハ皆河ノ中ニ流入スルノデアルカラ中國

大都會ノ飲用水ハ皆非衛生的ナモノデアル。大都會全部ニ亙ツテ水道設備ヲ完成スルコトハ今日ノ急務デアル。

(2) 大都市全部ニ亙ツテ燈火供給ノ機械的燈火工場ヲ設立セネバナラヌ。

(3) 發電所、瓦斯工場、蒸汽工場ヲ作ツテ暖熱ヲ供給セネバナラヌ。

(4) 厨房用燃料トシテ日用ニ供セラルルモノハ中國ノ最モ貧窮ナル部落デハ毎年ノ工賃ノ一割ヲ薪代ニ拂ツテ居リ、都會ノ人ハ其生活費ノ二割ヲ拂ツテ居ル。ダカラ薪炭問題ハ國民消耗品中最大ノ問題デアル。今後ハ宜シク地方デハ薪炭ノ代リニ石炭ヲ使用スルコトニシ都會デハ瓦斯、電氣ヲ使用スルコトニセネバナラヌ。然シ石炭ヤ瓦斯、電氣ヲ使用スルニハ夫々特別ノ設備ガ必要ダカラ、夫レニハ國際發展機關カラ瓦斯、電氣並ニ焚炭爐製造ノ各工場ヲ設置セネバナラヌ。

(5) 都會タルト地方タルトニ論ナク各戸ニ電話ヲ普及セシメネバナラヌ。其爲メニハ國内ニ電話機製造廠ヲ設ケテ廉價ニ之ヲ供給スルノ方法ヲ講ズル必要ガアル。

第四項　交通工業

中國人ハ凝滯的民族デアツテ、古來家中ニ安居シテ僅カニ手近カナコトバカリニシカ接觸シナイモノガ賞メラレル樣ナ習慣ガアル。孔子ト同時代ノ老子ノ言ニ「隣國相望ミ鷄犬ノ聲相聞ユルモ民老死ニ至ル迄相往來セズ」ト云フコトガアル。

中國人ハ之レヲ以テ黄金時代ト考ヘテ居ルケレドモ、近世ノ文明社會ハコンナ狀態トハ全ク變ツテ了ツテ人ノ一生ノ内、動イテ居ル時間ガ最モ多ク、各人ガ動ケバ動クホド文明ハ進歩スル狀態デアル。故ニ中國モ近世的文明ヲ得ント欲スルナラバ各人ガ必ズ動カナケレバナラヌ。箇人ガ活動スルコトハ卽チ國家ノ活動スルコトデアツテ各人ガ隨時隨處ニ活動スレバ何等ノ手數ヲモ要シナイノデアル。只現在ノ中國ニハマダ箇人ノ活動ヲ容易ナラシムル設備ガ出來テ居ラヌ。昔ノ大道ハ已ニ荒廢シテ内地ノ人ハ自動車ヤ「モーター」ガドンナモノデアルカモ知ラナイ。自動車ハ最近ノ發明デ快速交通ニハ缺グベカラザルモノデアリ、我々ガ行動ヲ敏速ニシテ多クノ仕事ヲシヨウト思ヘバドウシテモ自動車ノ助ケヲ借ラネバナラナイ。只自動車ヲ使用スル爲メニハ先ヅ以テ大路ヲ建設セネバナラヌ。余ガ國際發展計畫デ一部ヲ已ニ提議シタ如ク此等ノ大道ヲ百萬哩築造スル必要ガアル。夫レニハ各縣ノ人口率ニ應ジテ築造ノ里數ヲ定メルコトニスレバ、中國本部十八省ニハ約二千ノ縣ガアリ全國ニ縣制ヲ布クトシテ約四千ノ縣ガアルモノトシ一縣平均二百五十哩宛ヲ築造スレバヨイ譯デアル。又縣ノ人口ハ夫々不同デアルケレドモ百萬哩ヲ四億人ニ割付ケレバ四百人デ一哩ト云フ事ニナリ、四百人デ一哩ヲ作ルコトハ大シタ難事デハナイ。若シ余ノ

此計畫ヲ用ヒテ道路建設ヲ地方自治認可ノ條件トシタナラバ百萬哩ノ大道路モ久シカラズシテ完成サルル時期ガ來ルデアラウ。

已ニ道路ノ建設ヲ決定シタナラバ國際發展機關デハ自動車製造工場ノ建設ニ着手スベク、最初ハ小規模デ始メ漸次擴張シテ四億人ノ需要ニ應ズルコトニシ、車ノ種類モ各種各樣ニ或ハ農業用或ハ工業用、商業用、旅行用、運搬用等ヲ皆大規模ニ製造スレバ其値段モ現在ヨリハ遙ニ低廉トナツテ各人共使用シ得ル樣ニナルデアラウ。

尙車ヲ低廉ニ供給スルト共ニ燃料モ廉價ニ供給セネバ何ノ役ニモ立タヌカラ、自動車工業發展後ハ中國內ノアラユル石油鑛ヲ開發シナケレバナラヌ譯デ此ノコトハ鑛業ノ部ニ詳述スルコトニスル。

第五項　印刷工業

印刷工業ハ人民ニ智識ヲ供給スルモノデアツテ、近世社會ニ於ケル一需要デアリ之ナクシテ人類ハ進歩シ難ク、人類一切ノ大事件ハミンナ印刷ニヨツテ記述セラレ、人類一切ノ智識モ皆印刷ニヨツテ蓄積セラルルモノデアル。カルガ故ニ印刷ハ文明ノ一大要素デアルト共ニ世界諸民族ノ文明進歩ノ程度ハ其毎年ノ出版物ノ多少ニヨツテ評量セラルル位デアル。元來中國人ハ印刷術ノ發明者デアルケレドモ印刷工業ノ發達ニ於テハ非常ニ後レヲ取ツテ居ル。余ハ國際發展計畫中ニモ印刷工業ニ言及シテアルガ、中國ガ余ノ實業計畫ノ如ク發達シタ場合ニハ五億ノ人間ノ需要スル印刷物ハ蓋シ莫大ナモノト云フベク、各大都市大村落ニハ全部大印刷所ヲ設立シテ新聞雜誌カラ百科全書ニ至ル迄、各國出版ノ新書ヲ全部中國文ニ飜譯シテ廉價ニ販賣シテ公衆ノ需要ニ應ズル樣ニセネバナラヌ。ソシテ其販賣モ公設機關デ統一管理シテ廉賣ヲ期スベキデアル。

尙印刷物ノ低廉ヲ期スル爲メニハ同時ニ其他ノ補助工業ヲ興サネバナラヌ。其中デ最モ重要ナモノハ製紙業デ現在中國ノ新聞雜誌ノ用紙ハ皆外國品デアルガ、中國ニハ製紙ノ原料ハ決シテ少クナク西北地方ノ原生林ヤ揚子江一帶ノ蘆荻等ハ皆最良ノ原料デアル。此外又「インキ」工場、紙型工場、印刷機製造工場等モ逐次ニ設立シテ中央管理ノ下ニ印刷工業用品全部ノ製造ヲ圖ラネバナラヌ。

第七節　第六計畫

鑛業ト農業ハ工業上ノ原料ヲ供給スル主要源泉デアツテ鑛業ハ機械ノ材料ヲ生產シ農業ハ人類ノ食物ヲ產出スル。此ノ故ニ機械ハ近代工業ノ幹デアリ鑛業ハ其根デアル。鑛業ナケレバ機械ナ

ク、機械ナケレバ近代工業ナク近代工業ナケレバ人類經濟ノ狀況ヲ變遷發達セシムルコトハ出來ナカツタノデアル。之ヲ要スルニ鑛業ハ物質文明ト經濟發達トノ重大ナル要素デアル。余ハ前ニ第一計畫中ノ第五項デ河北、山西省ノ鐵石炭鑛ヲ開發シ北方大港發展ノ補助計畫トスベキコトヲ說イタガ、鑛業ハ近世ノ重大事業デアルカラ別ニ一計畫ヲ建テテ之ヲ研究スル必要ヲ認メ玆ニ更ニ一部門ヲ設ケタ譯デアル。現在中國ノ工業ハ尙幼稚デアルガ其經營ノ權利ハ國有タルノ慣習法ガ出來上ツテ居リ、中國ノ實業發展上コレハドウシテモ政府自ラ其衝ニ當ツテ始メテ生氣アル經濟政策ヲ樹立シ得ルモノト考ヘラレルノデアル。通常人ハ鑛業ヲ以テ山師的ノモノト考ヘ又外資ヲ用フル事ヲ不得策トスル樣デアルガ、夫レハ未ダ考ヘ方ノ及バザル爲デアル。余ハ今鑛業計畫中デモ最モ有利ナモノカラ順次ニ着手スルコトトシテ左記各項ニ分類シタイト思フ。

一、鐵　鑛
二、炭　鑛
三、石　油　鑛
四、銅　鑛
五、特　種　鑛
六、鑛業用機械ノ製造
七、製煉所ノ設立

第一項　鐵　鑛

近代ノ工業中デ最モ重要ナル原料物質ハ鋼鐵デアル。而シテ幸ニモ其原料タル鐵鑛ハ國內到ル處ニ豐富ニ存在シ又開發モ至極容易デアル。ダカラ國家公共ノ利益カラ云ヘバ鐵鑛ノ採掘權ヲ國有トシテ留保スルコトガ必要デアル。河北、山西兩省ノ既述計畫外ノ各地ノ鐵鑛モ漸次開發セラルベク內地揚子江一帶及ビ西北各省ノ鐵鑛モ豐富デアリ新疆、蒙古、青海、西藏モ埋藏量甚大デアル。只現時經營中ノモノハ僅カニ漢陽鐵廠ト南滿洲ノ本溪湖鐵廠ニ過ズ、而モ其資本ノ大部分ハ日本人ニ占有セラレテ居リ近來利益莫大ダト云フケレドモ徒ラニ利權外溢ノ歎ガアルバカリデアル。廣州ニ南方大港ヲ開設スルトスレバ其附近ニモ製鐵廠設置ノ必要ガアル。其外四川、雲南方面ノ鐵鑛モ開發セネバナラヌ。ソシテ各地ニ鋼鐵製造所ヲ作ツテ鐵鋼材業者ノ需要ニ應ジナケレバナラヌ。製鐵廠建設用資本額ノ如キハ專門家ノ決定ニ待ツベキデアルガ、余ノ見ル所デハ中國實業發展ノ曉ニハ鐵鋼ハ急速ナル需要ヲ喚起スベク前述河北、山西製鐵廠經營資本ノ數倍ヲ投下シテモ決シテ多キニ過ギル憂ヒハアルマイト思ハレル。

第二項　炭　鑛

中國ハ元來石炭鑛ノ豐富ナルヲ以テ著ハレテ居ルモノデ現在採掘シツヽアルモノハ單ニ其上表ノミニ過ギナイ。北米合衆國ハ現ニ毎年ノ出炭額六億屯デアルカラ、中國ニシテ若シ同一ノ方法ヲ採用スルナラバ人口ノ比例カラ見テ米國ノ四倍ヲ產出セネバナラヌ譯デアル。之レガ中國將來產炭額ノ目安デアツテ國際發展機關經營當事者ノ注意スベキ所デアル。中國デハ石炭ハ已ニ各地ニ於テ發見サレテ居リ其產額ノ如キモ豫メ豫定スルニ困難デハナイカラ採掘者モ失敗ノ危險ガナク必ズ厚利ヲ獲得シ得ルデアラウ。只石炭ハ文明民族ノ必需品、近代工業ノ主要消費物デアルカラ徒ラニ採掘者ノ利益ノミヲ考ヘルベキデハナク人類ノ需要ヲ充スヲ目的トスベキデアツテ、外資借款ノ利息支拂ノ次ギニハ工夫ノ工賃ヲ增スコト、價格ヲ安クシテ人民ノ便利ヲ圖ルコト、最後ニハ各種ノ工業ヲ發展セシムルコト等ニ意ヲ用ヒナケレバナラヌ。余ノ考ヘデハ先ヅ最初ハ製鐵業ニ使用サル、分ヲ外ニシテ二億屯位ヲ他ノ事業用トシテ見積ツタラヨカラウト思フ。ソシテ海岸ヤ河邊ノ運搬ノ便利ナ處カラ先キニ採掘シ漸次內地ニ及ボスガヨイ。現在歐洲各國デハ已ニ自國ノ石炭ノ埋藏量ヲ見越シテ中國ノ石炭ニ着目シテ來テ居ルカラ、中國デ前述ノ產炭額ヲ出シテモ決シテ過多トナル憂ヒハナク、數年經テバ中國ノ工業モ益々發展シ石炭ノ需要額モ增大スルコトハ明白デアル。此等ニ要スル資本額並ニ何レノ炭田ヨリ開發スベキヤ等ノコトハ專門家ヲシテ科學的ニ研究セシメ、炭鑛以外尙石炭ニ關聯スル各種ノ工業モ同一ノ方法デ經營シタナラバ、此等ノ新工業ニハ競爭者モナク國內ニ無限ノ市場ヲ有スルモノデアルカラ、投下資本ニ對スル利潤ハ大イニ見ルベキモノガアルデアラウ。

第三項　石　油　鑛

世界ニ於ケル營業會社トシテ最大ナルモノハ紐育「スタンダード」石油會社デ世界デノ大金持ハ該社ノ創立者タル「ロックフェラー」デアル。之レデ見テモ石油鑛開發ガ如何ニ有利ナル事業デアルカハ明カデアル。中國ニモ石油ノ產出ハ莫大デアル。四川、甘肅、新疆、陝西等ニハ皆發見サレテ居リ其埋藏量ハ十分ノ調査ヲ經ネバ確言スル事ハ出來ナイケレドモ、已ニ國內ニ產出スル以上ハ採取シテ自用ニ供シ年々增加スル外國カラノ輸入ヲ防遏セヌト云フ法ハナイ。誠ニ惜シムベキ次第デアル。若シ將來中國ニ自動車ガ流行スル樣ニナレバ「ガソリン」ノ需用ハ今日ニ千倍スル樣ニナルベク、其時ニハ歐米各國ノ石油資源ハ枯渴ニ瀕スルダラウカラ到底中國ノ需要ヲ充タスコトハ出來相ニモナイ、ダカラドウシテモ今カラ採掘ニカヽツテ置ク必要ガアル。又本事業ハ最初カラ相當大規模ニ計畫スル必要ガアルカラ國際實業發展機關ヲシテ政府ニ代ツテ經營セシ

メ、產油地方ト人口稠密地方、工業中心地、各開港場等トノ間ハ油管ヲ以テ聯絡シテ運搬、分配ノ便ヲ圖ルコトニシ、之レニ要スル資本額並ニ各種ノ設計等ハ經驗家ノ指揮ニ從フコトニシタイ。

第四項　銅　鑛

中國ニ於ケル銅鑛ハ鐵鑛ト同程度ニ豐富デアル。已ニ發見サレテ居ルモノモ少クナイカラ其ノ生產額ノ如キモ採掘前ニ豫定シ得ベク、企業上ニ危險ハ伴ハナイガ矢張リ採掘權ハ中國ノ慣例ニ從ツテ國有ノコトニシ國際實業發展機關ガ代ツテ投資經營スルコトニスル。四川、雲南並ニ揚子江一帶ハ中國ニ於テ銅產ノ多イ地方デ、從來政府ガ採掘シ來ツタ銅鑛ハ雲南ノ北隅昭通附近ニアルモノデ已ニ數世紀ヲ經テ居リ國內通用ノ銅貨ハ殆ンド全部雲南銅デ作ツタモノデアル。現在デモ銅ノ使用ハ銅貨鑄造ガ主タルモノデアルガ何分ニモ雲南銅ハ運搬ニ多額ノ經費ヲ要スル爲メニ（現在デモ馬背ハオロカ天秤モカツゲヌ處ヲ通過セネバナラヌ）自然外國品ヲ買入レネバナラヌ樣ニナツテ了ツタガ之レハ決シテ中國ニ產出セヌ譯デナク採掘法ガ發達セヌカラデアル。況ンヤ銅ハ貨幣鑄造以外ニ尙幾多ノ用途ヲ有シ將來工業ノ發達ニ伴ツテ其需要ハ現在ノ百倍ニモ達スル可能性ガアルカラ、將來ハ中國ノ市場ニ於ケル需要品ノ大宗物トナルベク余ガ玆ニ近代式機械設備ヲ以テ大量生產ヲ行フベク强調スル所以デアル。之ニ要スル資本額等ハ專門家ノ設計ニ留保スルコトニスル。

第五項　特　殊　鑛

國際實業發展機關ハ尙此外ニモ各種特別ノ鑛山ヲ經營セネバナラヌ。例ヘバ雲南蒙自ノ錫鑛黑龍江ノ漠河ノ金鑛、新疆ノ和闐玉採取等ノ如キハ皆人力ヲ以テ採掘シテ居ルガ其經營ハ已ニ數世紀ニ亘リ而モ尙埋藏頗ル豐富ト稱セラレテ居リ、現在迄採取シタモノハホンノ上層バカリニ過ギナイノデアツテ下層部ノ大部分ハ排水困難ノ爲メニ其儘手ヲ付ケズ殘サレテ居ル狀態デアル。從來此等ハ民間又ハ政府デ經營シタモノデアルガ之レニ新式機械ヲ應用シテ政府ノ直營トシタナラバ最モ經濟的ノ經營ト爲シ得ル譯デアル。尙此他ニモ已ニ廢棄サレタ鑛產モ少クナイノデ此等ニ對シ大々的ニ探鑛ヲ行ツテ尙モ利益ノアルモノナラバ國際發展計畫ニ依ツテ再興シ、又將來一切ノ鑛業ニ對シテハ政府經營以外ニ個人ニモ契約ヲ以テ採鑛ヲ許可スルコトトシ、契約滿期後尙有望ナモノハ政府ニ於テ引繼キ經營スルコトニスレバ、アラユル有利ノ鑛山ハ皆社會ノ公有ニ歸スル樣ニナツテ全國民ガ其利益ニ均霑シ得ル樣ニナレル譯デアル。

第六項　鑛業用機械ノ製造

各金屬共一個所ニ埋藏サレテ居ルモノハ一小部分ニ過ギズ皆各地ニ散在シテ居ルモノデアリ、

又其埋藏地域ノ廣狹モ一定シテ居ラヌカラ各種ノ鑛業全部ヲ政府ノ經營タラシムルコトハ不可能デアル。從ツテ個人ニモヤラセナケレバナラヌ。之レヲ農業ニ譬ヘテ見レバ個人ニヤラセタ方ガ利益ハ常ニ多ク、此ノ點鑛業デモ同樣デアル。鑛業ノ發展ヲ欲スルナラバ國家トシテ必ズヤ寛大ナル鑛業法規ヲ制定セネバナラヌ。尙其上ニ政府ノ顧問技師ハ自由ニ指導、啓發ヲ加ヘ、銀行ヤ會社ハ經濟上ノ援助ヲ與ヘルコトニシ、一方國際發展機關トシテハ各種鑛業用ノ器具機械ヲ製造シテ之ヲ供給シ、機械商ハ現金賣リタルト掛ケ賣リタルトニ拘ハラズ最低價格ヲ以テ販賣シ、萬遍ナク多數ノ工夫ニ行渡ル樣ニ努力シタナラバ鑛業ハ忽チニシテ隆盛ニ赴クデアラウシ、鑛業ガ隆盛ニナレバ機械ノ需要モ日ヲ逐ウテ多クナリ機械器具製造ノ利益ハ量ルベカラザルモノガアルデアラウ。只此ノ製造所ハ始メハ極ク小規模ニ經營シ鑛業ノ發達ニ連レテ漸次擴大セネバナラヌ。余ノ意見トシテハ其第一廠ハ廣州ニ設立シタイ。蓋シ廣州ハ西南鑛山區域ノ出入港デ原料ノ收集ニモ技師ノ招聘ニモ他地方ヨリ便利デアルカラデアル。其ノ他ノ工廠ハ漢口ヤ北方各地ノ開港場ニ設置スルコトニスル。

第七項　製煉所ノ設立

製煉所ハ各鑛山ニ設置シテ各金屬ノ製練ニ便セネバナラヌ。ソシテ其ノ組織ハ共同計算法ニヨルガヨイ。最初ハ鑛石ノ買收モ廉價ニ出來得ベク製品ハ中外ノ市場ニ販賣シ其利益ノ一割ヲ製煉工夫ニ與ヘテ各種ノ費用、利息、雜費ヲ支辯セシメ、其他ノ余剩利益ヲ他ノ工賃並ニ鑛石代等ニ按分スルコトニスレバ個人鑛業ノ奬勵ニモナリ工業ノ基礎モ確立スル譯デアル。只其設立ハ需要關係トウマク按排ヲ保ツ必要ガアルノデ、ソレガ爲メニハ專門家ヲシテ規模ノ大小ヲ研究セシメ中央ノ機關カラ之ヲ管理シナケレバナラヌ。

第八節　結　論

世界ニハ三大問題ガアル。卽チ國際戰爭、商業戰爭及ビ階級鬪爭ガ之レデアルガ、余ハ此國際實業發展計畫中デ此世界ノ三大問題ノ解決ヲ敢行ショウトスルモノデアル。若シ「ダーウィン」ニ次デ起ルベキ哲學者ガ發明スベキ人類進化ノ主動力ガアルトスレバ、夫レハ生存競爭デハナクテ相互扶助デナケレバナラヌ。成ル程他ノ動物ニ就テハ生存競爭ハ眞理デアラウガ人類ノ鬪爭性ナルモノハ動物性ノ遺傳ニ過ギナイモノデアルカラ、コンナモノカラハ逸早ク脫却シテ了ハナケレバナラヌ。

國際戰爭ナドト云フコトハ第一其名前ノツケ方カラシテ間違ツテ居ルノデアツテ、强イテ名前ヲツケルラバ『組織的强盜機關ノ强盜行爲實行』トデモ云フベキモノデ苟モ良心ノアルモノナラ

バヤレナイコトデアル。而モ彼等ハ平氣デ之ヲヤツテ居ルノデアル。米國ガ歐洲戰爭ニ加入シタ爲メニ遂ニ歐洲戰爭ヲシテ世界戰爭タラシメタ。米國人ノ考ヘデハ今度ノ大戰爭デ永遠ニ戰爭ヲ絶滅セシメ樣ト思ツタノデアルカモ知レナイ。吾々中國人ハ元來平和愛好ノ民族トシテ通ツテ居ルモノデ中國思想中ノ大同世界ハ始終世界ノ羨望スル所デアル。不幸ニシテ米國ハ戰爭其物ニハ大勝利ヲ獲タケレドモ平和問題ニ對シテハ全然失敗ニ終ツテ了ツタ。夫レガ爲メニ世界ハ再ビ戰爭前ノ狀態ニ逆戻リシテ土地ノ爲メノ爭ヒ、食物ノ爲メノ爭ヒ、原料ノ爲メノ爭ヒガ又モヤ實現セントスル形勢デアツテ、其ノ結果以前ニハ平和ヲ絶叫シタモノガ今ヤ更ニ陸軍ノ增師ヲ圖リ海軍ヲ擴張シテ來ルベキ戰爭ニ備ヘントスル樣ナ狀態デアル。中國ハ世界中人口最多ノ國デ將來最モ望ミヲ屬セラルベキ土地デアルガ、十余年前ニハ列强ガ之ヲ分割セントシ帝政露國ハ滿洲ニ殖民ヲ實行シタガ日本ガ義憤ヲ發シテ之ト戰ヒ中國ノ滅亡ヲ救助シタノデアル。然ルニ今ヤ日本ノ軍國政策ハ獨力デ中國ヲ併呑セントシテ居ル。中國トシテハ若シ列强ノ包圍カラ脫離スルコトガ出來ナケレバ、列强カラ分割セラレナクテモ或ル一國カラ兼併セラルルデアラウ。然シ一面ヨリ見レバ今日ノ時勢ハ已ニ轉換ノ機運ニ到達シテ居ツテ中國人ハ數世紀間ノ壓迫ヲ經過シテ今日已ニ覺醒ノ氣運ニ到達シ居リ、起ツテ世界ノ進步ニ追隨セントスル道程ノ中ニアルモノデ戰爭ニ依ツテ結合スルカ、平和ノ中ニ結合スルカ二者ノ一ヲ選バントシツツアル。前者ハ國內軍國主義者並ニ反動者流ノ主張デアツテ、日本ノ眞似ヲシテ時期ノ到ルヲ待チ拳匪ノ亂ヲ此文明世界ニ再現セントスル樣ナ考ヘデアルガ、我中華民國創造ノ目的ガ元來平和ニ存スルノデアルカラ余ハ敢テ玆ニ『平和ノ爲メニ筆ヲ採ツテ此計畫ヲ草スルノデアツテ其效力ハ兵器ヲ利用シテ清朝ヲ打倒シタコトヨリモ尙大ナルコト』ヲ證言セント欲スルモノデアル。

ソシテ余ノ此實業計畫ノ著述ハ已ニ全國各地ノ新聞雜誌ニ一再ナラズ登載セラレ流傳セラレ人トシテ處トシテ歡迎セヌモノハナク、又曾テ之ニ不贊成ヲ稱エタモノ有ルヲ聞カナイ。只彼等ノアルモノハ余ノ提議セル計畫ガ余リ偉大過ギルノデ此巨額ノ金ヲ何處カラ引出シテ實行シ得ルカヲ心配シテ居ル樣デアルガ、幸ニモ本計畫ノ始メノ方ノ部分ハ已ニ各國政府並ニ巴里ノ平和會議ニ送附シテアツテ巴里デハ已ニ新銀行團ノ成立ヲ見、中國ヲ援助シテ天然物產ヲ開發セシメントスル動議ガアル相デ其發起人ハ米國政府デアルト云フカラ、吾々ハ最初カラ資本ニ對シテ何等顧慮スル必要ハナイ譯デアル。

列强ノ行爲ガ若シ眞ノ協力デアルナラバ相互共同ノ利益ヲ得ルコトガ出來ルガ、假リニモ軍國主義者ノ主張スル樣ニ物質慾ノ爲メニ中國ニ向ツテ戰端ヲ挑ム樣ナ事デアツタナラバ決シテモノ

ニナラナイデアラウ。何トナレバ相互扶助ニ依テ獲ラルル利益ハ競爭ニ依テ獲ラルル利益ヨリモ遙ニ大ナルコトガ明白デアルカラデアル。彼ノ日本ノ武力派ハ今モ尙戰爭ヲ以テ民族發展ノ利器ト考ヘテ居リ、其參謀本部ハ十年毎ニ一戰爭ヲ計畫シテ居リ、一八九四年ニハ最モ短期間ノ日清戰爭デ莫大ナル利益ヲ獲得シ、之ニ味ヲ占メテ一九〇四年ニハ日露戰爭ニ大勝シ其利益モ亦尠少デナカツタ。最後ニハ一九一四年ノ大戰爭ニ參加シ聯合軍ニ加入シテ獨逸ヲ驅逐シ最少ノ努力ト輕微ノ費用トデ、面積ハ戰前ノ「ルーマニア」程アリ人口ハ佛蘭西程モアル山東ヲ獲得シタノデアル。斯ノ如ク最近三十年間ニ於テ戰爭スル毎ニ莫大ナ利益ヲ獲得シテ居ルカラ、日本ノ軍閥者流ガ戰爭ヲ最モ有利ナ事業ト考ヘルノモ無理ノナイ次第デアツタ。

然ルニ今回ノ歐洲戰爭ノ結末ハ全ク之ト反對ノ結果ヲ招來シタノデアル。野心滿々タリシ獨逸ハ殆ンド其資本ト權利ト其他計上シ得ザル程ノ物トヲ喪失シテ了ヒ、佛蘭西ハ僅ニ戰勝ノ名譽ノミヲ贏チ得タガ他ニ何等得ル所ハナカツタノデアル。今ヤ中國人モ已ニ覺醒シテ來テ居ルカラ、假ニ日本ガ其侵略政策ヲ實行シ樣トシテモ中國人ハ必ズ之ヲ拒絕スルデアラウシ、假令不幸ニシテ一時日本ニ占領セラルル樣ナコトガアツテモ、何レノ場所何レノ時ニ於テモ日本ガ之ヲ有利ニ統治シ得ルコトハ望ミ得ナイデアラウ。余ノ見ル處デハ日本ノ財政家ハ軍閥ニ比スレバ稍先見ノ明ガアル樣デアル。滿蒙支持論ニ於テ財政家ハ最後ノ勝利ヲ得テ蒙古壟斷ノ政策ヲ放棄シ、列强ト共ニ新銀行團ヲ組織シタ。此新銀行團ガ其主張スル主義ヲ實行スレバ中國人ハ元來平和ヲ以テ中國ヲ改造セントスルモノデアルカラ、必ズ誠意ヲ以テ之ヲ歡迎スルダラウシ萬國的相互扶助ハ玆ニ始メテ實現ノ可能ヲ有スル譯デ、個人又ハ一民族ノ爲メニ私利ヲ圖ラントスルモノハ自然ニ消滅スルニ至ルデアラウ。

商業戰爭モ亦戰爭ノ一種デ資本家ト資本家トノ戰爭デアル。ソシテ此戰爭ニハ民族ノ區別モ國境ノ制限モナク、常ニ人道ヲ顧ミズ相互ニ鬪爭スルモノデ其戰鬪ノ方法ハ値段ノ競爭デアル。弱者ハ倒壞シ强者ハ市場ヲ壟斷シテ販路ヲ獨占シ、何處迄モ勢力ノ及ブ處迄發展シテ止マナイモノデアル。ダカラ商業戰爭ノ結果モ其損害ノ大ナル事、殘酷サノ甚シイ事ニ於テ決シテ鐵血競爭ガ强力ヲ以テ壓迫スルノニ讓ラナイモノデ現ニ機械生產ノ發達以來日ニ日ニ激烈ヲ極メテ居ル。「アダムスミス」一派ノ經濟學者ハ競爭ヲ以テ利益ヲ生ジ生氣ヲ有セシムル經濟組織上ノ要素ナリト云ツテ居ルガ、近代ノ經濟學者ハ之ヲ浪費ヲ生ミ損害ヲ生ズル經濟組織ナリト云ツテ居ル。然シ近代經濟ノ趨勢カラ見レバ之トハ全ク反對ノ傾向ヲ現出シ、自由競爭ニ代ユルニ經濟集中ヲ以テシテ居ル。米國ニ「トラスト」ガ出現シテ以來「トラスト」制限法ノ發布ガアリ一般人民モ亦之ヲ當然

ト考ヘテ居ル。蓋シ「トラスト」ナルモノハ生産費ヲ極度ニ節約シテ低廉ナル物品ヲ製造スルカラ個人デハ到底競爭ガ出來ズ、如何ナル場合デモ其他ノ小製造業者ヲ一掃シ盡スモノデアリ、低廉ナル物品ヲ社會ニ供給スルコトハ固ヨリ社會ニ取ツテ便利デハアルケレドモ、不幸ニシテ「トラスト」ハ多クハ個人ノ所有デアル爲メニ其目的ハ利益以外ニ何物モナク、他ノ小製造業者ガ全部倒壞シ競爭者ガナクナレバ再ビ物價ヲ吊リ上ゲテ社會上ニ無形ノ壓迫ヲ加ヘルモノデアル。抑々「トラスト」ノ出現ハ經濟進化ノ結果デアツテ人力ノ如何トモスベカラザルモノデアルガ、此弊害ヲ除ク爲メニハ一切ノ「トラスト」組織ヲ全部國民ノ公有タラシムル以外ニ方法ハナイ。ダカラ余ノ國際的實業發展計畫デハ一切ノ工業ヲ一ツノ大會社ニ統一セシメテ之ヲ全中國人民ノ公有トシ、國際資本家カラ共同經濟ノ援助ヲ受ケテ經營スル樣ニシタナラバ世界市場ニ於ケル商業戰爭モ自然ニ消滅スルニ至ルダラウト思ハレル。

階級鬪爭ハ勞働者ト資本家トノ戰爭デアツテ現ニ各工業國家デハ非常ニ激烈ニ行ハレテ居リ、勞働者ハ之ニヨツテ最後ノ勝利ヲ得ントシテ居リ、資本家トシテモ之レガ爲メニ大ニ苦勞シテ居ルノデアル。ソシテ之レガ何時終局スベキカ、如何ナル結果ヲ得ベキモノデアルカハ何人モ豫測シ得ザル所デアル。中國ハ工業ノ發達ガ遲レテ居ル爲メニ形式上マダ階級鬪爭ノ域ニ到達シテ居ラズ、其ノ勞働者ハ通常苦力ト稱セラレ其ノ生活ハ只手カテ口ヘノ狀態デアリ、ドンナ資本家デモ小サナ店ヤ工場ヲ備ヘテ苟モ彼等ニ勞働ヲ供給スルモサヘアレバ大ニ歡迎シテ居ル狀態デアル。況ンヤ其ノ資本家ナルモノモ寥々晨星ノ如キモノデ僅ニ開港場ダケニシカ存在シテ居ナイ。

中國ノ工業ハドウシテモ發展サセナケレバナラナイガ其ノ發展樣式ハドンナ風ニシタラヨイデアラウカ、ヤハリ西洋文明ノ樣ナ舊來ノ樣式ヲ採ルベキデアラウカ。此ノ舊來ノ樣式ハ「コロンブス」ガ始メテ「アメリカ」ヲ發見シタ時ノ徑路位ナモノデハナイ。此ノ時ノ海路ニ就テ考ヘテ見テモ歐洲カラ西南方ニ向ツテ「カナリア」群島ヲ經テ「バハマ」群島ノ「サルバドル」ニ至ル迄非常ナ廻リ路ヲシテ居リ、現在ノ直線航路ニ比較スレバ何層倍カノ遠距離デアツテ到底同日ノ比デハナイ。況ンヤ西洋文明ノ經過シテ來タ道程ト云フモノハ此ノ「コロムブス」ノ「アメリカ」發見ノ航路位ノモノデハナク、全ク暗夜ニ彷徨シテ居ツタ樣ナ狀態デアツタノデアル。今ヤ中國ハ後進デアルカラ西人ガ已ニ開拓シタ路ニ從ツテ進メバヨイノデアツテ、大西洋ヲ西ニ向ツテ進メバ印度ニ行カズニ「アメリカ」新大陸ニ達スルコトハ豫メ分ツテ居ルノデアル。經濟界ノ趨勢モ亦此通リデアツテ、物質文明ノ標的ハ個人ノ利益ニ存セズシテ公共ノ利益ニアルノデアルカラ其ノ捷徑ハ競爭デナクテ相互扶助ニアルノデアル。ダカラ余ノ國際發展計畫デハ工業ノ發展ニ依

テ生ズル利益ハ第一ニ外資借款ノ利息ヲ拂ヒ、第二ニ勞働者ノ工賃ヲ增シ、第三ニ機械ノ生產力ヲ改良增進セシムルコトニ使用シ、其ノ他ノ余剩利益ヲ各種ノ公共事業ニ活用スルコトトスレバ人民一般モ近代文明ノ恩澤ニ浴スルコトガ出來ルノデアル。

前述ノ六大計畫ハ余ガ新中國ヲ建設セントスル總計畫ノ一部分デアルガ、其ノ何レノ部分ニ於テモ中國ヲ資本主義カラ社會主義ニ遷移セシメル樣ニ計畫シタモノデ、此ノ二個ノ人類經濟進化ノ關鍵ハ將來ノ文化中ニ於テ必ズ相依リ相扶ケテ行ハレテ行クデアラウ。

附錄一

廣州重慶鐵道及ビ蘭州支線借款並ニ工事請負契約草案

本契約ハ中華民國二年七月四日卽チ西歷一千九百十三年七月四日ニ上海ニ於テ成立シタモノデ、其ノ當事者ハ中國國家鐵路公司デアリ一方ハ「ポーリング」商會（Pauling and Company）デアル。中國國家鐵路公司ハ中華民國元年九月九日卽チ西歷一千九百十二年九月九日ニ大總統ノ命令ヲ以テ委任セラレ次デ中華民國二年三月三十一日卽チ西歷一千九百十三年三月三十一日ニ大總統ヨリ公司章程ヲ公布シテ組織シタモノデアリ、「ポーリング」商會ハ現在「ロンドン」ノ「ヴィクトリヤ」街二號ニ設立サレテ居ル。契約者等ハ當事者雙方ノ同意ノ上契約條文ヲ左ノ如ク議定シタ。

第一條　契約者ハ中國ニ巨額ノ金ヲ貸付クルコトヲ承認ス。其ノ利子ハ年五分トシ專ラ廣東ヨリ重慶ニ到ル鐵道ヲ建設スル費用トシ、其ノ總額ハ雙方ニ於テ豫メ之ヲ議定スベシ。此ノ借款ニヨリ發行スル債券ハ千九百十三年中國國營廣東重慶鐵道五分利公債券ト名ヅク。

第二條　本借款ノ用途ハ專ラ廣東ヨリ重慶ニ到ル鐵道ノ築造ト器具ノ費用トニ充當シ、其ノ必要

ナル用具ハ之ヲ更ニ第十七條ニヨル細目中ニ詳細ニ列記ス。

第三條　借款ノ分期償還ト利息ノ支拂トハ中國政府ニ於テ之ニ任ジ竝ニ廣東重慶鐵道ノ監理權ヲ以テ之ガ擔保トナス。

本監理權ハ契約者ニ於テ同鐵道ノ債劵所有者ヲ保護スル目的ノ爲メニ第一低當權ヲ保有スルモノトス。而シテ其ノ抵當物件トハ鐵道建設ニ要セル各種ノ費用及鐵道材料車輛竝ニ家屋等ヲ指スモノトス。

若シ利息ノ全額或ハ一部分ヲ規定ノ期限ニ交付シ能ハザリシ時ハ契約者ハ其ノ債權所有者ヲ保護スル爲メ右權利ヲ特別抵當品中ニ加入スル權利ヲ有スルモノトス。

第四條　鐵道建設ノ時期內ニ於テハ債劵ト借款ノ利息トハ契約ノ協定ヲ以テ借款金額中ヨリ支出スベシ。借款ニ組入レタル利息ニシテ若シ建設時期內ニ償還シ能ハザルモノハ鐵路公司ノ既ニ成立セル一部分ノ鐵道ノ收入ヲ轉用シテ補償スベシ。若シ更ニ不足アル時ハ借款ヲ以テ補足ス。

鐵道全部ノ建設完了後ニ於テハ其ノ債劵ノ利息ハ同鐵路公司ノ鐵道收入或ハ其ノ他ノ收入ヨリ之ヲ支拂フ。但シ本辦法ノ詳細ナル契約ニ就キテハ別ニ本契約ノ第十七條ニ基キテ詳細ニ規定ス。

如何ナル理由タルヲ問ハズ若シ鐵道ノ收入金ト借入ノ預金額トヲ以テシテ尙債劵ノ利息ト詳細契約中ニ記載サレタル借入手形ノ償還額トニ不足アル時ハ、中國政府ニ於テ本契約ヲ保證スル爲メ正式ニ本借款ノ負債ト第十七條ニヨル詳細契約ニ記載サルベキ償還利息トヲ政府ヨリ交付スルコトヲ承認ス。

第五條　本公司發行ノ債劵ハ之ヲ中國政府ノ債劵ト爲ス。

第六條　債劵ハ二回或ハ二回以上ニ分割發賣スベク第一回ノ發行總額ハ金一百萬餘乃至二百萬磅トシ本契約第十七條ニヨル詳細契約ニ雙方調印後直チニ實行スベシ。本債劵ノ發行價額ハ鐵路公司ト契約者トノ協議ニヨリ同樣ナル債劵ヲ標準トシテ賣出價格ヲ議定ス。此ノ價格ハ各國ニ於テ債劵ヲ發行スルニ要スル印紙稅ヲ包含スルガ故ニ其ノ原定價格ニ比シ稍々低率ナルモノタルベシ。コノ債劵ハ少クトモ五十「パーセント」ハ英國ニ於テ發行サルベク、四「パーセント」ハ契約者ニ於テ保留ス、卽チ債劵ノ發行額金百磅ニツキ四磅ノ割ニテ保留スルコトヲ得。

第十七條ノ詳細契約既ニ決定シ債劵モ亦發行セラレントスル時ハ契約者ハ先ヅ金五萬磅ヲ廣東重慶鐵路公司ノ預金トシテ銀行ニ預入ルベシ。此ノ金額ハ鐵路公司總辦ノ命令又ハ會計主任ト

技師長トノ調印ニヨリ隨時測量及各種ノ必要ナル費用ニ充當スルコトヲ得。此ノ金額ニ對スル年利ハ五分トシ將來借款金額中ヨリ償還スルモノトス。

第七條　借款ハ銀行ニ預金シ置キ契約者ニ於テ廣東重慶鐵路勘定トナスコトヲ聲明ス。此等ニ就テハ更ニ第十七條ニヨル詳細契約中ニ規定スルコトヲ得。

建設工事既ニ開始ノ際ハ六箇月間使用スルニ充分ナル金額ヲ中國ニ設立サレタル銀行ニ預入レテ廣東重慶鐵路公司勘定トシテ同公司ノ使途ニ充當セシム、但シ會計主任ト技師長トノ調印ヲ要スルモノトス。此ノ六箇月間使用ノ總額ハ月割ヲ以テ逐次之ヲ中國ノ銀行ニ預入ル。

第八條　詳細契約調印後本鐵路公司ハ直チニ廣東省城ニ別ニ廣東重慶鐵路事務所ヲ設立スベシ。此ノ事務所ニハ中國人總理一人ヲ置キ鐵路公司ニ於テ任命シ、英人技師長及英人會計主任各一人ヲ置キ鐵路公司ト契約者トニ於テ協同選定シタル上鐵路公司ニ於テ任命ス。但シ雇用セル英人職員ハ若シ鐵路公司ト契約者トノ同意ヲ得レバ之ヲ交迭スルコトヲ得。

本職員ノ盡スベキ義務ハ鐵路公司ト債券所有者ノ共同利益ヲ增進スルニ在ルガ故ニ各問題ノ發生スル毎ニ必ズ鐵路公司及ビ契約者ト共同シテ公平ニ處理スベシ。英人技師長ト會計主任トノ給料及雇傭期限ハ鐵路公司ト契約者トニテ協定シ鐵道勘定ノ內ヨリ支出スベシ。

凡ソ鐵道管理ニ關スル重要職員ハ若シ經驗アリ技能アル歐洲人アリ、有能ナル中國人アル時ハ均シク一體ニ並用スベク、コレラ一切ノ任用ト其ノ權限トノ如キ規定ハ總理ニ於テ技師長ト會商シテ鐵路公司ニ審議認可ヲ請フベシ。總會計部ニ雇用スル歐洲人ハ均シク同一方法ニヨツテ處理スベシ。若シ歐洲職員ニシテ失德行爲アリ或ハ其ノ任ニ適セザル時ハ總理ト技師長ト會商シテ鐵路公司ニ審議許可方申請シタル上同職員ヲ交迭スルコトヲ得。歐洲人職員ノ雇用契約ハ普通ノ使用人ノモノト同樣タルベシ。

凡ソ總會計部ニ於ケル收入勘定及鐵道建設ト管理トノ支出數目ハ中英兩國ノ文字ヲ用フベシ。會計主任ハ此ノ辨法ニ依ツテ報告ヲ作成シ夫々總理ト債券所有者ノ代表タル契約者トニ報告スベシ。但シ本項勘定ノ收入ト支出トハ必ズ會計主任ノ承認ヲ經並ニ總理ノ審議許可ヲ經タルモノナルコトヲ要ス。

鐵道建設工事完了後ニ於テハ凡ソ普通ニ處理スベキ鐵道事項ニ關シテハ總理ト技師長ニ於テ會商シテ處理シ隨時鐵路公司ニ報告スベシ。

技師長ノ責任ハ鐵道運輸ヲ圓滑ナラシメ經費ヲ節省セシムルニ在リ、普通ノ事項ニ至ツテハ總理ト會商シテ進行スベシ。副技師ハ建設ノ時期ニ於テ其ノ責任ヲ如何ニスベキヤハ更ニ本契約

中ノ第十七條ニヨル詳細契約ニ於テ詳細ニ示スベシ。

技師長ハ鐵路公司ノ意思ト命令トヲ遵奉スルコトヲ要ス。此ノ意思ト命令トハ其ノ直接授與スルト或ハ總理ヲ經テ轉達スルトニ拘ハラズ均シク一切之ニヨツテ處理スベク、竝ニ鐵道ノ建設ト維持トニ對シ隨時注意ヲ怠ラザルベシ。

中國鐵道人才ヲ養成スル爲メ總理ニ於テ若シ鐵路公司ノ認可ヲ得タル時ハ鐵道專門學校ヲ設クルコトヲ得。

第九條　契約者ハ本鐵道ノ建設ト完成トヲ擔任シ且ツ同鐵道所用ノ建築物ト器具トノ確實ナル價格ノ七「パーセント」ニ相當スル數量ノ供給權ヲ保留スルコトヲ得。器具ナル二字ノ意味ハ鐵道ニ於テ運轉ニ用スル一切ノ器具例ヘバ車輛機關車等ノ如キモノヲ皆之ニ包含セシムルモノトス。

器具ナル名詞ヲ更ニ明白ニ解釋セバ凡ソ鐵道ガ既ニ建設完成シ之ヲ使用シタル後ニ於テ購入セル各種ノ物品ハ其ノ內ニ包含セザルモノナリ。

更ニ詳細ニ之ヲ解釋セバ凡ソ鐵道ヲ建設スル爲ニ購入スル土地及總理、會計主任、技師長並ニ各從業員ノ給料ハ建設ト器具トノ名詞ノ意味ノ內ニ包含セシムベカラザルモノトス。

契約者ハ規定ニヨリ甘肅省ノ蘭州ニ到ル支線ヲ建設スル權利ヲ有シ若シ雙方ノ同意ヲ得タル場合ハ更ニ同鐵道ヲ其他ノ地方ニ延長建設スルコトヲ得。此ノ種ノ權限ハ鐵道起工ノ始メヨリ七年內ヲ以テ有效トス。

其ノ餘ノ一切ノ鐵道建設ト器具購入トニ關スル事項ハ本契約第十七條ニヨル詳細契約ニ從ツテ處理ス。

第十條　一切ノ鐵道沿線ノ土地ニシテ測量指定シタル上詳細ナル計畫ニヨリ附屬道路、停車場、修理工場及車庫ノ用ニ供スルモノハ、公司ニ於テ確定セル價格ニテ買收シ借款額中ヨリ之ヲ支給スベシ。

第十一條　契約者ハ詳細契約ノ規定スル所ニ依リ各段ノ鐵道工事完了スル每ニ其ノ鐵道ヲ鐵路公司ニ引渡シテ其ノ使用ニ備フベシ。

第十二條　契約者ハ役員ヲ派遣シテ債券所有者ノ代表タラシムベシ。其ノ受領スベキ給料ハ別ニ詳細契約ヲ以テ之ヲ定ム。

第十三條　中國政府ハ現在建設中或ハ既ニ運轉シ居ル鐵道ト、鐵道ニ屬スル一切ノ財產竝ニ中國或ハ外國ノ雇用スル人員トニ對シ總テ各地方官ニ極力保護スル樣命ズベシ。鐵道ハ警察隊ヲ設

ケ警察官ヲ置クコトヲ得、其ノ給料ト費用トハ鐵道建設費中ヨリ支給スベシ。若シ鐵道ニテ事故アリテ政府ノ兵力ヲ必要トスル場合ニハ鐵路公司ヨリ其ノ趣稟請スベク其ノ際ハ迅速ニ軍隊ヲ派シテ駐守セシム。但シコレラノ軍隊ニハ政府ニ於テ費用ヲ供給スベシ。

第十四條　凡ソ鐵道ヲ建設スルニ用フル各種ノ材料ハ其ノ外國ヨリ購入スルト或ハ本省ニ於テ採取スルトニ拘ハラズ、若シソレガ鐵道ノ爲メニ使用スルモノニシテ免稅範圍內ニアルモノナル場合ハ一律ニ釐金ト關稅トヲ免除スベシ。又債券竝ニ鐵道ノ收入ニ對シテハ中國政府ニ於テ各種ノ徵課ヲ免除スベシ。

第十五條　中國工業ヲ奬勵スル見地ヨリ若シ中國ノ材料ニシテ價格品質共ニ適當ナルモノアル時ハ之ヲ使用スベシ。

英國製造ノ貨物ト他國ノ貨物トガ同質同價ナル時ハ英國貨物ニ於テ優先權ヲ有ス。

第十六條　契約者ハ鐵路公司ノ審議ト承認トヲ得テ全部或ハ一部ノ權利利益ト事業權トヲ他ニ讓與スルコトヲ得。

第十七條　本契約ニシテ調印ヲ經タル上ハ直チニ中國政府ニ送リテ審議決定ヲ請フベシ。若シ中國政府ガ之ヲ認可シタル時ハソノ後ニ於テ本契約ヲ雙方ニ於テ協定シ、別ニ詳細ヲ約定ス。

第十八條　本契約ガ批准認可ヲ經タル上ハ中國政府ハコノ事實ヲ駐英公使ニ照會スベシ。但コノ批准ハ必ズ第十七條ニヨル詳細契約ヲ包括スルモノタルベシ。

第十九條　本契約ハ中英兩國文字ヲ以テ四通ヲ作製シ一通ヲ中國政府ニ送呈シ一通ヲ駐華英國公使ニ送呈シ一通ヲ契約者ニ於テ保存スベシ。若シコノ契約ノ解釋ニツキ疑義ヲ發生シタル場合ハ英文原本ヲ以テ標準トナス。

中華民國二年七月四日卽チ千九百十三年契約ニ關スル雙方當事者上海ニ於テ署名ス。

附錄　一

駐華米國公使「ジョンス」氏ノ返信譯文

拜啓陳者貴信二月一日接受致候御送付ニ與リタル貴著國際共同中國實業發展計畫ヲ拜讀致シ深ク先生ガコノ重要問題ニ對シ宏偉精深ナル政策ヲ以テ之ヲ運用セラルルコトヲ感佩シ欽喜慶賀スル次第ニ有之候。貴意ニ據ルニ中國ノ實業ヲ發展セシムルニハ國際聯合ノ共同勢力ヲ以テ之ニ當ルベク凡ソ中國ノ朋友タルモノハ極力贊助スベキモノナリトセラルル處ナルガ、從來列强ハ戰爭ノ終熄スル每ニ常ニ所謂勢力範圍及割讓租借等ノ手段ヲ用ヒタルモノニシテ、ソノ不幸ナルコト

ハ周知ノ事實ニ有之、貴意ニ於テ從來ノ惡習ヲ改革排除スル爲メニ必要ナル企圖トシテ聯合政策ヲ提倡シ國際機關ト中國ト共國シテ中國ノ實業ヲ發展セシメントセラルルハ、ソノ見ル所頗ル是ニシテコノ方法ニ依ラバ中國ノ享有スベキ權利ニシテ保持スベカラザルモノ無カルベク候。

余ハ深ク中國ノ情勢ガ改善セラレ、一切ノ中國人民ニ於テ其ノ財貨ヲ生產事業ノ爲メニ利用シコノ偉大ナル經營ニ協力スルニ至ランコトヲ切望スルモノニ有之、尙中國政府ガソノ本國ノ工業ヲ奬勵シソノ本國ノ無限ノ資本ヲシテ生產ノ爲メニ用ヒシメラルル日ノ遠カラザランコトヲ切望スルモノニ御座候。蓋シ政府ニ於テ建設的政策ヲ有スルニ於テハソノ信用ハ自ラ向上スルガ故ニ有之候。

若シ先生ニシテ余ノ進言ヲ許サルレバ余ハ先生ノ偉大ナル計畫ヲ紹介致度或ハコレニヨリ世界ノ原料ト資本トニ密切ナル關係ヲ生ゼシメ得ベキカト被存候。吾人ハ均シク目下ノ荒廢セル歐洲ガ物資ヲ需メテ恢復センコトヲ切望シ居リ、他國モ又偉大ナル計畫ヲ發展セシメテ資ヲ求メントシツツアルヲ知悉シ居ルヲ以テ、中國ノ實業ヲ發展セシムル計畫ニ於テハ必ズソノ中ノ最モ急迫ニシテ最モ密接ナル必要アリト認メラルルモノヲ定メ然ル後聯合共同シテ運輸ヲ整頓シ、此種ノ計畫中ニ於テ永久的位置ヲ占メシムル必要アリ、故ニ目前ノ計トシテ五萬哩ノ鐵道ハ最モ需用ニ對スル適量カト思惟セラレ候。カクノ如ク中國西北部ノ豐富無人ノ境域ヲシテ交通ヲ便利ナラシメ移民ヲ居住セシムルニ於テハ沿海一帶ノ住民ノ過度ニ稠密ナル各省ヲ救濟シテ經濟的壓迫ヲ受クルニ至ラシメザルノミナラズ、亦中國西北兩部ノ豐富ナル區域ヲシテ中國內部及世界各國ト通商スル機會ヲ有セシメ得ルモノニ候。

中國ノ石炭鐵鑛ニ對スル發展ハ殊ニ必要ナル企圖ニ有之候。石炭ト鐵トハ近代工業ノ兩大原料ニシテ若シ中國ニシテ右二工業ヲ發展セシメント欲スレバ如何ニシテモ外資ヲ利用シテ之ヲ援助スル必要アリ、只注意セザルベカラザルハ一面ニハ石炭鐵ヲ保存シテソノ本國ノ需要ニ應ジ一面ニハ中國ノ鐵鋼事業ヲ外國人ノ抵當物タラシムルコトヲ阻止スベキコトニ有之、カクノ如クスルニ於テハコノ偉大ナル事業ハ何等累ヲ中國ニ及ボスノ憂無之候。幣制ノ改良ト內地稅率管理ノ改良モ亦中國經濟ト工業トノ發展ニ大ナル關係ヲ有スル大問題ニ有之候。現在最モ大ナル生產ヲ爲シ得ルモノハ土地ナルガ、同時ニ又中國ニ緊急必要ナルモノモ農業ニ有之、ソハ農業ガ一國ノ賴ツテ以テ供養ヲ得ル所以ナルガ爲メニ外ナラズ候。現在ニ就テ見ルモ中國人口ノ殆ンド八十「パーセント」ハ農業ニ從事シ居リ中國ノ大問題ハ人民ヲシテ衣食ヲ充足セシムルニ在ルガ故ニ農業ヲ改良シ新地ヲ開墾シ灌漑ヲ整頓スルト、勞働者ヲ保護シ牧蓄ヲ奬勵シ棉業ヲ發展セシメ蠶絲茶業ヲ

改良シ並ニ各種ノ種子ヲ改良スル等ノ事業トハ尙注意スベキモノ甚ダ多ク、コレヨリ開始スレバ亦中國ヲ繁盛ニ導キ得、或ハ國民ヲシテ各項事業ニ投資セシメ得ベキモ、コレヲ棄テテ顧ミザレバ實業ノ發達ヲ保護セント欲スルモ蓋シ亦難カルベシト被存候。

現在ニ就テ言フニ余ノ切望スル所ノモノハ運輸、幣制、稅制、石炭、鐵、農工等ノ事業ヲ改良スルニ注意スルコトニシテ先生ノ大計畫中ニ包括スル所ノモノモ亦上記ノ各種具體辨法ニ外ナラズト見受ケラレ候。

更ニ實業發展計畫ニ就テ一言スレバ余ハ吾人ノ注意スベキモノハ新國家ヲ研究スルニ在ラズシテ一ツノ社會秩序極メテ錯綜シ居リ又農工商業ヲ以テ國ヲ立ツルコトニ久シキ經驗アル國家ヲ研究スルニ在リト信ジ候。余ノ意ニ於テハ最モ重要ナルヲ工業トスルモ工業ニ新シキ方法ヲ改用スルハ餘リニ急ナルベカラズ、タダ舊藝術、舊習慣ヲ漸次ニ改進スベキモノニシテ製絲ト製磁トノ如キ藥術技能ハ法ヲ設ケテ保存スベク、生產ヲ簡單ニシ廉價ヲ以テ販路ヲ求ムルガ如キハ不可ニ有之、又食糧ノ輸出ノ如キハ生產過剩ヲ確認スルニ非ザレバ禁止スベク、然ラズシテ若シ中國ニ於ケル食糧ノ價格ヲ世界市場ノ食糧ノ價格ト同樣ナラシメバ中國ハ必ズ恐慌ヲ來スコト疑ヒナキ所ニ有之候。近代機關ノ組織ニ就キ中國人ノ知ラザルベカラザルモノハ例ヘバ一個ノ會社並ニソノ事務員ニ對シテ如何ナル權限ヲ與フベキヤ並ニ會社ト株主トノ關係ハ如何ナルモノナリヤノ點ニ有之若シ中國人ニシテ會社ノ適用ノ如何ナルモノナルカヲ知ラザレバ國債機關ノ設立亦何等ノ效果無之候。茲ニ更ニ進言スベキハ中國人ハ素ヨリ誠實ヲ以テ稱セラルルモノナルガ若シ法ヲ改用シテ事業ヲ經營スルガ爲メニ遂ニソノ固有ノ性質ヲ滅失スルガ如キコトアリテハ最モ遺憾トスル處ニ有之、余ノ上ニ述ベタル各點モ亦中國ヲシテ更ニ善良ナル組織ヲ有セシメ、從來ノ好習慣ハ固ヨリ保存シ、社會ノ秩序モ亦急速ニ改革スルコトニヨリ擾亂ヲ受クルニ至ラザラシメント欲スルニ過ギザル次第ニ有之候。先生ガ中國ヲ整頓センガ爲メニ最モ時宜ニ適シタル辨法トシテ國際共同ヲ以テ實業ヲ發展セシムル計畫ヲ樹テラルル高言偉論ハ誠ニ慶賀ニ値ヒスルモノニシテ、コレニヨツテ亦今日中國人臣領袖ノ心理ガ既ニ逐日國家建設ノ事業ヲ重ンズル趨勢ニアルヲ見ルニ足ルモノニテ、若シソノ能力ヲ奮ツテコノ事業ニ當ラバ將來內外人民ハ日ニ月ニ親密トナリ將來ニ於ケル發展ヲシテ世界ノ發展ト共同提携セシメ得ベク吾人ノ最モ喜ブベキモノニ有之候。

尙先生ノ實業ヲ發展セシムル計畫ニシテ更ニ詳細明瞭ナルモノアラバ一部ヲ賜リ度此段御回答旁々申進候　敬具

千九百十九年三月十七日

孫先生　「ジョンス」

附錄三

米國商務長官ノ返信一通

拜啓陳者三月十七日附貴信並ニ添附ノ國際共同中國發展計畫ヲ拜讀致シ限リナキ興味ヲ覺エ候。閣下ノ所謂中國ノ經濟發展ハ人類全體ノ最大利益ノ爲メニスルモノニシテ啻ニ中國人ニ惠福ヲ與フルノミニアラザルハ殊ニ贊成スル所ニ有之候。閣下ノ提倡セラルル計畫ハカクノ如ク複雜ニシテカクノ如ク廣大普遍ナレバソノ詳細ナル點ヲ規畫完了セシムルニモ亦數年ヲ要スルハ閣下モ亦明知セラルベキ處、右計畫中ノ一小部ニテモ尙數十億金弗ヲ要シソノ中多數ハ初期若干年間ニ在ツテハ其ノ投下セル資本ノ利息ト經費トヲ償ヒ得ザルガ故ニ、ソノ必要トスル起債ニ要スル利息ヲ如何ニ完濟スルヤハ實ニ第一ニ解決スベキ問題ナルモ中國ノ收入ヲ以テシテハ現在ノ國債ノ利息ノ負擔モ過重ナルヲ以テ新ニ增加スル利息ヲ必ズ能ク完濟シ得トハ保證シ難カルベク、サレバ今日ニ於テハコノ發展計畫ハ期限ヲ制限シ、明ニ利益アリ個人ノ資本ヲ誘導スルニ足ルモノノミヲ以テ限度トスル必要アルコトト思惟セラレ候。合衆國政府ニ於テハ一致努力シテ無私ノ友誼ヲ中國人民ニ表示シ、並ニ各種正當ナル方途ヲ以テ中國人ノ最上利益ヲ增進スル計畫ニ參與センコトヲ希望致居候。遙ニ御指敎ヲ辱フシ感謝ニ堪エズ此段回答旁々申進候　敬具

千九百十九年五月十二日

商務長官　「リュヘル」

孫逸仙閣下

附錄四

「イタリー」陸軍大臣「カヴィリア」將軍ノ返信

拜啓陳者如何ニシテ國際共同組織ノ下ニ戰時ニ出來セル過剩ノ製造能力ヲ使用シテ中國ノ最大寶庫ヲ開發スベキヤニ關スル興味アル計畫ヲ惠與セラレ深ク感謝致候。本計畫ニ於テモ亦コレニ附隨スル實際上ノ困難ノ稍々顧慮ヲ要スルモノアリト雖モソノ造詣深キトソノ帶ブル所ノ現代精神ノ活躍トハ余ヲシテ最高ノ歎詞ヲ禁ゼザラシメ候。

人道ノ利益ノ爲メニ貴國ノ進歩ノ爲メニ余ハ閣下ノコノ計畫ノ完全ナル成功ヲ祈リ申候此段回答旁々申進候　敬具

「カヴィリア」

附錄五

北京交通部顧問鐵道專問家「ビゴール」君ノ來信

拜啓陳者遠東時報六月號所載ノ貴著論文ヲ拜讀シ敢テ一鐵道專門家ノ資格ヲ以テ肅ンデ欣喜ノ意ヲ表シ申候。閣下ノ選定セラレタル線路ニ就キ余ハ今遽ニ贊成又ハ反對ヲ述ベ難キモ一鐵道ヲ以テ廣大ナル農業背後地ト人口稠密ナル海岸トヲ連結スル理想ハ深ク感動致候。惟フニ閣下ハココニ於テ既ニ鐵道經濟理論上ニ一ノ具體的貢獻ヲナセルモノニ有之卽チコノ線路自身ハ既ニ沈滯セル雰圍氣ヲ打破シ一生產區ヲ創開シ食料品價格ヲシテヨリ廉價ナラシメ、職業ヲ巨多ノ退伍兵卒ニ授ケ又能ク大量ノ硬貨ヲシテ流轉スルヲ得セシメ通貨ノ位置ヲコレニヨリテ正シカラシムルモノニ有之、余ノ殊ニ慶祝スル所以ノモノハ此ノ貴著ノ發表ニ依リ余ガ汎太平洋雜誌社主ノ求ニ應ジテ已ニ一論文ヲ草シ恰モ亦コノ種思想徑路ニ觸及致居候處コノ論文ハ七月ニ至ラザレバ發表セラレザルモノナルモ、閣下ノ意見ハ今コノ點ニ著想セラレ余ノ所說ヲ懷疑スルモノヲシテ大イニ了解セシムルニ足ルコトニ有之候。愚昧ノ言冀ハクバ諒恕セラレンコトヲ。尙閣下ノコノ種思想ヲ啓沃スル敏妙ノ著作ハ必ズヤ引續キ世ニ發表セラルルコトト信ジ申候。此段得貴意度如斯ニ御座候　敬具

六月十七日

「ビゴール」

孫逸仙先生

附錄六

米國名士ニシテ「ローマ」ニ寓居シ世界ニ於ケル都市計畫者トシテ著名ナル「エヂソン」君ノ返信

拜啓陳者六月十九日貴信「ローマ」敝事務所ヨリ當方ニ轉達セラレ、偉大ナル戰後ノ實業整頓ヲ助クル案ト國際共同ヲ以テ中國ヲ發展セシムル計畫トヲ御送付ニ與リ深ク感謝スル次第ニ有之候。

貴著計畫及添附圖及ビ先生ノ理論的ニシテ有力ナル論據ヲ拜讀致シ興味深キヲ覺エ謹ンデ茲ニ欣喜ノ意ヲ表シ候。

余ハ先生ノ高尚ナル理想ガ必ズ實現サルベクコハ中國國家人民ノ福利ノ爲メノミナラズ世界各人種ノ利益ト繁榮トヲ齎スベキヲ確信致候。

富饒ナル貴國ハ糧食、鑛產、石炭、鐵等々ノ天然富源ニ於テ素ヨリ豐富ト稱セラレ從前ハ各國ノ忽諸ニ附セル所ナルモ今ハ然ラザル所、先生ノ活動發展計畫トソノ展開培養トハコノ全然從來觸レラレザリシ廣大ナル處女地ヲシテ最モ經濟的最モ實用的ノ方法ヲ以テソノ產物ヲ世界市場ノ前ニ運出セシムルモノニシテ、先生ハ絕對ニ私心ナク專ラ人道ノ爲メニソノ利益ヲ求メラルルモノニ有之、全ク稀有ノ人格ト稱スベキモノニシテ且ツ明ニ先生ノ深甚ナル國際同情ヲ發露セルモノニ有之候。

カノ中國ノ富源ヲ發展セシムルハ啻ニ貴國實業商務ニ新刺激新能力ヲ與ヘ且ツ貴國人民ノ爲メニ謀リテソノ利益無量ナルノミナラズ、又無限ノ利益ヲアラユル國家ノ一切ノ人民ニ附與スルモノナルヲ否認シ得ザルモノニ有之候。サレバ政府及外國財政家ハ先生ノ計畫ニ對シ最モ深ク最モ仔細ナル考査及援助ヲ與ヘ先生ヲシテコノ最大ナル人道的計畫ヲ實現セシムベク何等躊躇スベカラザルモノニ有之候。凡ソコノ北直隸ニ北方大港ヲ建設シコノ港ヨリ中國西北邊陲ニ直達スル一鐵道系統ヲ造リ、又一運河ヲ開鑿シテ中國北部中部トコノ港トヲ連絡スル內地水路系統ヲ構成シ且ツ山西ノ石炭鐵鑛區ヲ開發スルハ、啻ニソノ所要製鐵製鋼工程ノ爲メニ貴國ノ數百萬人ガ職ヲ得ラルルノミナラズ、且ツ門戶ヲ開放スルヲ以テ利益之ニ隨ヒ多數國家ノ組織完美ナル無數ノ實業ヲモ容レ得ルモノニ有之候。

先生ガ我ガ世界交通中心都市ノ計畫ニ贊助ヲ與ヘラレ且ツ先生御經營ノ建設雜誌ヲ以テコノ思想ヲ貴國人民ニ紹介サルルハ、余ヲシテ益々奮勵セシムルモノニ有之候。

此ノ都市ハ若シ中立地帶ニ設立セラルレバ直チニ國際聯盟ノ必然的需要ニ應ジ得テソノ實際ノ骨幹ヲナシ、國際司法法庭ノ下ニ統治サルル最モ莊嚴ナル行政ノ中心ヲ成スコトヲ得ル次第ニ有之候。

余ハ既ニコノ世界中都ノ圖面及草案ヲ各國ノ政府及主權者ニ送與シ並ニ十月一日ヨリ「ワシントン」ニ赴キテ各圖ノ原本ヲ展覽シ、親シク純然タル實際經濟的觀察點ヨリコノ種計畫ヲ各國代表ノ前ニ於テ說明セントシツツアリ、之等代表ハ茲ニ集合シテ國際聯盟ノ組織ヲ助ケントスルモノニ有之候。

余ハ又嘗テ「ウイルソン」大統領ニ書面ヲ以テ申送リタル處彼ハ余ノ企圖草案ヲ受ケタル後余ニ答ヘテ『コノ計畫ハ甚ダ高キ價値ヲ有ス、余ハコノ世界交通中心ノ計畫ガ久シカラズシテ實現シテ中都トナリ、各國ノ最高ノ自然產物ト最モ重要ナル實業ノ成功トガコレヲ集中點トナシ且ツ之ガ意義ヲ確定センコトヲ希望ス。コノ種貢獻ヲ發露スルハ尙友誼的社會的經濟關係ニ向ヒ最初ノ決定ノ一歩ヲナスモノニシテ、コノ聯合ノ實行ヲ建立スルハ實ニ批難スベキモノナカルベシ』ト稱シ居リ候。

此ノ海上、空中、陸地ノ戰場ニ於テ公道ヲ求ムル爲メニセル戰勝、人道ノ爲メニ障害ヲ排除シテ和平ヲ進メ、將來暴君ノ壓迫ヲ受ケザル自由ノ爲メニソノ生命ヲ拋棄セル數百萬人ノ英雄ノ奮鬪ト高尙ナル犧牲トヲ紀念スル爲メニ、諸國ハ各々貢献シ共ニコノ和平ノ都市ヲ建造維持シ以テ國際的ノ立派ナル記念碑トスベキモノニ有之候。

先生ノ高尙ナル計畫ニ對シ余ハ最モ深厚ナル同情ヲ抱キ居リ、先生ガ余ノ計畫ニ對シコノ深ク切ナル興味ヲ有セラルルハ殊ニ余ノ慶賀スル所ニ有之候。此段回答旁々申上候敬具

八月三十日

逸仙先生

「アンドレー、エヂソン」

第三章　社會建設（民權初步）

孫文自序

中國ノ民族ハ世界最大ニシテ又世界最優ノ民族デアリ、中華ノ地域ハ世界ニ於ケル最高最富ノ土地デアル。此ノ最大最優ノ民族ヲ以テシ、而カモ此ノ最廣最富ノ土地ニ據リ、此ノ時運進化ノ時、人文發達ノ際ニ會シテ猶ホ且ツ未ダ我ガ東隣ニ先ンジテ富强ノ國家ニ改造スル能ハザル所以ノモノハ抑モ何カ。

人心離散シ民心凝結セザルニ基クノデアル。中國四億ノ大衆ハ宛カモ一群ノ散沙ノソレニモ似タル現狀デアルガ、之レ天性ノ然ラシムル處トノミハ云フヲ得ナイ。實ニ異族清朝ノ專制政治ノ結果ガ斯カル現狀ヲ誘致シタノデアル。彼ノ滿朝ノ治世ニ於テハ、集會ハ嚴禁セラレ、文字忌諱ニ觸ルレバ獄ニ投ゼラレ、相對シテ語レバ其ノ罪正ニ棄市ニ當ツタノデアツタ。

之レニ依リ人民ヨリ集會ノ自由、出版ノ自由、思想ノ自由ハ完膚ナキ迄ニ剝奪セラルル事、實ニ二百六十有余年ノ久シキニ及ンダ。而シテ此ノ間我種族ノ絕滅スルニ至ラザリシハ寧ロ僥倖ト

謂フベキデアリ、人身ノ結束ト大衆ノ群力ノ發揚トヲ期スル如キコトハ到底望ミ得ナカツタノデアル。

然ルニ幸ニシテ天此ノ優秀庶盛ノ民族ヲ棄テズ、其ノ當初歐米思想文化ノ刺戟ヲ受ケ、次デ東隣ノ維新ニ依ツテ喚起セラレ、其ノ終期ニ於テハ中國ニ於ケル革命風潮靡曼振蕩スルコトヲ得テ、遂ニ一擧ニシテ異民族ノ專制王朝ヲ覆墜セシメ、祖宗ノ遺業ヲ回復シ、又克ク近世進化ノ潮流ニ順應シ得テ、茲ニ中華民國ノ創業ヲ確立スルヲ得タノデアル。

然ルニ如何ニセン國體建設ノ當初ニ於テハ民權未ダ伸張セズ。之ニ依テ遂ニ民政ヲ覆シテ再ビ帝政ニ復セントスル野心家現ハレ、民國五年早クモ洪憲元年ト變ジタノデアルガ、幸ニシテ革命期ノ氣力未ダ亡ビズ新舊兩派共ニ爭ツテ帝制ニ反對シ、始メテ民國ノ中興ヲ確立シ得タノデアツテ、將來我民國ノ前途ノ安危如何ハ繫ツテ民權ノ發達如何ニ據ルノデアル。

然ラバ何ヲカ民國ト云フ。故米國大統領「リンカーン」ノ言ニ依レバ「人民之ヲ所有シ、人民ニ依テ統治セラレ、人民之ヲ享有スル之レヲ民國ト云フ」ト謂ツテ居ル。

何ヲカ民權ト呼ブヤ、卽チ近來瑞西國ニ於テ實施セラルル制度ニテハ官吏ヲ選擧スル權、官吏ヲ廢免スル權、法律案ヲ創制スル權、及ビ法律案ヲ複決スル權限ヲ人民ニ附與シテ居ル。之レヲ四大民權ト稱スルノデアル。而シテ此ノ四大民權ヲ具有シテコソ始メテ純粹ノ民國トナリ得ルノデアル。

革命黨ノ誓約ニ「中華ヲ恢復シ、民國ヲ創立ス」トアル。之レ蓋シ此ノ世界最大最優ノ民族ヲ以テ世界ニ最モ進化セル、最モ壯嚴ナル、最モ富强ナル、而カモ極メテ安樂ナル國家ヲ造成セントスル、中國ヲ人民ノ有ト爲シ人民ノ統治スル所ニシテ而カモ人民ノ享有スル處ト爲サントスルノデアル。

今ヤ民國ナル名稱ハ既ニ決定シタ。「名正ナレバ言順ヒ、言順ヘバ事成ル」デアツテ、革命ノ成功モ亦之ヲ以テ終リヲ告ゲタノデアル。今後ハ民國ノ名稱ヲ省ミ、節義ヲ盡シ、名ニ耻ヂザルガ如キ實果ヲ結バシメ、以テ革命志士ノ志ヲ完成シ、純粹ノ民國ヲ造成スルノガ國民ノ責任デアル。蓋シ國民ハ一國ノ主デアリ統治權ノ發現スル所以デアル。而シテ其ノ權利ヲ行使スルガ爲ニハ其ノ端ヲ代議士ノ選擧ニ發セネバナラヌ。若シ能ク其ノ法ニ則リ事ニ從ヒ得テ幼稚ヨリ漸時ニ强壯ニ進ミ、民權ヲ發達セシムルヲ得タナラバ純粹ノ民國ハ日ヲ期シテ俟チ得ルデアラウ。

民權ハ如何ニシテ發達スルヲ得ルヤ。則チ人心ヲ結束强固ナラシメ、群力ヲ糾合スルコトヨリ

初メネバナラヌ。人心ヲ結束强固ナラシメ、群力ヲ糾合スルノ初ニ當ツテハ又之ヲ集會ヨリ初メナケレバ克ク其ノ成功ヲ期スルコトヲ得ナイノデアル。之レ集會ナルモノハ實ニ民權發達ノ第一歩デアルカラデアル。然ルニ我中國人ハ集會ニ對スル嚴禁ヲ蒙リ、今日ニ至ル迄已ニ數百年ニ及ンデ居ル爲、團體生活ノ天性ハ殆ンド失ハレテシマツテキルノデアル。ソレ故ニ集會ノ原則、理論ノ知識及ビ其ノ習慣經驗等ハ殆ド皆無ト云ツテモ過言デハナイ。恁クノ如キ一群ノ散沙ニ似タル民衆ヲ突如民國ノ主人タル地位ニ就カセ其ノ結果手足ノ措ク處ヲ知ラズ、其ノ適從スル處ヲ辨ヘナイノハ蓋シ尤モナ次第ト謂ハネバナラヌ。而カモ斯カル意味ニ於ケル所謂集會ナルモノハ烏合ノソレニ過ギナイノデアル。中國國民ガ今日事實上未ダ民權ノ第一歩スラ實行シ得ナイノハ之ガ爲デアル。

然ラバ如何ニスレバ可ナリヤ、余ノ見ヲ以テセバ野心家ハ必ズ帝政ニ非ズンバ不可トナシ、又曲學者ハ專政政治ニ非ザレバ駄目ダト云フニ違ヒナイ。而モ之等ハ皆國家モ亦人間發育ノソレニ似タルモノナルコトヲ知ラナイノデアル。凡ソ人ハ此ノ世ニ生ヲ享クルヤ能ク一日ニシテ歩ミ得ルモノデハナイ。同樣ニ國家モ其ノ建設ノ日猶ホ淺キ場合ハ決シテ一時ニ發達ヲ望ミ得ルモノデハナイ。孩兒ノ歩ミニハ必ズ保母ノ教ヲ待タネバナラヌ。今國民ガ歩行ヲ學ブノモ亦恁クノ如クアルベキデアツテ、之レ卽チ民權初歩ナル一書ヲ作述セル所以デアリ、之ニ依ツテ國民ニ民權第一歩ノ實行ヲ教ヘントスルモノデアル。

泰西ノ學術東洋ニ進入シテヨリ宗教哲學ノ玄妙ナル、天文算數理化學ノ奥衍ナル、政治經濟ノ資格、農工商兵ノ實際學、及ビ歷史文藝ノ如キ博雅ナル科學等ハ皆各々其ノ專門書ヲ具備セザルハナイ。然ルニ獨リ卑近且必須ノ會議學ニ至ツテハ今日尙ホ闕如タルモノガアルノデアツテ、誠ニ我國集團社會ニ取ツテ一大遺憾トモ謂フベキデアル。惟フニ議事ニ關スル科學ナルモノハ西洋諸國ニ於テハ童兒モ之ヲ能クシ、中學程度ニ至レバ殆ド第二ノ天性ト迄成ツテ居ルノデアツテ、之レ泰西人ノ社會集團力ガ遙カニ吾人ノ上位ニ在ル所以デアル。

歐米ニ於ケル會議學ノ著書ハ其ノ數幾千ナルヲ知ラズ、其ノ通常傳讀セラルルモノノミニテモ百數十種ヲ下ラナイノデアル。然シ之レ等ハ皆大同小異、何等ノ新義ヲ見出スコトハ出來ナイ。本書ニ於テ其ノ講材ヲ取ツタモノハ數種ノ著害ニ過ギナイガ就中沙德(シヤト)氏ノ書ニ依ル所ガ最モ多イ。ソレハ該書ガ平易ニシテ且ツ容易ニ了解セラレ、初學者ニモ便利ニシテ我國人ニ最モ適當ト思ハレタカラデアル。本書ニ於テハ詳細ニ章節ヲ分類シテ當然包含スベキモノハ全部載セテアリ、且

又會議學ノ妙用ヲ盡ク網羅シテ居ル。英國ニ會議制度ガ初マッテ以來歐米各國ニ流布シ以テ今日ニ至ッタ數百年ノ經驗習慣ガ、皆本書ニ就イテ一度ニシテ之ヲ悉知シ得ラレルノデアル。

本書ハ又之ヲ兵家ノ操典、化學ノ公式ニモ譬フベキデアッテ、一通リ通讀スレバ足ル如キモノデハナク、得タ所ヲ練習試驗スベキ種類ノ書デアル。若シ本書ヲ一讀通覽スルニ止マルナラバ宛カモ其ノ味感ハ蠟ヲ嚼ムニ似テ、結局何等ノ得ル處ガナイデアラウ。又若シ練習試驗スルコトニ依ッテ本書ニ從フナラバ宛カモ甘庶ヲ味フト等シク、漸時其ノ妙味ヲ體得スルコトガ出來ルデアラウ。一旦通曉ノ域ニ達センカ、會議獨特ノ妙用ヲ完全ニ會得シ得ルヨウニナルノデアル。

凡ソ國民トシテノ責任ヲ負擔セント欲スルモノハ本書ヲ讀マザルベカラズ、我國人心ヲ結束シ我民力ヲ糾合セント欲スルモノハ本書ニ學ビ、偏ク同胞ニ之ヲ傳授シテ極メテ普通ナル常識タラシメネバナラヌ。家族、社會、學校タルト農業、商業、工業ノ各團體タルト、會社タルト、國會、縣會、國務會議タルト、將又軍事會議タルトヲ同ハズ、皆此ノ書ニ從ハネバナラヌ。

本書ハ我國人ガ如何ニシテ民權ノ第一步的方法ヲ行使スベキヤヲ敎ヘントスルモノデアル。若シ此ノ基本的初步ニシテ能ク實行セラレ、又其ノ實行ニシテ當ヲ得タナラバ、步ヲ逐フテ前進スベク民權ノ發達ハ必ズヤ其ノ極點ニ達スル日ヲ期待スルコトガ出來ルデアラウ。

古語ニ「遠キニ行クハ近キヨリシ、高キニ登ルハ低キヨリス」トアル。我國人ガ民權ヲ以テ人類進化ノ極則タルヲ知リ、且ツ民國ガ世界ニ於ケル最モ高尙ナル團體タルコトヲ知リ、之ヲ定メテ制度ト爲サバ其ノ第一步的事業ヲ實行スルコトハ萬ガ一ニモ忽略ニスベカラザル所デアル。

苟クモ本書ヲ熟習シタナラバ、人心自カラ結束シ、民力自カラ强固ナルベク、斯クノ如キ四億ニ餘ル優秀文明ノ民族ヲ以テシテ、而モ世界最良美ノ土地ト最モ博大ナル富源トヲ把握シ、若シ克ク一心一德以テ富强ヲ圖ルナラバ、十年ノ後ニハ必ズヤ能ク歐米ノ上ニ出ヅルヲ得ルデアラウ。

四億ノ同胞ヨ！　冀クバ之ヲ勉メヨ。

民國六年二月二十一日於上海

孫文序

第一　會議ノ成立

第一節　臨時集會ノ組織方法

第一項　會議ノ定義

凡ソ事理ヲ研究シテ之ガ解決ヲ爲スニ、自己一箇人ナル場合ニハ之ヲ獨思ト云ヒ、二人ナラバ之ヲ對話ト云ヒ、三人以上ガ一定ノ規則ニ從ツテ行フ場合之ヲ會議ト云フ。彼ノ國會ガ立法行爲ヲ爲スト、鄉黨相會シテ親睦ヲ圖ルト、學會ガ相合シテ研究ヲ爲スト、商工業者ガ集會シテ斯業ニ對スル籌策ヲ爲スト、一切ノ臨時的集合タルトヲ問ハズ、廣ク大衆ノ方策ヲ徵シ、羣集ノ力ヲ糾合シテ非常ナル事ノ處理ニ當ルモノハ皆此ノ類デアル。

第二項　會議ノ規則

從來中國人ノ所謂會議ナルモノヲ見ルニ、大衆ヲ一堂ニ聚合スルニ過ギズ、常ニ其組織モ完備セズ、其ノ職責ニモ缺クル所ガアツタ。或ル事件ニ逢着スレバ隨意ニ發言シ、相互ニ談論ヲ交ヘ、全ク秩序ガ無ク、斯クノ如キ會議ガ我國デハ殆ンド習慣ト迄成ツテ居タ。其ノ實際ニ於テ或ハ目的ヲ達シ得ル時モアルデアラウガ、多クハ誤解ノ原因トナリ、衝突ヲ招クノガ當然ノ事デアツタ。斯ノ如キ會議ハ實ニ不正式、不完備、且不規則ナル會議ト云フモ可ナリデアル。規則アル會議ハ之等トハ異リ、其ノ組織ニ於テモ必ズ選定セル職員ガアツテ專ラ其ノ責ニ當リ、其ノ會議ヲ行フニ當ツテモ必ズ一定ノ手續ニ依リ、條理整然トシテ紊ルル事ナク、一議案ヲ提議スルニモ必ズ先ヅ議長ニ發言ノ地位ヲ得ンコトヲ求メ、其ノ地位ヲ得タル後始メテ發言スル。既ニ提出セラレタル議案ハ必ズ順序ヲ逐フテ討論シ、然ル後法ノ定ムル所ニ從ツテ議決スル。其ノ間ノ一言一動ト雖モ秩序整然、而カモ相互ノ和靄其ノ度ヲ得ベキデアル。斯ノ如クシテ始メテ能ク各人ノ思想ヲ集メ、益ヲ大ナラシムルノ效果ヲ收メ得ルモノデアル。亦會議ニ與カルモノヲシテ經驗練習ヲ積マシムレバ、其ノ智能モ增進シ得ラレルデアラウ。

第三項　會議ノ種類

會議ニ三種アリ、其ノ一ハ臨時集會ニシテ特別事項ヲ處理スル爲ニ生ゼルモノ、其ノ二ハ委員會ニシテ、之レ卽チ高級團體ノ命令ヲ受ケテ成立シ、指定セラレタル事項ヲ審査シ以テ之ガ解決ヲ爲シ、或ハ之ガ爲ニ劃策ヲ爲スモノデアル。其ノ三ハ恒久的機關ニシテ、一定ノ目的ヲ以テ設立セラルルモノデアル。此ノ三種ノ分類ハ若シ一、二ノ兩種ヲ一時的會合トスレバ、其ノ三ハ永久的會合デアリ、又其ノ一、其ノ三ヲ獨立的團體トスルナラバ、委員會ハ則チ附屬團體デアル。此等ノ組織ノ同ジカラザル點ニ就テハ、臨時集合ニハ必ズ議長、書記ガ有ツテ專ラ其ノ責ニ任ジ、委員會ニ在ツテハ書記ヲ用フルモノモアルガ、必ズシモ書記ヲ必要トセズ、委員長ハ常ニ之ヲ兼ヌルコトヲ得ル。但シ恒久的機關ノ組織ハ略々前二者ト同樣デアルガ、別ニ必ズ正式ニ選定セラレタ職員及ビ一切ノ定款、規則アルヲ要シ、又定期ノ會議ト其ノ標榜スル主旨ト規定ノ人數トヲ

有スルモノデアル。

第四項　召集ノ普通樣式

凡ソ同聲相應ジ同氣相求ムルモノガアレバ、總テ會議ヲ召集シテ可ナリデアル。其ノ方法トシテハ口頭ヲ以テスルモノ、書狀ヲ以テ請ズル場合、新聞紙上ニ廣告スルモノ、或ハ又市街ノ要所ニ貼リ出スモノ等ノ種々ガアリ、其ノ樣式ハ左ノ如クデアル。

謹啓、茲ニ民國中興ニ際シ、宜シク慶典ヲ張ラントス。謹ンデ十月二十五日ヲ擇ビ、新都成功大道民樂園ニ於テ準備會ヲ開催スベキニ付、我同志諸君ハ定刻御光臨ノ上一切ノ指示ヲ賜ランコトヲ乞フ　敬白

民國五年十月十日

發起人　甲　乙　丙　丁　拜

第五項　開會ノ秩序

定刻至レバ老青年諸氏盡ク至リ會ス。丁君ハ先ヅ議場ヲ適當ニ準備シ、場ノ上手ニ議長席ヲ設ケ、議長席ノ前方ニ卓子ヲ配置シ、該卓子ノ前方ニ當ツテ多數ノ椅子ヲ横ニ配列ス。

入場セル者ハ隨意ニ席ヲ選ンデ着席シ、互ニ日常ノ挨拶等ヲ交換ス。暫時ニシテ發起人ノ甲君ハ卓子ヲ叩イテ會衆ノ注意ヲ求メタル上、「諸君……、開會ノ時刻ガ參リマシタ。何卒、序席ニ御着キヲ願ヒタイ（外國ノ習慣トシテ、會ヲ開クニ當リ議長ハ大聲ニテ「秩序、（Order）秩序」ト云ヘバ、一同ハ靜肅ニ其レニ從フノデアル）ト云ヒ、一同ガ秩序ニ就クヲ俟チ再ビ「諸君、ドウゾ議長候補者ヲ指名セラレタイ」ト云ヒ、一同ガソレヲ指名スルノヲ待ツノデアル。

第六項　議長ノ選擧

此ノ時、己君起立シテ甲ニ向ツテ「乙君ヲ議長トスルコトニ指名シマス」（巳君ガ甲君ニ對シテ發言スルノニ「議長」ト呼バナイノハ、彼ガマダ正式ニ議長トナツテハ居ラズ、單ニ假リニ其ノ事務ヲ攝行シテ居ルガ故デアル）ト云ツテ巳君ハ復席スル。ト、庚君ガ起ツテ「私ハ贊成シマス」ト云ツテ着席スル。甲君ハ尙起立シタママデ待チ、ヤガテ「乙君ガ議長候補ニ指名サレ、且贊成ヲモ得マシタ。マダ外ニ指名ナサル方ハアリマセンカ」ト云ツテ少時待ツタ上「發言ナサル方ハアリマセヌカ」ト云ツテ、尙モ立ツタママデ待チ「若シ別ニ御意見ガ無ケレバ、乙君ヲ喜ンデ吾人ノ議長ニ選バルル方ハ「可」ト云ツテ下サイ。」ト云ヘバ、會衆中ノ贊成者ハ「可」ト答ヘ「反

對者ハ「否」ト云ツテ下サイ」ト云ヘバ、一同中ノ反對者ハ「否」ト答ヘルノデアル。此ノ時、「可」ト答ヘタ者ガ、「否」ト答ヘタモノヨリ多ケレバ、甲君ハ「議長選擧ノ議案ハ通過シマシタ、乙君ガ本會ノ議長ニ當選シマシタ」ト宣告シテ着席スル。然シ若シ、「否」トセルモノガ「可」ト答ヘタモノヨリモ多イ時ハ、其ノ議案ハ否決サレタノデアツテ、甲君ハ改メテ一同ニ候補者ノ指名ヲ爲サンコトヲ求メ、一同ハ前述ノ方法ニ從ツテ外ノ人ヲ指名セネバナラヌ。

第七項　被指名者多數アル場合

若シ乙君ノ外ニ別ノ人ヲ議長ニ指名セル者アル時ハ、起立シテ「私ハ戊君ヲ指名シマス」ト云フ。又丙君ヲ指名スルモノ、甲君ヲ指名スルモノモアラウ。斯ノ如キ者數人アル時ハ甲君ハ立ツタママ、指名者ガ各々自己ノ好ム點ヲ述ベ盡スヲ俟ツテ、順次先ヅ乙君ヨリ一々表決ニ問ヒ、當選者ヲ得テ之ヲ中止スル。甲君ハ甲君自身ノ指名ニ就イテモ矢張リ自己ノ名ヲ會衆ニ上呈シテ宛モ他人ノ如クニ取扱フノデアル。何トナレバ甲君ノ職務ハ、之ヲ會衆代理ト名付ケ、議長選擧ノ事ヲ辨ジ、自分自身ヲモ亦他會員ト同樣ニ見做シテ取扱フガ故デアル。若シ投票ニ依リ選擧ヲ爲ストキハ、指名ガ全部終リタル後始メテ投票ヲ爲シ得ルノデアル。此ノ投票ノ方法ニ就テハ後ニ詳述スル。

第八項　指名ノ附加贊成

指名ニハソレニ贊成スルモノノ有ルコトヲ心要トスルコトハ當然ト言フベキデアツテ、指名サレタモノガ只一個人ノミノ意ヲ滿足サセルモノデアツテハナラナイコトモ當然了解シ得ラレルデアラウ。只同時ニ多數人ノ指名アル時ハ贊成ノ法則ハ必ズシモ必要トシナイ。其ノ事ガ如何ニセバ妥當ナリヤハ議長ノ代理ヲ爲スモノニ於テ宜シク其ノ間ヲ酌量シ、臨機應變ニ處理スベキデアル。

第九項　書記等ノ選擧

乙君ハ既ニ選バレテ議長トナツタナラバ、直チニ議長席ニ着キ卓子ノ後ニ立チ會衆ニ向ヒ（或ハ卓子ヲ敲イテ大衆ノ注意ヲ促ガシ）「只今ヨリ先ヅ第一ニ書記ヲ選擧セネバナリマセン。諸君ドウカ御指名ヲ願ヒマス」ト云ヒ、起ツタママデ待ツノデアル。ソコデ戊君ガ起ツテ、「議長」（此ノ場合、議長ト云フノハ發言ノ地位ヲ得ンコトヲ求メルノデアル）ト云フ。議長ソレニ答ヘテ「戊君」ト云フ。（之レハ其ノ發言ノ地位ヲ承認セリトノ謂デアル）。ソコデ戊君ハ已ニ其ノ地位ヲ得タノデ、進ミ出デテ「私ハ已君ヲ書記ニ指名シマス」ト云ツテ着席スル。辛君ハソコデ起立シテ「議長、私ハ之レニ贊成シマス」ト云ツテ着席スル。議長ハ少時待ツカ、或ハ一同ニ向ツテ

「マダ指名ナサル方ガアリマスカ」ト云フ。暫クシテ前述セル議長選擧ノ場合ト同ジ方法ニ依ツテ之ヲ表決スルノデアル。已君ハ書記ニ當選スレバ直チニ議長ノ傍ノ卓子ニ着席シテ（之レヨリ先ニ卓子ノ上ニハ文房具類ヲ準備シテ置カネバナラヌ）經過セル事項、今後ノ事項ヲ一一事實通リニ記入スル用意ヲスル。書記ハ會衆ノ云ヘル事項ハ記入スルニ及バナイガ、已ニ行ハレタル事、或ハ表決サレタル議案ハ全部記錄セネバナラヌ。而シテ批評ヲ書キ入レルコトハ絶對ニ出來ナイ。

此時議長ハ開會ノ目的ヲ宣言スベク、長短ヲ適宜按配セル一ツノ演說ヲ爲シ、大體左記ノ如クニ云フ。

『本日ノ會ハ祝賀式擧行準備ノ爲メニ開カレタルモノデアリマス。諸君モ當然御承知ノ如ク民國始マツテ以來茲ニ四星霜ヲ經過致シマシタ。其ノ間國賊ノ爲メニハ檀ニ蹂躙セラレ、殆ンド滅亡セントスル迄ニ至リマシタガ、幸ニシテ人心未ダ死セズ、義兵西南ニ起リ、志士東北ニ應ジ、擧國一致國賊ヲ誅シ得マシテ、茲ニ天日以テ光ヲ重ヌルヲ得、主權依然トシテ我等ガ掌中ニ歸シマシタ。中華民國之ヨリ中興シ、四億ノ同胞ハ永久ニ幸福ニ安ンズルコトガ出來ルノデアリマス。只今此ノ幸運ニ際シマシテ、我等ハ當然之ヲ祝賀セネバナラヌノデアリマス。故ニ祝賀式ヲ擧行シ、以テ歡ビヲ表ハサントスルモノデアリマス。諸般ノ準備計畫ニ關シテハ、諸君ハ必ズヤ御指示下サル所モ御座イマセウ。故ニ本議長ハ、諸君ガ言ハント欲スル所ヲ充分ニ申シ述ベラレンコトヲ希望致シマス。而シテ多クノ意見ノ中ヨリ選擇採用シマシテ、速カニ其ノ方法ヲ定ムルコトガ出來マスレバ、幸甚ニ存ズルノデアリマス』云々。

恁ク云ヒ畢ツテ着席スル。但シ一旦議長ヲ呼ブモノアレバ、議長ハ必ズ再ビ起立シテ之ヲ承認セネバナラヌ。人ノ發言ノ時ニ當ツテハ、着席ノママニテ無論差支ナイ。但シ動議ヲ接述シ、表決ヲ提議シ、或ハ或ル事項ヲ詳述スル如キ場合ニハ必ズ起立セネバナラヌ。

又凡ソ會議中ノ秩序及ビ禮式ニ關シテ必要ヲ認ムル場合ニ於テハ、常ニ起立スルコトヲ要スル。

以上ノ各節ハ臨時會議ノ完備セル組織、其ノ着手、及ビ進行方法ノ模範ヲ示シタモノデアル。

第十項　委員會

委員會ノ組織ハ上述ノ場合ト同ジデアル。唯、書記ノ職務ハ之ヲ省略スルモ差支ヘナイ。若シ上級團體ガ委員ニ委任シタ際、已ニ其ノ委員長ガ選定セラレテ居レバ、開會ノ時ニアタツテ再選スルヲ要シナイガ、然ラザル場合ハ第一次會開會ニ際シ、當然委員ノ中ヨリ相互ニ之ヲ選擧セネバナラヌ。事實上ヨリ云ヘバ、先ヅ最初ニ委任ヲ受諾シタ人ガ必ズシモ委員長トハ限ラナイ。唯

第一次會ニ於テハ當然最初ニ委任ヲ受諾シタ委員ガ其ノ他ノ委員ヲ召集セネバナラナイノデアル。委員會進行ノ規則ニ就イテハ後節ニ於テ詳述スル。

第二節　恒久的機關ノ成立方法

第一項　會ノ成立

永久的團體ノ第一回集會ヲ發起スルニ當ツテノ組織方法ハ臨時集會ニ等シイ。但シ必ズ章程、規則及常任職員ノ選擧ヲ必要トスル。

（成立形式）例ヘバ、祝賀會終了後參會者ノ感興未ダ去ラズ、其ノ感情モ愈々結ビツケラレ、一同孰レモ、一個ノ團體ヲ作リ以テ政治ノ改良ヲ助成シ、而シテ社會ノ進歩ヲ促進セント欲シタトスル。茲ニ於テ再ビ志ヲ同フスルモノヲ召集シ更メテ發起スルノデアルガ、其ノ進行ノ次第、順序ニ就テハ總テ臨時的會合ト異ナル所ハナイ。

乙君ハ選擧ノ上假議長トナリ、巳君ハ臨時書記トナル。議長ガ巳ニ開會ノ主旨ヲ宣言シタル後、參會者ハ各個隨意ニ批判ヲ加ヘ、或ハ本計畫ニ贊成スル者アリ、或ハ反對スルモノモアルデアラウ。甲君先ヅ立ツテ議長ヲ呼ビ、承認ヲ得ルニ及ンデ曰ク『私ハ地方自治勵行會ヲ發起スルコトヲ動議シマス。而シテ本集會中ニ於テ、直チニ事ヲ進行セシムベキデアルト思ヒマス』。議長ガ其ノ動議ヲ接述スル。ソコデ、直チニ正式ニ討論スルコトニナリ、各自ハ自己ノ言ントスル所ヲ述ベル。ソレヨリ採決ニ入リ、若シモ多數ノ贊成者ヲ得レバ則チ通過セルコトトナル。然ル時ハ議長ハ一同ニ「地方自治勵行會ヲ發起スルノ動議ハ已ニ可決シマシタ」ト宣告スル。之レヲ法理上ヨリ言ヘバ、本會ハ臨時集會トハ言ヘ、實際上ニ於テハ、此ノ時ヨリ直チニ變ジテ永久的團體トナレルモノデアル。ヨツテ總テノ參會者ハ既ニ共同シテ約束セル義務ヲ盡シタカラ、當然會員トナル譯デアル。

議長ハ既ニ採決ノ結果ヲ一同ニ宣告シタル後、更ニ一同ニ問フ『本會ハ只今ヨリ如何ニシテ進行セシメ、團體ノ組織ヲシテ完備セシメタラ善イデセウカ』庚君型ノ通リ發言ノ許可ヲ得テ「三人ノ委員ニ委任シ以テ章程規則ノ起草ヲナサシムル」コトヲ動議スル。此ノ動議ガ議長ニヨリテ接述サレ、討論ヲ經タル後一同ニ採決ヲ提議シ、若シ通過スレバ議長ハ一同ニ向ツテ『如何ナル方式ニ依ツテ委任致シマセウカ、會員中ヨリ選擧致スコトニシマセウカ、或ハ本議長ヨリ委任致シマセウカ』ト問ハネバナラヌ。壬君地位ヲ得テ動議シ「議長ヨリ委任セラレタイ」トカ「一同ヨリ指名スベシ」トカ云フ。若シ前ノ動議ニ從フナラバ型通リ一同ニ示シテ、通過シタル後、議

長ハ會議ニ出席シテ居ル三人ノ者ニ委任スルコトトナル。卽チ『本議長ハ只今戌君、壬君、巳君ニ起草委員ヲ委任シマス』ト云フ。若シ後者ノ動議ニ從フトスレバ、一同ニ籌リ、動議通過シタル後型ノ如ク議長ハ一同ニ指名ヲ請ヒ、之ニ次デ一同採決ニ入ルコト宛モ議長選擧ノ方法ト何等異ル所ハナイ。

職員ノ選擧モ亦前述ノ方法ト同樣ニシ、委員ヲシテ審査決定シ職員名簿ヲ作成セシムル樣動議スルコトモヨシ、又ハ會員ヨリ候補者ヲ指名スル樣動議スルコトモ出來ル。若シ委員ヲシテ審査決定セシメタル場合ハ、委員ヲ受諾セル者ハ直チニ別室ニ退キテ詳細ニ審査決定シ、直チニ報告スルカ又ハ次會ニ於テ之ヲ報告スル。更ニ或ハ職員名簿ヲ鈔錄セシメ、或ハ多分ニ印刷セシメテ投票用紙ノ用ニ供スルノデアル。

章程規則ノ起草委員ニ至ツテハ、必ズ次會ヲ待ツテ然ル後報告スベキデアル。

以上ノ各事項ハ一會ヲ發起スル上ニ必要トスル所デ、少シモ忽ガセニスルヲ得ナイ所デアル。斯ノ如クシテ一時的組織ヨリ漸次歩ヲ進メテ永久的團體トナルノデアルガ、第一次會ニ於テハ次會ノ開會時期及ビ場所ヲ決定セネバナラヌ。然ル後散會スルノデアル。

第二項　章程及規則

第一次會議ニ於テ委任セル所ノ起草委員ハ、自ラ會ヲ召集シテ章程、規則ノ草案ヲ作成シソレヲ清書シテ報告ノ準備ヲナス。

第二次會開會ノ場合、記錄ヲ承認シタ後ニ於テ第一ニ爲スベキコトハ、起草委員ノ報告デアリ議長ハ先ヅ之ヲ要請スル。然ル時ハ委員長ハ之ヲ朗讀スルノデアルガ、先ヅ全文ヲ讀ミ、會員ヲシテ總體ノ主旨ヲ知ラシメ、後逐條之ヲ讀ミ上ゲル。一同ハ一條每ニ詳細ニ討論ヲ爲シ、或ハ修正ヲ爲スベキデアル。第一條ガ議定サルレバ、議長ハ言フ『只今ヨリ第二條ヲ審議致シマス』。而シテ最終迄每條每ニ、右ノ通リ繰リ返スノデアル。

之カ終レバ議長ハ『今度ノ問題ハ本章規ヲ採用シテ本會ノ章程ト爲スヤ否ヤニアリマス。贊成者ハ云々』（前述ノ表決方法ニ同ジ）ト言フ。規則ノ表決方法モ亦同シ。

模範的章程及ビ規則ノ一部ハ附錄ニ記載シテアルカラ、各種團體ハ之レヲ以テ大綱トスルガヨカラウ。章程規則ノ重要點ハ必ラズ會名及ビ其ノ目的、職員及ビ常務委員ノ數及ビ其ノ職務、會員ノ條件、合法的ノ議則、法定ノ定足數、修正、改正ノ條例及ビ會議ノ一切ノ要素ヲ包含シテヰナケレバナラヌコトデアル。

第三項　職員

重要ナル職員ハ會長、副會長、及ビ記錄掛、書記等デアル。若シ會費ヲ徵收スルナラバ別ニ出納、會計（簿記）ノ二職ヲ加フルヲ要シ、若シ又事務ガ多忙ナル時ハ通信書記及ビ副書記ヲ置ク必要ガアル。又若シアル事項ガ集會ノ時ニ爲シ能ハザルモノナラバ、董事（參事會員、幹事）ヲ選擧シテ之ヲ辨ゼネバナラヌ。若シ又小團體ニシテ、其ノ目的ガ相互ノ利益ヲ計ルニアリ且ソレ以外ノ事務ニ與カラザル時ハ、一切ノ事務ハ會員全部ガ之ヲ辨ジ、集會シタル時ニ其ノ大要ヲ討論採決シ、其ノ細務ハ之ヲ委員ニ附託スベキデアル。又此等ノ資益會ニアツテハ其ノ職員ハ宜シク交代ニ擔任シ、各人ヲシテ其ノ技能ヲ練習セシムベキデアル。斯ノ如クシテ會員全體ガ均シク事務ニ參與スレバ相互ノ感情益々密接トナリ、結合力イヨイヨ堅固ニナリ、而カモ平等公正ノ精神モ亦油然トシテ生ズルモノデアル。

第四項　職員ノ選擧

第一回ノ會議ニ於テ委任セラレタル職員、指名セラレタル委員ハ自ラ開會シテ審議決定シタナラバ、之ヲ「ノート」ニ控ヘ置イテ報告ノ準備ヲ爲シ、第二回ノ會議ガ開會セラレ章程規則ガ已ニ採用セラレタル後ニ於テ、會長ハ始メテ指名セル委員ニ命ジテ報告セシムル。委員長ハ起立シテ言フ『議長殿、本委員等ハ謹ンデ左ノコトヲ報告致シマス。議長壬氏、副議長丙氏、記錄掛書記己氏、通信書記戊氏、出納掛乙氏、會計掛甲氏云々（以テ章程中ニ當然アルベキ職員ハ盡ク之ニ倣ツテ申述ベル）』讀ミ終レバ人名簿ヲ議長ニ手交シテ着席スル。

會ノ規則ハ各國同ジカラズ、或ハ指名セル委員ノ報告アリタルト同時ニ選擧スト規定セルモノモアリ、或ハ報告ニ接シタル後次回ヲ待ツテ始メテ選擧スト規定セルモノモアル。若シ次會ヲ俟ツテ選擧ヲ爲スナラバ、議長ハ指名報告ヲ收受シタル時ニ次ノ如ク言ハネバナラヌ。『諸君ハ只今委員ノ報告セル候補議員ノ姓名ヲ御聞キニナリマシタ。選擧ノ時期ハ、次會ノ某々日ニ行ヒマス。若シ不贊成ノ方ガアリマシタナラ、只今別ニ指名シテ下サレバ、次回ニ正式指名者ノ後ニ候補者トシテ加ヘマス』

若シ同時ニ選擧スト規定シタル場合ハ、議長ハ次ノ如ク言フ『諸君ハ只今ノ委員ノ報告ヲ御聽取ニナリマシタ、御意見ハアリマセンカ』云々、此ノ種ノ報告ハ必ズシモ別ニ動議シテ收受又ハ採用スルノ必要ハナイ。今指名シツツアルト云フ時ニ若シ其レ以外ノ人ヲ指名スル者ガアレバ、適宜ニ之ヲ行ハネバナラヌ。（下項ニ詳述スル）

選擧ノ時至レバ議長ハ發言シテ『只今ヨリ檢査員ヲ選擧致シマス』ト言フ。辛君ハソコデ發言ヲ求メテ『議長ヨリ檢査員ヲ任命セラレンコトヲ動議致シマス』。次デ此ノ動議ヲ一同ニ示シテ採

用シ、通過スレバ議長ハ癸氏ト子氏ニ檢査員ヲ委任スル。彼等ハ任命ヲ受ケタル後、直チニ候補者ノ氏名表ヲ一同ニ分配シテ投票用紙ノ代リトスル。此ノ時空白ノ罫紙ヲ用フルモ可ナルベク、會員ハ各々投票用紙ヲ準備シタナラバ、不贊成ノ者ノ姓名ヲ抹殺シ、自己ノ贊同スルモノノ姓名ヲ記入スル。檢査役ハ箱等ノ容器ニ之ヲ收メ、別室ニテ之ヲ數ヘテ其ノ結果ヲ記帳スル。右終レバ議長ハ他ノ事項ハ差シ置イテ『檢査員ハ已ニ報告ノ準備ガ出來マシタ』ト言フ。ソコデ癸君ハ投票ノ結果ヲ左ノ如ク朗讀スル。

投票總數	二十一票	
當選必須數	十一票	
會長投票	辛氏	一票
	壬氏	二十票　當選
副會長投票	子氏	一票
	庚氏	一票
	丙氏	十九票　當選

讀ミ續レバ其ノ書類ヲ議長ニ手交スル。議長ハ『次ニ擧グル方々ハ既ニ大多數ヲ得マシテ、本會ノ職員ニ當選サレマシタ』ト述ベ、更ニ職員及ビ當選者ノ名ヲ讀ミ上ゲテ、始メテ決議トナルノデアツテ書記ハ直チニ本案ヲ記錄ニ止メル。本案ハ再議ニ附スコトハ出來ヌ。

第五項　其他ノ選擧

若シ指名委員ガ即時報告スルコトヲ要スル場合ハ、氏名表ヲ準備スル暇ナク空白ノ投票用紙ヲ用ヒ、何職ニハ誰、何職ニハ誰、等ノ如ク按ンジテ會員ヲ選擧シ、自己ノ好ム人ノ名ヲ記シ、後ソレヲ姓名別ニ分ツテ計算スル。或ハ又複選擧法ヲ行フ場合ハ初メ指名ニ依ツテ選ブモノデアツテ、其ノ方法次ノ如シ。

(一)　凡テ投票ヲ得タル者ハ、皆被指名者トナス。

(二)　二三ノ最大數ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ被指名者トナス。

(三)　若干票以上ヲ得タル者ニ限リ被指名者トナス。

上記ノ中孰レノ方法ヲ用フルカハ最初ニ決定スベキデアル。複選ノ方法ハ最モ公平デアルガ、多少時間ヲ要スル。

第六項　當選者ナキ場合

若シ各職ノ候補者中大多數ノ投票ヲ得タルモノナキ時ハ、之ヲ當選者無シト言フ。斯カル場

合ニハ必ズ再選スルヲ要シ、當選者ヲ得ルニ至ル迄之ヲ行フ。例ヘバ議長選擧ニ當リ全體ノ投票數十九ナル時、壬氏十票ヲ得、丙氏七票、乙氏二票ヲ得タトシタナラバ、壬氏ハ正ニ大多數ヲ得テ當選シタ譯デアル。若シ壬氏ガソノ投票數十票以下シカ得ナカツタ場合、此ノ選擧ハ當選者ナク、必ズ再投票スルヲ要スル。斯ル場合議長ハ『會長ノ候補者中、誰モ大多數ヲ得タ方ガアリマセンノデ、本會ハ再選擧ヲ行ハネバナリマセン』ト云フ。

第七項　大多數ト比較多數

大多數トハ卽チ過半數デアリ、比較多數トハ得票ガ投票數ノ半數以下ノ中ニテ最多數ナルモノデアル。若シ投票數ノ丁度二分ノ一ヲ得票シタル場合、又ハ候補者ガ單ニ二名シカナイ場合ハ、大多數ト比較多數トハ、實際上ニ於テ何等異ル所ガナイ譯デアル。然シ若シ二人以上ノ候補者アル時ハ、兩者ハ大イニ異ナル譯デアル。例ヘバ、投票總數十九票ナル時、壬氏九票、丙氏七票、乙氏三票ヲ獲得シタトスレバ、此ノ場合壬氏ノ得票ハ、大多數トハ言ヒ得ズ、比較多數デアル。何トナレバ、十票ヲ得テ始メテ十九票ノ過半數トナリ、大多數ト言ハレルカラデアル。比較多數ヲ以テシテモ當選スル場合ガアル。斯カル場合ニハ必ズ投票ニ先ツテ表決サレタモノデナケレバ無效デアル。但シ、一切ノ社會團體ノ職員選擧ハ、過半數ヲ得テ始メテ當選スルノガ通例デアル。之ニ反シ、人民ガ官吏ヲ選擧スル場合ハ比較多數ニ依ル。何トナレバ、大多數法ヲ之レニ用フル場合ハ往々ニシテ不便ナル事柄ヲ生ズルカラデアル。故ニ經驗ニ富ム國家ニ於テハ、多ク此ノ大多數方法ヲ行ハズシテ比較多數法ヲ採ルノデアル。

第八項　團體ノ成立

常任職員ヲ選定シ終ヘタナラバ彼ハ次會ヨリ就任スベク、其ノ際ハ、自己ニ對スル一同ノ信任ヲ感謝シ、併セテ自己ノ全力ヲ盡シテ任務ニ當リ、必ズヤ意ヲ會員ノ權利義務ニ注ギ、而シテ平等ニ之ヲ承認シ、之ヲ尊重スル旨ノ辭ヲ述ブルノガ通例デアル。之レヨリ彼ハ會長或ハ議長ト呼バレルノデアル。職員ノ選定ヲ終リ章程規則ノ制定ヲ終レバ、其ノ會ハ則チ成立シタ譯デ其ノ事業ニ着手スルコトガ出來ル。此ノ時ニ於テ、職員ハ當然就職シテ、各々其ノ管掌事務ニ携サハルノデアル。開會ノ時ニ正式職員全部缺席シタル時ハ何時ナルヲ問ハズ、會員ハ何人ニテモ秩序ニ就クベキヲ宣布スルコトガ出來ル。而シテ會員中ヨリ別ニ代理議長竝ビニ書記ヲ選出シテ議事ヲ攝行セシムルノデアル。之レ會員一同及ビ演說者ヲ久シク待ボケサセルニ比ベテ遙カニ勝レル策ト言フベキデアル。

臨時會及定期會ハ各々何レモ常規ガアツテ、其ノ手續規則ヲ規定シテキル。臨時會ハ多クハ一般

慣習ヲ尊ビ、後者ハ自己ノ獨特ノ方法ニ依ルノデアツテ、各商業團體及ビ會社ノ會議ハ皆其ノ會議規則ニ準據セネバナラヌ。而シテ何人ノ定メタル方法タルヲ問ハズ、此等ノ規則ハ夫々社會團體ニ適用サレ又各商業團體及ビ各會社ニ適用スルモノデアル。

第三節　議事ノ秩序及定足數

第一項　恒例事項

會議ヲ開クニ三ツノ必要ナル形式ガアル。

一、秩序ニ就カンコトヲ請フ。

二、前會ノ記錄ヲ朗讀シ之ヲ承認スル。

三、散會。

以上ノ外更ニ常務委員ノ報告ガアル。之等ハ何レモ恒例事項ト言フベキデアル。此等ノ事項ガ滿場一致ノ許可ヲ經レバ、動議及ビ議決ノ形式ヲ用ヒナクトモ、之ヲ施行スルコトガ出來ル。但シ之等ノ非公式ノ行爲ハ之以外ノ事項ニ適用シテハナラヌ。何トナレバ例令此等ガ恒令、例行ノ事項ナリトモ往々カカル非公式行爲ニハ反對スルモノナキニシモアラズトナスガ故デアル。

開會ノ際ハ議長起立シ、少時靜カニナルノヲ待ツカ、又ハ卓子ヲ敲イテ『時間トナリマシタ、何卒秩序席ニオ就キノ上前會記錄ノ朗讀ヲ御聽取下サイ』ト言ツテ着席スル。ソコデ書記ハ議長ヲ呼ンデ記錄ヲ朗讀シ、終レバ着席スル。議長ハ再ビ起立シテ『諸君ハ今前會ノ記錄ヲ御聽取サレマシタガ、何カノ錯誤、又ハ脫漏シタコトデモオ氣付キニナリマシタカ』ト尋ネル。暫ク待ツテ『若シ御座イマセンナラバ、本記錄ハ承認シタコトト致シマス。只今ヨリ會議事項ヲ陳ベマス、云々』ト述ベル。

若シ誰カガ記錄ノ錯誤ニ氣付イタナラバ、當然起ツテ之ヲ修正スベキデアル。其ノ發言ハ次ノ如シ。

『議長、私ハ議決シタ其案ノ事項ハカクカクデアツタト記憶シテ居リマスガ』ト云フ。此ノ時若シ書記ガ修正シテ書イタ方ガ正シイト認メ、而モ之ニ誰モ反對スルモノガ無イ時ハ、書記ハ其ノ通リニ記錄セネバナラヌ。ソコデ議長ハ『此ノ記錄及ビ修正案ハ承認セラレタル議決案ト致シマス』ト云フ。然シ若シ異議アリタル時、或ハ書記ガ原案ヲ固持シタル時ハ『提議アリタル通リニ記錄ヲ修正シテ或ハ某字ヲ削除シ、或ハ某字ヲ加入スル』コトヲ動議スルコトガ出來ル。此ノ動議ハ討論及ビ表決ヲ經、案ヲ修正スルヤ否ヤハ、大多數ノ可決否決ニ從ツテ之ヲ決定スル。茲

ニ於テ議長ハ『記錄ハ動議ノ如ク修正シテ、議決案トシマス』ト宣告スル。

第二項　議事ノ公式順序

凡ソ團體又ハ議長ハ宜シク議事ノ一定ノ順序ヲ採用スベク、以テ集會ノ標準トスル。然シ其ノ形式ハ只ダ一般ニ行ハレルモノデアッテ、一定不變ノモノデハナイ。其ノ形式次ノ如シ。

一、秩序ニ就カンコトヲ請フ
二、記錄ヲ宣讀シ、之ヲ承認ス
三、要旨ノ布告
四、特務委員ノ報告
五、常務委員ノ報告
六、選　舉
七、前會指定ノ事項
八、前會未完ノ事項
九、新發生事項
一〇、當日計畫ノ事項
一一、散　會

以上ノ順序ハ各會ニ於テ其ノ便宜及ビ方法ノ如何ニ從ッテ、臨機應變ニ之ヲ爲スベキデアル。議長ハ毎會必ズ一ノ目錄（日程）ヲ定メ、各事項ヲ順序正シク書キ入レ、以テ開會ノ時、順序ヲ追フテ提出スルノデアル。次イデ新發生事項ノ時ニ至ッテ、議長ハ問フテ『本日ハ新發生事項ガアリマスカ』ト云フ。若シアレバ當然之ヲ提出シテ表決スベク、或ハ假リニ之ヲ結了トシ、然ル後ニ當日ノ演說或ハ其ノ他ノ計畫事項ニ著手スル。若シ當日ノ計畫ニ一定ノ時間ヲ定メテアルナラバ、時至レバ諸種ノ事項未ダ完結セズトモ、多數ノ投票ヲ得テ『進行繼續』ヲ議決シタ場合ヲ除イテハ、默認アリタリト見做シテ直チニ諸事項ヲ次期會議迄其ノママ持チ越スノデアル。要スルニ議事ノ順序ハ、記錄ノ承認ヲ經タ後動議及ビ議決ニヨリ、隨時之ヲ停止シ或ハ變更シ、以テ特別事項ヲ議スルコトガ出來ルノデアル。

第三項　定足數ノ定義

定足數トハ、會議ニ於テ事ヲ處理スルニ必要ナル人數デアル。臨時集會ニアタッテハ定足數ノ問題ハ發生セズ、參會者ノ多少ヲ問ハズシテ孰レモ開會スルコトヲ得ル。委員會ノ場合ハ必ズ過半數ヲ以テ定足數トナシ、永久團體ニアリテハ必ズ法規ヲ以テ、幾何數ヲ以テ定足數トナスカヲ

定ムベキデアル。若シ未ダ規定ナキ時ハ、必ズ大多數ヲ以テ定足數トナシ、開會ノ時必ズ過半數ヲ得テ後初メテ事ヲ處理スルヲ得、若シ定足數ニ充タナケレバ散會シテ次會ヲ待タナケレバナラナイ。

立法院ニ於テハ其ノ議事ハ公共ノ性質ヲ有シ、其ノ人員ノ出席ハ當然ノ義務デアリ、且ツ立法院モ亦出席ヲ强制スルノ權能ヲ有シテキル。從ツテ定足數ハ多キヲ以テ正當トナスノデアル。普通一般ノ會議ニ至ツテハ少キヲ便利トスル。何故ナラバ其ノ目的ハ事ヲヨク處理シ得ルニアルカラ、當然少數ノ定足數ヲ定ムベキモノデアリ、開會ノ時必ズ定足數ニ達スル樣豫メ備ヘナケレバナラナイ。

例ヘバ、會員五十人乃至百人ナル場合ハ其ノ定足數ハ九人ニテ可ナルベク、若シ更ニ少ナキ會ナラバ、五人ヲ定足數トスル。假令數百人ニ上ル團體デモ、僅々十五人乃至十七人デ充分ナル定足數ト言ヒ得ルデアラウ。

人數ヲ決定スル場合ニハ又團體ノ種類ニモ注意スベキデ、或種ノ團體ニアツテハ其ノ會員ガ服務者デナケレバ、人數ガ如何ニ多數アツテモ、其ノ定足數ハ依然極メテ少數ト爲ス方ガ便宜デアル。其ノ要義トスル所ハ、凡ソ各會員ニ出席スル權利ヲ行使スル機會ヲ與フルニアル。故ニ晴雨ヲ論ゼズ、出席スルモノハ當然事ヲ處理スルノ權利ヲ得、以テ其ノ勞ヲ撈ヒ、而シテ輕忽ニモ缺席セル會員ハ、當然異議ヲ挿ムヲ得ザルモノトナスニアル。

第四項　定足數ハ開會前ノ必要事項ナリ

凡ソ一團體ニシテ既ニ定足數ノ規定アル場合、此ノ定足數ハ開會ノ事ヲ處理スルノ必要條件デアル。開會ニ當リ議長ハ出席者何名ナルカ、自己ヲ加ヘテ定足數ニ達スルヤ否ヤヲ數ヘ、苟クモ一人ニテモ不足スル時ハ開會ヲ宣スルコトヲ得ズ、必ズ出席者ヲ待チ、定足數ニ達シテ後初メテ開會ヲ宣シ得ル。若シ待ツテ時ヲ經ルモ尙來會セザレバ、一同ハ散會ノ時ヲ定ムベク、散會ノ時至レバ散會スル。次會モ亦斯ノ如クニ行ヒ、出席者ハ只事項ヲ談論スルコトハ出來ルガ動議採決スルコトハ出來ナイ。

而カモ如何ナル事項モ議事ノ順序ノ中ニハ包含サレナイカラ、全ク開會セザルニ等シイ。會員ハ催促シテ出席ヲ請ヒ、以テ定足數ヲ充タスコトハ出來ルガ、之ヲ强制的ニ出席セシムルコトハ出來ヌ。委員會ノ開會モ亦此ノ例ニ同ジデアル。

第五項　開會後定足數ヲ缺クニ至リタル場合ノ效力

既ニ定足數ヲ以テ開會シタル時ハ、其ノ後漸次會員ガ席ヲ去ツテ定足數ヲ欠クニ至リタル場合

ト雖モ、議事ハ其ノママ進行スル。

此ノ主旨ハ蓋シ既ニ定足數ヲ以テ開會セシモノナレバ、開會後モ依然定足數デアルトスルノデアラウ。斯カル狀態ニ於テ處理スル所ノ事項ハ、正當ト見做スコトガ出來ル。且又散會ノ時迄議事ヲ進行シテ差支ヘナイ。

議長ハ定足數欠缺ニ顧慮スルコトナク、議事ノ進行ヲ繼續スベキデアル。然レドモ議長タルト會員タルトヲ問ハズ、若シ定足數不足問題ヲ提起スレバ、議事ノ進行ハ直チニ中止スル。議長ハ『本議長ハ、諸君ニ定員不足ノ事實ニ注意セラレンコトヲ求ム』トテ、動議ヲ待ツ。又會員ガ起ツテ言フ場合ハ『議長、私ハ定員不足ノ問題ヲ提出シマス』ト動議スル。此ノ時ニハ各事項ハ當然停止セラレ、在場人員ヲ計算シ、若シ不足ナラバ直チニ散會スル。

第六項　定足數ノ計算方法

若シ定足數ガ少人數ナルトキハ、其ノ出席缺席ハ議長及ビ書記ガ一寸數ヘル丈ケデ直チニ明瞭トナリ、會員一同モ亦容易ニ之ヲ察知シ得ル。然レドモ定足數ノ大ナル場合ニハ、ヨロシク檢査員ニヨルカ或ハ點呼ニ依ツテ之ヲ數フベキデアリ、カクテ幾何ノ出席人員アリヤヲ計算セバ、直チニ定足數問題ハ解決シ得ル譯デアル。

立法會議（該會議ニ於テ大多數ノ議員カ、又ハ多數ノ議員ヲ以テ定足數トスル）ノ議長ハ議長一個人ニテ、出席人員數ヲ計算シテ可ナリヤ否ヤハ尙一問題ニ屬スル。此ノ專斷的方法ハ、兎モスレバ手續ニ規定スル所ノ政黨團體ニ於テ必要トスル所デアル。然シナガラ普通一般團體ニアツテハ、點呼ト言フ先例ヲ用ヒテ人員ノ出欠ヲ定ムルノガ最モ適當ナ方法デアル。

何事ニ拘ハラズ、議長ヲシテ自然ノ趨勢ニ依ツテ、彼ノ專斷的權能ヲ形成スルニ至ラシムル如キ機會ヲ發生スベキモノハ、寧ロ制限シテ余リ之ヲ奬勵スベキデハナイ。

第四節　會員ノ權利義務

第一項　議長ノ義務

議長ハ全會員ノ公僕デアリ、一部ノ人ノ爲メ或ハ一個人ノ爲メニ服務スルモノデハナイ。此ノ故ニ議長ハ會ノ長タリト雖モ、一會ノ主人公デハナイ。彼ハ事體ノ秩序ヲ以テ一同ヲ統率シ、一切ノ事項ヲシテ皆公正平等ノ精神ニ從ツテ行ハシメネバナラヌ。

議長ハ秩序及ビ定足數ヲ維持シ、秩序ガ紊亂スルニ至ル每ニ起立シテ『靜肅ニ』ト言ハネバナラヌ。又議則ニ反スレバ直チニ起立シテ之ヲ糾正セネバナラヌ。

議長ハ議則及ビ會則ニ準據シテ一同ヲ統率シ、之ヲ指導シ、而シテ之ヲ自己ノ自由ニ驅使セズ、只目的ヲ達スルコトノミヲ思フノデアル。議長ノ義務ハ當然嚴正ニシテ偏セズ、力メテ大多數ノ意見ヲ實施スルヲ得セシメ、且ツ同時ニ少數人ノ權利ヲモ尊重シ、事件ヲシテ迅速ニ公平正當ノ處理ヲ得セシメ、討論ヲシテ自由ニシテ偏セザルノ取扱ヒヲ得セシムル樣ニセネバナラヌ。賢明ナル議長タル爲メニハ、宜シク三種ノ特質ヲ具備シナケレバナラナイ。卽チ一、決斷力

二、懇誠ノ情、三、親和ノ情。

詳細ノ事項ニ就テ之ヲ述ブレバ、議長ハ其ノ最モ秩序ヲ維持スルニヨキ時ニ於テ、事件ヲ處理スルニ適當ナル事ヲナスベキデアル。彼ハ事件ヲ處理スルニ當ツテハ、例ヘバ動議ヲ受ケ、動議ノ接述、動議ノ上呈、及ビ動議ノ表決等ヲナス如キ場合ハ、當然起立スベキデ、只討論ノ場合ニ於テハ着席ノママデヨイ。

議長自ラ發言スルニ當ツテハ『本議長、或ハ本會長』ト言フ。會員ニ對シテハ、當然發言權ヲ得ベキ會員ハ之ヲ承認スベキデアリ、秩序ニ合シタル動議ハ之ヲ接述シテ、會員ヲシテ討論ノ機會ヲ得セシメネバナラヌ。

開會ノ場合ニハ定足數ニ達スルヲ待チツテ始メテ議事ノ進行ヲ爲スベク、又時ニ從ツテ開會シ、時ニ從ツテ散會スベキデアル。

議長ハ當然何時委員ガ報告ヲナスカヲ知ルベキデアリ、時至レバ之ニ命ジテ報告セシメネバナラヌ。又議長ハ特別指定ノ事項ニ注意シ、且ツ適當ナル時ニ之ヲ提出セネバナラヌ。有ラユル必須事項ハ必ズ結了スルカ、或ハ正式ノ手續ヲ經テ之ヲ次會ニ擱置セシムベキデアツテ、其ノ後ニ於テ始メテ散會ヲ宣シ得ルノデアル。

第二項　議長ノ權利

議長ハ團體又ハ會議ノ一員ナル以上、當然發言及ビ投票ノ權利ヲ有スル。但シ必須事項ヲ除クノ外ハ、此ノ種ノ權利ハ通常拋棄セラレル。議長ハ一事項ニ關シ說明ヲ加ヘルガ、之ハ單ニ事實ヲ述ブルニ止マリ、自ラ進ンデ討論ヲ行フ場合ハ、必ズ議長ノ地位ヲ他員ニ讓リ『某氏、何卒議長ニ代ツテ下サイ』ト云ヒ、暫時一個ノ純會員トナツテ後討論ヲ行フ。然レドモ議長ハ、此ノ場合、必ズシモ自己ノ座席ヲ離ルルニハ及バナイ。只他人ヲ以テ主席トナス場合ハ、他ノ一般會員同樣『議長』ト呼ビテ後發言シ、言終ルト共ニ再ビ議長ノ職ニ復スル。

議長ハ何人ガ地位ヲ得ベキヤヲ決定スル權利、及ビ秩序ニ關スル論爭點ヲ處決スル權利ヲ有スル。但シ若シソレニ服從セザルモノアラバ、前二項共之ヲ公決ニ訴ヘルコトガ出來ル。議長ハ動

議ヲ待タズシテ正式ニ事項ヲ提出スルコトヲ得、又若シ反對者ガナケレバ恒例ノ議案ハ採決ヲ待タズシテ通過ヲ宣言スルコトヲ得ル。

議長ハ又會員ヲシテ動議ヲ文書ニ認メシムル權利ヲ有シ、秩序ニ合セヌ動議ヲ隨意ニ取消シ得ルノ權利ヲ有スル。議長ハ特別ノ委任ヲ受クルニ非ザレバ、委員會ニ參與スル權利ナク、委員モ亦共ニ協議スベキ必要ハナイ。議長ハ又特別ノ委任ヲ受クルニ非ザレバ、監督ヲナスノ權利ヲ有セヌ。而シテ之等ノ權利ハ議長ニ授與セザルヲ可トスル。

議長ノ權利ハ會員ヲ指導シテ、自治ヲ可能ナラシメルニアツテ、之ヲ支配スル權利ハ有シナイノデアル。

第三項　會員ノ權利義務

會員ノ義務ハ能力ヲ竭クシテ議長ヲ助ケ、以テ秩序ヲ維持スルニアル。而シテ維持ノ途ハ當ニ自己ヨリ始メネバナラヌ。例ヘバ會場ニ於テハ失聲ヲ戒メ、妄言ヲ愼ミ、濫リニ出入スルヲ戒メ、又其ノ外一切ノ會場ヲ擾亂シ、聽衆ノ防害トナル如キ擧動ヲ戒シムベキデアル。會員ハ必ズ、正式ニ則ツテ動議シ、友誼ヲ持シテ討論シ、多數ノ是トスル所ニ從フベキデアル。會員ノ地位ハ相互ニ一切平等デアリ、議決ノ投票ハ乃チ會員ノ權利デアツテ、正當ノ主張ニヨリ投票スルハ亦會員ノ義務デアルベキデアル。

會員ノ討論ノ權利義務ニツイテハ第七節ニ於テ詳細ニ之ヲ述ブルコトトスル。

第四項　副議長並ニ書記ノ權利義務

副議長ハ、若シ議長ガ欠席スルカ又ハ議長トシテノ能力ヲ失シタル場合ニ遭遇スル時之ガ代理トシテ備フルモノデアリ、其ノ職務ハ議長ニ等シイ。故ニ當然會ノ目的ノ遂行方法及ビ其ノ一切ノ議事行爲ヲ知ラネバナラヌ。議長ガ常ニ副議長ニ請フテ、一切ノ事務ノ代理處理ヲナサシムレバ、副議長ニトツテハヨキ練習トナリ、從ツテ無能ナル職員タラシムルコトハナイデアラウ。

記錄書記ノ職務ハ會議ノ事項ヲ記錄スルコトデアル。議場ノ言辭ハ之ヲ記錄スルニハ及バヌガ、之トテモ特別ノ命令アレバ記錄スルヲ要シ、然ル後會議中ノ記錄ヲ正式ノ議案ニ寫シ終ヘルノデアル。總テノ議決投票數ハ其ノ時ノ結果通リニ記錄シ、少シモ改變スルコトヲ許サナイ。總テノ否決サレタル動議モ亦之ヲ記錄スル。凡ソ記錄アレバ之ガ確定的證據トナリ、後日論爭アル際ハ悉ク記錄ヲ以テ正シトナシ、個人ノ記憶或ハ主張ヲ以テ正シトナスコトヲシナイ。故ニ總テ前會ノ記錄ハ必ズ次會ニ復讀シ、一同ノ動議ニヨリ或ハ投票シ、或ハ默許シ、以テ認可ヲ表決スル。斯クシテ後始メテ正式ノ議案トナリ得ルノデアル。

書記ハ委員ニ附託サレタル事項ヲ通告スルノ責任及各種ノ擱置延期等ノ議案ヲ管理スルノ責任ガアル。

簡單ニ言ヘバ會長ヲ輔佐シテ一切ノ事務ヲ處理スルノデアル。若シ書記ノ記錄中ニ錯誤ノ點アリ、而カモ該記錄ハ既ニ一同ノ認可スル所トナツテキル場合、其ノ誤謬ニ對スル訂正者ハ必ズ其ノ誤謬點ヲ指摘シテ一同ノ同意ヲ得ベキデアル。蓋シ議案ハ一度承認ヲ經レバ正式ノ證據トナルモノデアルカラ、必ズ先ヅ錯誤ヲ改修シテ後始メテ承認ヲ許スハ、極メテ必要ナコトデアルカラデアル。

記錄ノ承認ヲ經タル後、書記ハ記錄ノ末尾ニ署名捺印セネバナラヌガ、ソレハ次ノ如クスル。『書記某々書記、何日、何時、何分。』之ヲ記錄書ニ認メタナラバ、改メテ書キ寫ス必要ハナイ。若シ改正スル箇所ガアルナラバ、行ト行ノ間ニ書キ加ヘル。凡テ採決ノ事項ハ滿場ノ許可ヲ得ルニ非ラザレバ之ヲ刪除シ得ナイ。

其ノ他ノ職員ノ義務ハ各會ノ必要ニ應ズベキデアツテ、會則ニヨリ規定セル各職員ガ、各自ノ本職トスル義務ヲ盡スベキハ當然デアル。彼等ハ他人ニ干渉スベキデナイト同時ニ、何等他人ニ干渉サルルコトハナイ譯デアル。

總括シテ之ヲ言ヘバ、記錄書記ノ義務ハ專ラ記錄ヲ司リ、通信書記ノ義務ハ專ラ書類ノ整理ニ當リ、又其ノ他ノ職員ハ皆其ノ職務ニ應ジタル職務ヲ司ル。又其ノ他ノ事項ノ如キモ、其ノ一部ヲ指定委任シテ之ヲ司ドラシメルコトガ出來ル。或ハ其ノ職責中ノ事項モ亦投票ニヨリ、或ハ特別規定ニヨツテ之ヲ分擔處理スルコトモ出來ル。議長ハ一切ヲ監督スベキデアルガ只手續ヲ糾正スルノ外ハ之ニ干渉シテハナラヌ。書記ハ固ヨリ重權ヲ與ヘラレテヰナイトハ言ヘ、彼モ亦其ノ當然有スル權利ヲ活用スベキデアリ、而カモ其ノ權限ヲ超ヘテハナラヌ。

第五項　全體ノ權限並ニ缺員、廢置、特別會議等ニ關スル規定

惟フニ一會ノ權力ハ、第一ニ章程並ニ規則デアリ、第二ニハ各種表決ノ專門條規ガ章程規則ニ牴觸セザル事デアリ、第三ハ採定ノ議則デアツテ、第四ハ會議ノ習慣デアル。以上ノ各條ハ先後シテ施行ノ順序トナルモノデアル。

職員ノ欠員。若シ職員ニシテ會期中ニ缺員ヲ生ジタル場合ハ、速カニ別ノ職員ヲ選擧シテ之ヲ補充スル。若シ會期中ニアラザル時ニ欠員アリタル場合ハ、開會ノ時ヲ待ツテ補欠選擧ヲ行フカ又ハ規則中ニ規定セラレタル專門條規ヲ以テ之ヲ處理スル。理事會ノ欠員ニ對シテハ、理事團中ヨリ自ラ補欠選擧ヲ行フベキヤ否ヤ誠ニ疑問ノ點デアル。但シ委員會ニ欠員アル時ハ、常ニ自

ラ補欠選擧ヲ行フトモ可ナリデアル。其ノ理由ハ、委員會ナルモノハ臨時的團體デアルカラデアル。凡テ職員ノ欠員アル場合ハ、他員之ニ代ツテ新職員ノ選擧サルルヲ待チ、新職員一旦選出サルルヤ、代理職員ハ直チニソノ職務ヲ終止スルモノデアル。

職員ノ廢置。職員ニシテ其ノ責任ヲ放棄シ、或ハ重大ナル失策ヲナシ、羞ヲ全會ニ貽ス如キモノハ、多數ノ議決ヲ以テソノ職ヲ廢免スルコトガ出來ル。其ノ取消ノ方法ハ附和ヲ有スル動議（此ノ動議ノ提出ニハ必ズ他全員ノ贊成ヲ要ス）ヨリ出發スベク、投票ニ依リ之ヲ議決シ、下記ノ如ク行フ『某々事務ノ職ハ只今ヨリ廢免スルコトヲ動議宣告致シマス』云々。此等廢免ノ事項ハ只是非利害ノ極端ナル場合ニ限リ之ヲ行ヒ、其ノ他ノ場合ニハ、其ノ職務ノ任期終了ノ時ヲ待ツテ之ヲ行フ。

第六項　特別會議

永久團體ノ會員ノ場合ハ、當然定期會ノ日時及集會場所ヲ悉知セルモノデアルカラ、別ニ通告ヲ必要トハセヌ。

然シ特別會ハ之ト異リ、必ズ議決サレタル會ノ規定ニ從ツテ、一會員毎ニ正式ノ通知ヲ發スルヲ要シ、且ツ此ノ規定ハ必ズ勵行セネバナラヌ。定期會ニ於テハ、定足數ヲ得レバ各種ノ議決ハ、章程規則及ビ前會ノ議決ト牴觸シナケレバ、孰レモ施行スルコトガ出來ル。獨リ特別會ハ之ニ反シ必ズ會議召集狀ニ記載シ、召集狀ニ記載ナキモノハ、提議スルコトガ出來ナイノデアル。

特別會ハ改正修正ノ事項ニ對シテハ、定期會ニ比較シテ特ニ愼重ニ行フベキデアル。然シ其ノ手續ハ定期會ト全ク等シイ。若シ疑議發生セル場合ハ、愼重ナル態度ヲ以テ採決セネバナラヌ。特別會ハ非常ニ應ズル爲メニ設ケラレタモノデアルカラ、徒ニ頻繁ニ開カルベキ性質ノモノデハナイ。

第二　動議

第一節　動議

第一項　動議

會場ニ於テハ一事項ヲ議スル毎ニ、次ノ如キ三ツノ手續キガアル。

其ノ一、動議

其ノ二、討論

其ノ三、採　決

此ノ三ツノ手續キハ一線ニ在ルモノデアツテ、如何ニ複雜ナル手續ト雖モ、孰レモ之ヲ貫クモノデアル。

動議トハ或ル事項ヲ處理スル提案デアル。會議ニ於テ合法ノ提案ヲ發生セシメントセバ、必ズ正式ノ動議ヲ爲サネバナラヌ。

若シ勝手ニ談話シ、或ハ隨意ニ提議ヲ爲シテ一同ノ同意ヲ得ルトモ、拘束力ヲ有スル效果ヲ收ムルコトハ出來ヌ。一事項ヲ命令遵行セシムルニシテモ、必ズ正式ノ動議アリ、正式ノ採決ヲ經テ始メテ受令者ヲシテ責任ヲ以テ遵行セシムルコトガ出來ルノデアル。

凡テ勝手不正式ナル談話ハ動議ノ先導トナルニハ充分デアルガ、動議ニ代ルベキ效力ヲ有スルコトハ不可能デアル。故ニ動議ハ實ニ事體ノ最初ノ基礎トモ云フベキデアル。

第二項　處　理　手　續

動議及表決ヲ以テ或ル事項ヲ處理スルニ重要ナル順序ガ六アル。卽チ次ノ如キモノデアル。

一、會員起立シテ議長ヲ呼ブ。

二、議長起立シテ會員ノ發言ヲ承認スル。

三、會員動議ヲ發シテ着席スル。

四、議長其ノ動議ヲ接受シ一同ニ之ヲ說明スル。

五、議長討論ノ機會ヲ與ヘ、次イデ『諸君本問題ヲ處理スル準備ハ出來マシタカ』ト問フ。

六、動議ヲ上程シテ採決シ、且ツ採決ノ結果ヲ一同ニ報告スル。

若シ動議ニ「贊成」アレバ、第三ノ順序ノ後ニ來ルベキデアル。之ヲ其ノ中ニ包括セヌノハ、ソレ程重要デナイ爲デアル。

第三項　動議ノ措辭

動議ニ用フル言辭ハ發言者ノ意思ヲ傳ヘルコトガ出來レバソレデ充分デアリ、各種ノ言辭ハ均シク用ヒテ可ナリデアル。

只動議ハ簡明ナルヲ要シ、一題目ニ限定サレネバナラヌ。本書ノ各章ニ於テ說述スル所ノ動議ノ形式ハ必ズシモ强イテ模範トスルニ足ルベキモノデハナイ。蓋シ玆ニハ動議ハ如何ニシテ發スベキヤヲ指導スル爲ニ過ギヌカラデアル。

發言者ハ最初ニ『私ハ斯ク斯クノ事ヲ動議シマス』ト言フ。議長ハ其ノ動議ヲ一同ニ上呈シ、其ノ言辭ヲ再說スルニ當ツテハ、動議者ノ言ト何等異ラザル如クニナサネバナラヌ。但シ議長ハ

動議者ニ、其ノ動議ヲ紙片ニ認メル樣要求スルカ、或ハ再ビ繰返シテ述ベシメルコトヲ得ベク、以テ正確ヲ期スルノデアル。

動議者ノ言葉ノ充分デナイ所ハ、議長之ヲ述ブル際ニ修飾ヲ加フルコトガ出來ル。然シ乍ラソレハ單ニ文句上ニ於テデアツテ、其ノ内容ニ至ツテハ少シモ變更スルコトハ許サレヌ。若シ、議長ガ其ノ本旨ヲ變更スルガ如キコトガアツタナラバ、動議者ハ繰リ返シテ述ベ、之ヲ糾正セネバナラヌ。

第四項　動議ハ何時發スベキ乎

各種ノ普通動議ハ皆、他ノ動議ニシテ採決ヲ待ツモノ無キトキニ、之ヲ發スベキデアル。唯、特別ナル議事方法ヲ用フル動議ニアリテハ、他ノ動議ガ議決ヲ完了セザル際ニ於テモ、隨時之ヲ發スルコトヲ得ル。此ノ種ノ動議ハ第十四節ニ於テ尙ホ詳述スルコトニスル。唯投票ノ際、或ハ會員ガ發言ヲ求メテキル際ハ、如何ナル種類ノ動議タリト雖モ、孰レモ之ヲ發スルコトハ不可能デアル。動議ノ取消サレタル後ニ於テハ、各議事ハ、動議ノ發セラレザリシ以前ノ本來ノ順序ニ復セネバナラヌ。

第五項　提出手續

例ヘバ地方自治勵行會ニ於テ、正ニ議事進行シツツアル際ト假定スル。會議ハ順序通リニ開會シ、記錄ヲ朗讀シ、之ヲ承認シタル後、議事日程ニ照シテ進行セシメ、而ル後新事項ニ及ブ。

一會員辛君、會議ニ於テ公會演說ヲ提起スルノ動議ヲ發セントシ「議長」ト呼ビ、其ノママ承認セラルルヲ待ツ、議長起立シテ之ヲ承認シ「辛君」ト呼ブ。

辛君ハ之ニヨリ發言權ヲ得タノデ、進ミ出デテ『私ハ「本會ガ一演說會ヲ公開スル」コトヲ動議シマス」ト言ヒ、着席スル。

議長ハソコデ『諸君ハ只今辛君ノ「本會ハ當ニ演說會ヲ公開スベシ」トノ動議ヲオ聞キニナリマシタ。此ノコトハ當然諸君ノ討論ニ待タネバナリマセン」ト云ヒ、起立シタママ一同ノ討論ヲ待ツ。若シ相當ノ時間ガ經過シテモ何人モ起立スル者無キ時ハ、議長ハ尙討論ヲ請ヒ、尙ホ之ニ應ジナイ時ハ更ニ討論ヲ促ス。

討論ノ時ニ當ツテハ議長ハ着席スルヲ得、各自ガ言ハント欲スル所ヲ言ヒ盡シタ後、議長ハ再ビ起ツテ『諸君ハ本問題ヲ處理スル準備ガ出來マシタカ』ト尋ネ、若シ最早何人モ討論スルモノナキトキハ、直チニ動議ヲ上呈シテ左ノ如ク採決ニ入ル。

『動議ハ本會ガ一演說會ヲ公會スルコトデアリマスガ、諸君ノ本動議ニ贊成セラレル方ハ「可」

ト言ツテ下サイ。（贊成者之ニ應ジテ「可」ト言フ）

『動議ニ反對ノ方ハ「否」ト言ツテ下サイ』（反對者「否」ト言フ）此ノ時若シ贊成者大多數ナラバ議長ハ『可決投票ガ多數デス』トカ『動議ハ通過シマシタ』トカ言フ。

若シ反對者大多數ナル時ハ、議長ハ『否決投票ガ多數デス』トカ、『動議ハ否決セラレマシタ』トカ言フ。

疑議及ビ復議アル場合ヲ除イテハ、議長ガ一度此ノ布告ヲ爲セバ直チニ決議案トナリ、書記ハ之ヲ記錄シ、以テ後日ノ會議ニ際シ議事進行ノ爲メノ證憑ト爲スコトガ出來ル。

其ノ他ノ動議ニ至ツテハ、例ヘバ何時、何處デ演說會ヲ開クカ、何人ガ演說員トナルカ等ト言フガ如キ動議ハ皆同ジ形式ニ依ツテ發シ、同一形式ニヨツテ之ヲ決議スル。

簡易ニ言ヘバ總テノ動議ハ皆其ノ本來ノ手續ニ從ツテ行ハレルガ、唯議事方法ノ動議ニ關スルモノハ討論ヲ免除或ハ制限スル場合ガアル。

第六項　動議ノ附和贊成

動議ニ附和スルノ習慣ハ常ニ之ヲ重視シ過ギル傾向ガアル。

往々動議ニシテ尙ホ正式ニ發スル能ハズ、又正式ニ之ヲ上呈スル能ハザル場合ニモ亦、動議ハ必ズ贊成卽チ附和ガアツテコソ始メテ討論ニ附シ得ルコトヲ力說固執スルモノガアル。之レ形式ト云フ細事ヲ余リニ重要視スルモノデアル。

且近來立法院例ヘバ米國々會及 Massachusetts 州會ノ如キハ、皆贊成ノ形式ヲ用ヒテキナイ。之レニ依ツテモ附和贊成ノ形式ハ漸次之ヲ用フルモノガナクナツテ來ル傾向ノアルノヲ窺知シ得ルノデアル。經驗アリ老練ナル團體ニ於テハ已ニ附和ト云フ事ハ廢止シタ方ガ比較的ニ便利デアルコトヲ覺ルニ至ツタノデアル。蓋シ時間ヲ滅殺シ、平等ノ道理ニ適合シテ人々ヲシテ會議ニ於テ同等ナル發言權ヲ享有スルコトヲ得セシムルカラデアル。之ニ依リ之ヲ觀レバ、從來會議學專門家ノ多クハ贊成附和ヲ以テ當然爲スベキコトデアルト云フ說ヲ支持シテキルガ、吾人ハ討論不能ノ議案、非公式議案及偏辟ノ議案ニ關スルモノノ外ハ此ノ舊案ニ余リニ拘泥スルニ及バナイト主張スルノデアル。只假リニ權限ヲ議長ニ與ヘ、議長ヨリ贊成ノ要不要ヲ定メタル後動議ヲ一同ニ上呈スルコトヲ主張スル。習慣ニ從ヘバ何人ヲ論ゼズ皆隨意ニ動議ニ贊成シ得ル。但シ贊成ハ必然的義務事項ニハ屬シナイガ、若シ何人モ贊成附和シナケレバ議長ハ附和ヲ求ムルコトガ出來ル。

特別ノ議案ヲ除イテハ議長ハ贊成附和ヲ待タズシテ直ニ動議ヲ上呈シテ差支ヘナイ。又議長ハ

其ノ事項ガ有益デアルト自覺シタナラバ自ラ動議ニ贊成スルコトモ可能デアリ、斯クスレバ一同ニ贊成ヲ請フノ煩ヲ免レルコトガ出來ル。

贊成ヲ必ズ要スルコトヲ固執シテキル團體ニ在ツテハ、其ノ動議ニシテ贊成ヲ得ナケレバ取消トナル。故ニ公正ナル議長ハ往々自カラ正式ノ一動議ニ贊成ヲ爲シ、其ノ取消サルルママニ放任スルヲ欲シナイノデアル。

第七項　贊成ノ形式

動議ニ贊成スルモノハ、必ズ動議ガ發セラレタ後ニ之レニ從ツテ贊成ヲ爲スノデアル。贊成ノコトハ固ヨリ正當ナ形式ニ從ツテ之ヲ行フ。卽チ起立シテ議長ヲ呼ビ其ノ承認ヲ得タル後「私ハ動議ニ贊成シマス」ト云フ。但シ贊成ハ本來重要ナ事項デハ無イカラ通常多クハ非公式ニ之ヲ行ヒ、議席ヨリ「動議ニ贊成ス」ト云ヘバ、議長ハ「某動議ハ已ニ發セラレ且贊成ヲ得マシタ」ト云フ。若シ動議ニシテ議長自ラ贊成ヲ爲シタ場合其ノ用フル言辭ハ前ノ場合ニ同ジ、或ハ「動議ハ斯ク斯クデアリマス」云々ト云フ。

贊成ヲ要シ無イ時ニハ議長ハ「動議ガアリマシタ」トカ「某々君ノ動議ハ斯ク斯ク」ト云フ。若シ議長ガ贊成ヲ得ント欲スル時ハ「此ノ動議ニ贊成スル方ハアリマセンカ」ト云ハネバナラヌ。必ズ贊成アルヲ要スト爲ス團體ニ於テハ、凡テコノ動議ガアレバ議員ハ直ニ贊成ス可キデアリ議長ノ請求ヲ待ツ迄モナイコトデアル。

斯クスレバ、時間ヲ節約シテ而カモ議長ガ再三復問スル手數ヲ免カレル。

第八項　極端ハ當然避クベキコト

公正ナル議長ノ常ニ避ク可キ兩極端ガアル。

其一、贊成ノ無キ動議ヲ取消スコト。

其二、余リニ急イデ動議ヲ上呈採決シテ討論ノ機會ヲ與ヘナイコト。

第一節ニ述ベタ議員指名ノ場合ニハ當然贊成ノアル方ガヨイ。其ノ故ハ指名ノ場合ハ全然討論ガ無イカラデアル。贊成ニ關スル規則ハ其ノ良善ヲ規定セントスト云フコトノ一事ニ存スルモノデアル。

附和ハ常務ニ在ツテハ當然必ズシモ固執スルニハ及バナイガ、之ヲ必要トスルノハ指名ノ議案、討論シ能ハザル動議並ビニ申訴ノ如キ事件ノ場合デアル。

本書ニ於ケル提出形式中ニハ附和ノコトハ省イテ用ヒテナイガ、各種團體ニシテ若シ本書ニ則ラントスルモノハ、任意附和ノ採否ヲ決スレバヨロシイ。

第二節　變則的動議並地位ノ釋義

第一項　動議撤回ノ公例

動議發セラルルモ未ダ議長ノ接述ヲ經ザルトキハ、本動議者ハ隨意ニ之ヲ撤回シテ差支ヘナイ。若シ既ニ議長ノ接述アリタル後ナラバ、滿場一致スルニ非ザレバ斷ジテ撤回スルコトハ許サレナイ。

蓋シ既ニ議長ノ接述ヲ經タル後ハ、該動議ハ當然會全體ニ屬シ本動議者一個人ニ屬スルモノデ無イカラデアル。且滿場ノ一致ヲ以テ會員一同ノ意思ヲ決定スルコトハ實際上最モ捷徑デアリ且妥當ナ方法デアル。若シ滿場一致ニヨリ大多數ヲ以テ此ノ問題ヲ解決スレバ、既ニ決定シタル後モ何人デモ再ビ同一ノ動議ヲ發シ得ルコトニナリ、斯ノ如ク重複スルトキハ徒ラニ時ヲ浪費シ事ヲ失スルノミデアル。又動議ガ已ニ修正ヲ經タル後ハ滿場一致ヲ以テスルモ尙撤回スルコトハ出來ナイ。蓋シ之レハ既ニ他種ノ手續キヲ經タモノデアルカラ自ラ他種ノ作用ガアルカラデアル。若シ動議ガ附和ヲ經タモノナレバ附和モ又撤回ヲ要スル。動議ハ撤回セラルレバ之ヲ記錄スル必要ハ無ク、動議ヲ發セザリシ以前ト何等選ブ所ガナイ。

第二項　撤回ノ方式

討論ノ際ニ動議者ニ於テ其ノ提案ノ不要且無意味ナルヲ悟リ、其ノ提案ヲ發セシヲ後悔スルニ至リタル時ハ、之ヲ撤回スルコトガ出來ル。其ノ方法ハ卽チ自ラ起立シテ議長ヲヨビ承認ヲ得テ「私ハ私ノ動議ヲ撤回シタイト思ヒマス」ト云フ。議長ハ次イデ之ヲ接述シ「某君ハ其ノ動議ノ撤回ヲ欲シテキマス、反對者ハ御座イマセンカ」ト云ツテ、少時回答ヲ待チ、若シ反對者ガナケレバ、卽チ一同ニ布告シテ「動議ハ最早撤回サレマシタ」ト云フ。若シ反對者ガアレバ起立シテ「議長、私ハ之ニ反對シマス」ト云ハネバナラヌ。

議長ハ其ノ時ハ「已ニ反對者ガアリマスカラ動議ハ撤回出來マセン。依然諸君ノ前ニ動議ハ提出サレテキマスカラ、ドウゾ討論ヲ續ケテ下サイ」ト云フ。

第三項　例外事項

前項ニ述ベタ動議ガ未ダ議長ノ接述ヲ經ナイ前ナラバ、其ノ動議ハ依然トシテ一個人ニ屬スルモノデ、動議提出者ハ隨意ニ撤回シテ差支ヘナイ。然シ動議者ハ理由アレバコソ提議シタノデアツテ、提出シテ直チニ撤回スル樣ナ事ハ斷ジテナイ。然シ時トシテハ事實關係ノ爲カ或ハ其ノ場ノ勢ノ然ラシメタ爲、動議者ガ不用意又ハ無意識ニ提出スル如キ場合ガ豫想サレナイ事ハナイ。